

K y u s h u

I n s t i t u t e o f

T e c h n o l o g y

平成28年度

現状と課題

九州工業大学大学院工学研究院・工学府・工学部自己点検・評価報告書

九州工業大学大学院工学研究院部局評価委員会

目 次

1	はじめに	1
2	工学部・工学府・工学研究科の教育	
2. 1	2016年度卒業生アンケート（工学部）	2
2. 2	2016年度修了生アンケート（工学府）	37
2. 3	教育達成度評価アンケート：雇用主（2014年3月以前卒業生）	60
2. 4	教育達成度評価アンケート：雇用主（2014年3月以前修了生）	66
2. 5	教育達成度評価アンケート：卒業生（2014年3月以前卒業生）	72
2. 6	教育達成度評価アンケート：修了生（2014年3月以前修了生）	77
3	大学院工学研究院・工学府・工学部の管理運営	
3. 1	大学院工学研究院・工学府・工学部の組織図	83
3. 2	各種委員会活動の点検・評価	84
3. 2. 1	大学院工学研究院部局評価委員会	84
3. 2. 2	工学部教務委員会	85
3. 2. 3	工学部学生委員会	91
3. 2. 4	工学部入学試験委員会	93
3. 2. 5	大学院工学府・工学部安全環境委員会	94
3. 2. 6	大学院工学研究院学術情報委員会	95
3. 2. 7	工学部広報委員会	97
3. 2. 8	大学院工学府学務委員会	99
3. 2. 9	大学院工学府入学試験委員会	102
3. 3	教員組織	105
3. 3. 1	教員の配置	105
3. 4	事務組織	107
4	大学院工学研究院・工学府・工学部の財政	
4. 1	運営費交付金配分状況	108
4. 2	科学研究費補助金の採択状況	109
4. 3	外部資金導入状況	110
4. 3. 1	寄附金（奨学寄附金）	110
4. 3. 2	共同研究	110
4. 3. 3	受託研究	110

4. 3. 4	寄附講座	111
4. 3. 5	寄附金の利息	112
5	大学院工学研究院・工学府・工学部と社会とのつながり	
5. 1	地域貢献活動	113
5. 1. 1	大学公開	113
5. 1. 2	公開講座等	114
5. 1. 3	北九州市民カレッジへの協力	118
5. 1. 4	出前講義	119
5. 1. 5	情報公開	127
5. 2	学生の国際交流	128
5. 2. 1	外国人留学生（国籍別・課程別・費用別）在籍状況一覧表	128
5. 2. 2	外国人留学生（学科別・専攻別）在学状況一覧	129
5. 2. 3	学生の海外派遣	130
6	おわりに	136

1. はじめに

平成28年度版九州工業大学大学院工学研究院・工学府・工学部自己点検・評価報告書「現状と課題」をここに発刊する運びとなりました。

本報告は、この「はじめに」の章に続けて4つの章

第2章 工学部・工学府・工学研究科の教育

第3章 大学院工学研究院・工学府・工学部の管理運営

第4章 大学院工学研究院・工学府・工学部の財政

第5章 大学院工学研究院・工学府・工学部と社会とのつながり

から成り、工学研究院・工学府・工学部の活動の評価資料です。

大学組織にとっても継続的に改善を行っていくことは極めて重要なことでありますが、そのためには現状を把握し、その評価結果を分析・記録し続けることが必要です。

本報告では大学における活動の実情のデータに加え、修了・卒業を控えた学生、修了・卒業した学生、修了生・卒業生を受け入れた企業に対するアンケートも実施し、その結果を分析しています。

これらの記録や分析結果は、各種委員会や教員にフィードバックし、大学の教育・研究の改善に繋げるべく利用されるものです。

なお、本報告書は平成18年度版以降、閲覧を便利にしてより社会に開かれた状態で大学の役割を知っていただけるよう、工学部のホームページにて掲載しております。

平成30年3月吉日

三谷 康範（大学院工学研究院部局評価委員会委員長）

2 工学部・工学府・工学研究科の教育

2. 1 2016年度卒業生アンケート（工学部）

※アンケート実施年月日 平成29年2月7日

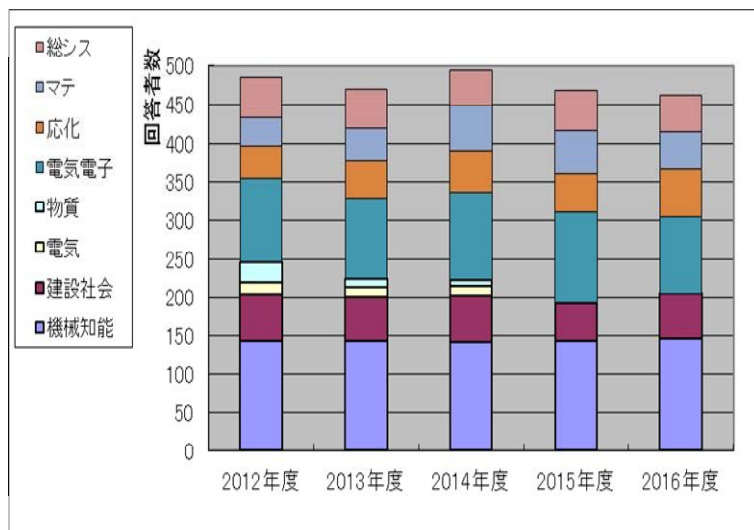
※アンケート回収率

学年	配付枚数	回収枚数（回答率）
4年生（卒業予定者）	561枚	463枚（82.5%）

[1]所属する学科・コース名を書いて下さい。

機械知能工学科（147名）
 建設社会工学科（59名）
 電気電子工学科（99名）
 応用化学科（61名）
 マテリアル工学科（50名）
 総合システム工学科（47名）

過去3年間の回答者数は減少傾向にあるが、過去5年間の回答者数は450から500の間で変動し、今年の実答率は80%を超えている。今後も、この程度の回答者数と実答率が維持されていくことを期待する。



[1-1] 3年次編入の人は[]に○を入れて下さい。 [20名]

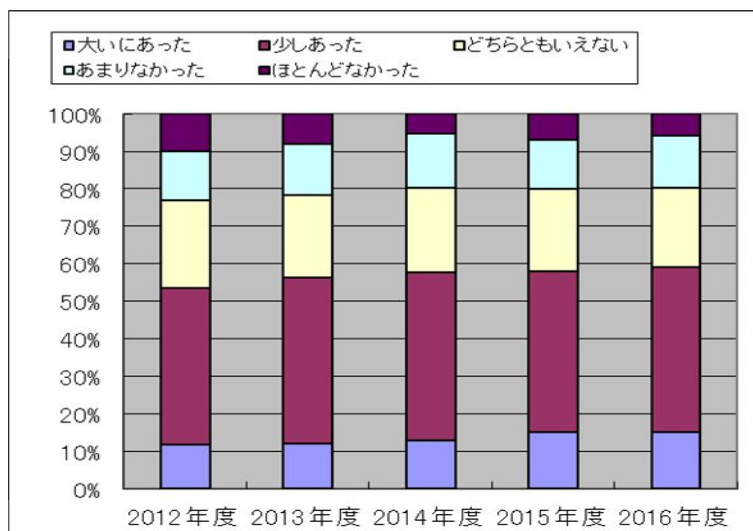
昨年と同様、今年も実答数20名という少ない数であったが、全実答数に対する割合は、全入学者数に対する編入学者数の割合よりも高い。編入生は大学に対してのつながりを好意的に捉えてくれていると判断される。ただし、20名は統計的な解析が行えるぎりぎりの数であり、過去4年の減少に加えて今後さらに減少するようであれば、何らかの対策をとる必要があると考えられる。



[2]大学教育があなたの成長（自己形成）に及ぼした効果についてお尋ねします。

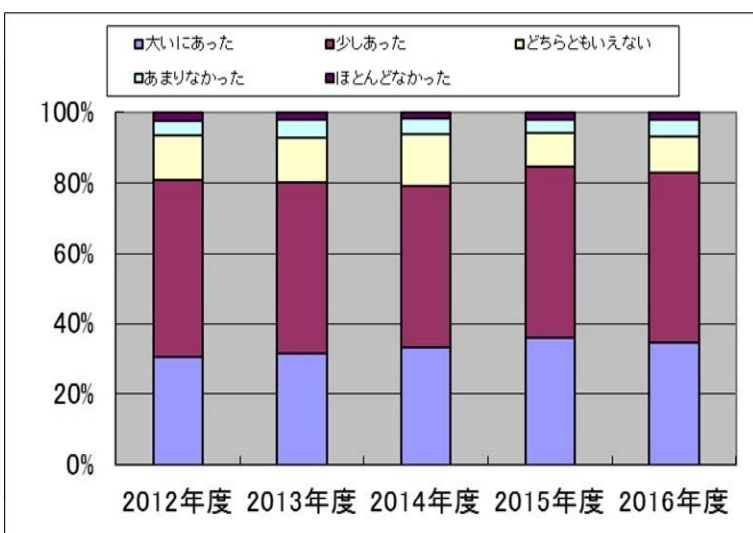
[2-1]人間科学科目はあなたの自己形成に効果がありましたか。（法学、経済学、社会学、哲学、倫理学、歴史学、語学、保健体育学、文学、教育学等）

ここ数年、「あまりなかった」および「ほとんどなかった」という否定的な回答をした者の割合は 20%程度に維持されている。これは、人間科学科目において学生が教育内容・状況を望ましく受入れていることと判断される。なお、今後、保健体育学がカリキュラムから削除されるので、今後の動向も注意すべきである。



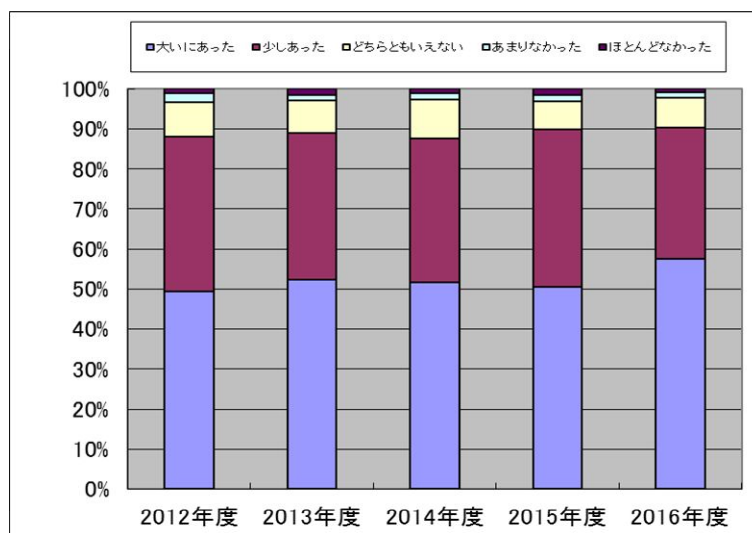
[2-2]工学基礎科目はあなたの自己形成に効果がありましたか。（数学、物理学、化学、情報関連基礎科目）

前問と同様、ここ数年の傾向の変化は極めて少なく、「大いにあった」および「少しあった」と回答した者の割合が 80%前後の高い水準で維持されている。逆に効果を否定的に評価した者の割合はかなり少なく、これにより工学基礎科目の教育が望まれる内容・状況に維持されていると判断され、今後もこの状態が維持されれば望ましい。



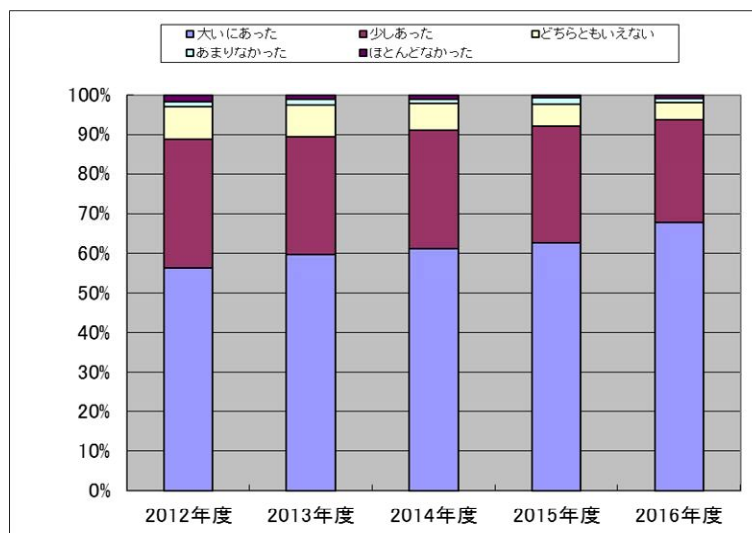
[2-3]工学専門科目はあなたの自己形成に効果がありましたか。

「大いにあった」と回答した数は昨年までより増加するとともに、「大いにあった」および「少しあった」と回答した学生の割合は昨年までと同様に90%に近い高い値を示している。本学の工学専門科目教育がこのように、学生にとって充実した内容で実際に役立っていると感じてもらっていることは、極めて好ましいことであり、これが維持されることが望まれる。



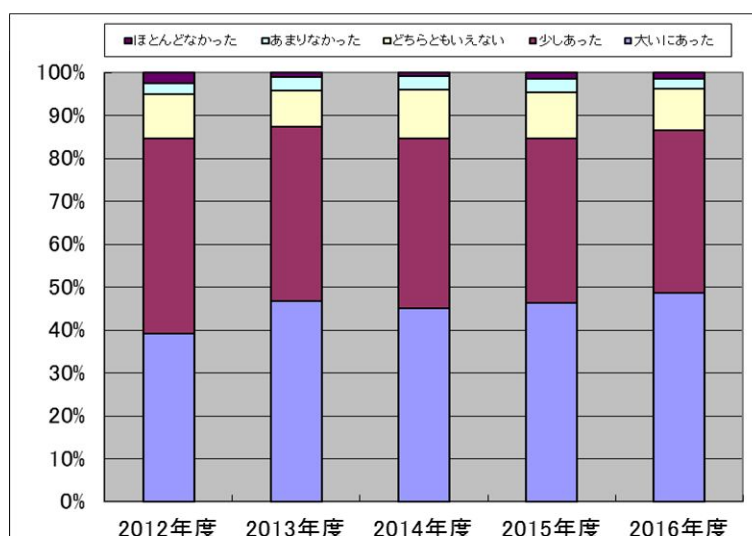
[2-4]卒業研究はあなたの自己形成に効果がありましたか。

「大いにあった」および「少しあった」と回答した割合は、過去5年間で最高の95%に近い値に増加している。「あまりなかった」および「ほとんどなかった」と回答した学生の割合は数パーセントにすぎず、大学に於ける卒業研究の意味が大きいことを裏付けている。



[2-5]実験・実習・演習・製図はあなたの自己形成に効果がありましたか。

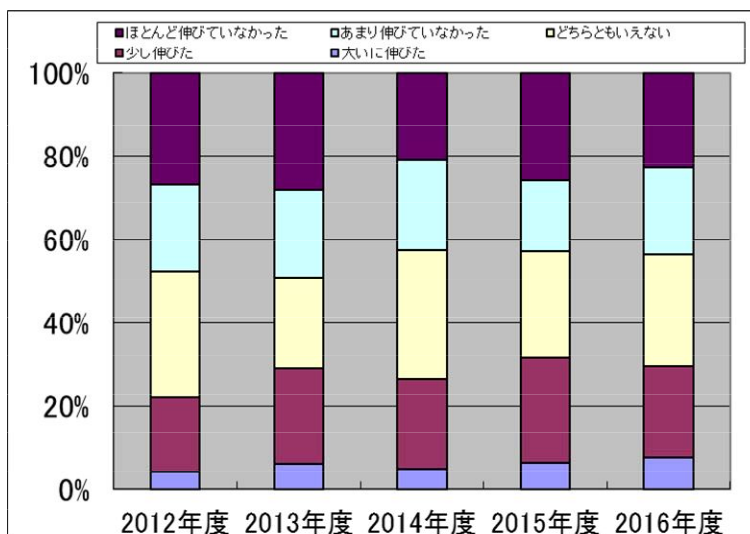
効果があった（「大いにあった」および「少しあった」）と回答した学生の割合は85%程度の高い水準を示している。これは工科系大学において重要な側面である実験や実習などの効果が大きいことの表れであり、この水準が今後も維持されることが望まれる。



[3]英語力についてお尋ねします。

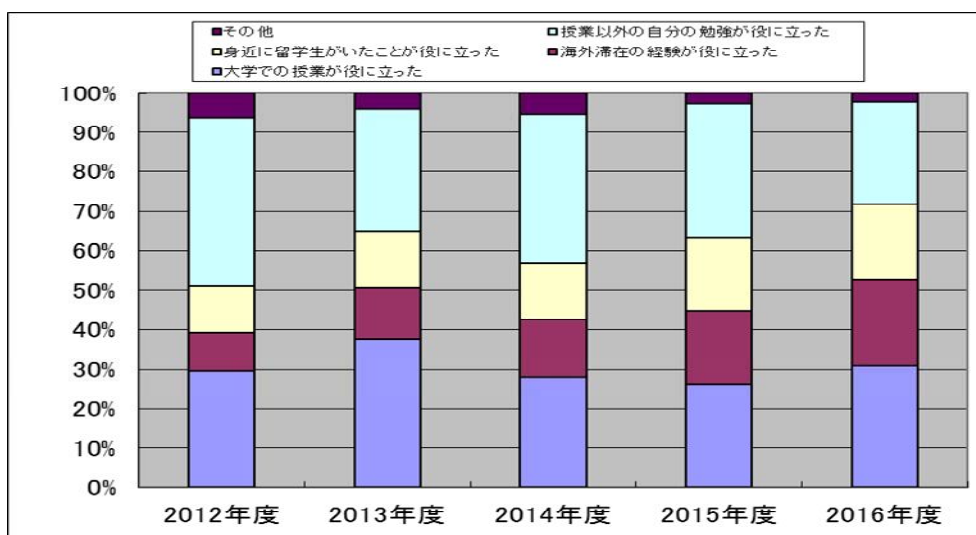
[3-1]大学の4年間であなたの英語力は伸びましたか。

「多いに伸びた」および「少し伸びた」と回答した学生数は約30%程度となり、昨年よりわずかに減少しているが、一昨年前までよりも高い値になっている。工学部では、英語学習に割くことのできる時間割合が少ないという現状、伸びたと実感するにはかなりの効果がないとそうは感じないことから、持続的な教育改善が行われており、徐々にその効果があらわれてきたものとする。



[3-2][3-1]でA（大いに伸びた）またはB（少し伸びた）と答えた方：その理由は何ですか。（複数回答可）

「大学での授業が役に立った」という回答数は昨年よりも増加したが、2013年度よりも低い。「身近に留学生がいたことが役に立った」および「海外滞在の経験が役に立った」との回答数の割合が40%程度まで増加している。これは、近年、本学の英語教育においては、これまでの一般的な講義以外の多様な選択肢を提供し始め、加えて自発的に自然に英語を身につけるような仕組みづくりが行われていることの結果ではないかと考えられる。



E（その他） [具体的に]

- ・ 研究室の環境がよかった
- ・ TOEICの点数があがった
- ・ 英語論文の読解が必須であったため
- ・ 会社の研修

[3-3][3-1]でD（あまり伸びていない）またはE（ほとんど伸びていない）と答えた方：その理由は何ですか。

英語の習得には、英語に接する機会、時間数が多いことが求められるが、工学部では、専門科目の時間数が多い分、英語の授業だけで全員の英語能力を伸ばすことには限界がある。専門科目においても英語に触れられる機会があれば、その分、別の時間を費やさず、かつ、将来彼らにとってより必要となる“エンジニアのための英語”が学べることとなる。本学では、グローバルエンジニアのための英語教育を含む GCE 教育が緒に就いたところであり、英語力や英語教育の評価としては、今後、この GCE 教育の成果も含めて評価し、検討すべき段階にきていると考える。

- ・ 単語を忘れている
- ・ 高校の時の方が難しかった
- ・ 一時的なもので継続性がなかった
- ・ 英語にふれる機会があまりなかった。
- ・ 自分が意欲的に英語を学ばなかったから
- ・ 英語にふれる機会が少なかった
- ・ 時間がない
- ・ 苦手だったから
- ・ 英語の勉強を疎かにしていた
- ・ 英語の勉強にあてた時間が少なかった
- ・ 高校時の方が英語の勉強していたため
- ・ 授業が中学生レベルだった
- ・ 勉強を継続してなかったから
- ・ あまり勉強しなかったから
- ・ ほとんど勉強をしていないから
- ・ 英語の授業が無くなってから、卒論の参考資料として英語を読むまで一切英語に触れていないため
- ・ 将来、英語を使う必要があるか分からず、意欲を持って授業をうけていなかったから
- ・ 授業中何を言っているのか分からなかったから
- ・ 十分な時間をかけて、取り組めていなかったから
- ・ 英語に接することがなかった
- ・ 実用的な英語が身に付かなかった
- ・ 役立つ英語を学んでいる感じがしなかった
- ・ 勉強不足
- ・ 時間数が少ない
- ・ 英語力が付く程の勉強をしなかった
- ・ 授業以外で英語を使ってないから
- ・ 英語にふれる機会が少なかった
- ・ TOEICの点数が伸びていない点
- ・ 英語の学習にあまり力がいかなかったため
- ・ 勉強しなかったから
- ・ 未だに英語を聞き取れない
- ・ 留年したので忘れてしまった

- ・ 授業時間が少ないから
- ・ 授業が簡単だった。英語にふれる機会が少ない
- ・ 授業は、1、2年の時のみであり、継続してなかったため
- ・ 英語にあまりふれなかった
- ・ 入学前より勉強量が減ったから
- ・ あまり勉強しなかった
- ・ 授業のレベルが低く、勉強する機会があまりなかった
- ・ 自分なりに勉強をする時間がなかったから
- ・ まじめにとりくまなかった
- ・ 英語に関わるのが授業以外であまりなかったから
- ・ 講義の内容がそこまでよくない
- ・ TOEICの点数が上がらなかったから
- ・ 1～3年のとき、英語にふれる機会が少ない
- ・ 英語の勉強が足りなかった
- ・ 会話に結び付かないため
- ・ 自分でしっかり勉強することがなく、使う機会も減ったから
- ・ 高校生の時の方が勉強量が多かったから
- ・ 努力が足りなかった
- ・ 高校の時と比べて、英語に触れる機会が減ったから
- ・ TOEICの点数
- ・ 日常で英語を使うことがない
- ・ 勉強する機会が少なかった
- ・ 英語にふれる機会があまりなかった
- ・ 英語に触れる機会が少なかった
- ・ 英語を使う機会がなかったので伸びていることを実感できなかった
- ・ 習慣的な学習をしてないから
- ・ 日常的に英語をつかわなかったからと考えています
- ・ 実践的なことをせず、中学・高校の復習だった
- ・ 結局週1のみの勉強じゃ意味がなかった
- ・ 高校までに比べてかなり英語ふれる機会(授業)が少なかったので
- ・ 時間が少なすぎる
- ・ 英語の授業が少ないから
- ・ 英語を実際に使う機会が少なかったため
- ・ 英語がまったくわからない
- ・ 英語にふれる機会が減った
- ・ 将来の夢や地元PRなど日本語でも話さないような科目の作文が苦痛だったから
- ・ 英語について何もしてこなかったため
- ・ 3、4年次に勉強する機会が少なかった
- ・ 英語を使う機会が少ない
- ・ 授業以外の勉強をしていなかった

- ・ 高校受験ほど英語に向き合う機会がなかった
- ・ 英語を使う機会が少ない
- ・ 力が伸びるような考え方ではなかった
- ・ 英語を日常的に使用しなかったため
- ・ 英語をしてなかったため
- ・ 高校時と比べ触れる機会がない
- ・ 英語の講義が少なく、自主的な勉強をしなかったため
- ・ もともとできている
- ・ 高校の延長のような授業だったから
- ・ 時間経過により高校英語を忘れたため
- ・ TOEIC等のテストをしてなかったので伸びた実感がないから
- ・ 英語の授業が2年までで終了して、その後ふれる機会が少なかったため
- ・ 英語に触れる機会が減ったため
- ・ 内容がうすかった
- ・ 英語を話す。勉強する機会も少なく、気持も少なかった
- ・ 授業以外に学習の時間を設けられなかった
- ・ 英語が嫌いだった
- ・ 知識を覚えるための学習が多いからではないでしょうか
- ・ 自主的に英語を勉強する機会が少なかった
- ・ 勉強してないから
- ・ 英語を使う機会があまり無かった。
- ・ 高校の時の方が勉強したから
- ・ 意識的に勉強をあまりしていない
- ・ 高校時代に比べて英語の学習時間が少なくなったから
- ・ 英語の勉強をほとんどしなかったから
- ・ マレーシアの留学生と意思疎通ができなかった
- ・ 英語にふれる機会がほとんどなかったため
- ・ 英語に触れる機会が少ない
- ・ 実践も、テスト(TOEIC)の勉強もなく、身につかない授業だったから
- ・ 勉強してない
- ・ 英語に関わる機会が少なかった
- ・ 目標がなく、やる気を持てなかった
- ・ 英語を使う機会が高校のときよりも減ったから
- ・ 使用する機会がないため
- ・ 英語に触れる機会がなかった
- ・ 英語を学ぶ機会が少なかった
- ・ 英語に興味を持てなかった
- ・ 英語にふれる機会がなかったから
- ・ 英語に触れる時間が無い(暇がない)
- ・ 授業どうこうではなく、日常的に英語を使わないので、英語学習のモチベーションが上がらなかった

- ・ 英語の勉強時間が減ったため
- ・ 英語にふれる機会が減った
- ・ 英語に接する場が減ったため
- ・ 英語に触れ合う機会が少なかったので、レベルが低かったから
- ・ 英語にふれる機会が少ない
- ・ 忘れる
- ・ 高校で習った事以上のことを習えなかった
- ・ 英語に関わる機会が少なかった
- ・ 英語を学ぶ時間が減った
- ・ 英語をつかっていないから
- ・ 英語で学ぶ時間をあまり設けていなかったため
- ・ 英語を扱う機会が少なかったから
- ・ 英語が嫌いなため、講義にみが入らなかったから
- ・ 勉強したから
- ・ 実践的な英語学習とはいえないと感じたため
- ・ 勉強してない
- ・ 授業以外で勉強することがなかった
- ・ 英語を使う場が減少したため
- ・ 中学、高校での英語教育との違いがなく、ただ文章を読むだけだったから
- ・ 学習を怠ったから
- ・ 授業以外での努力が足りなかった
- ・ 英語を勉強しようと思わなかった
- ・ 必修の授業内容を鑑みて、伸びるとは思えない
- ・ 使う機会がなかった
- ・ 英語の授業が少なく、また自主的に参加できる授業があまりなかったため
- ・ 英語に触れる機会が減ったため
- ・ 英語の授業にあまり力を入れていない
- ・ 英語を使う機会が少ない
- ・ あまり勉強しなかったから
- ・ 伸ばそうと努力していないため
- ・ 少ししか学ぶ機会がなかった
- ・ リーディングが大半であり、特にスピーキングの力がまったく伸びないため
- ・ 英語に接する機会が少なかった
- ・ スピーキングが伸びるようなカリキュラムがなかった
- ・ 授業が難しくない
- ・ 授業以外であまり勉強しなかった
- ・ 高校まで読み書きはきたえられたものの、会話などすることもなかった
- ・ 英語の勉強をしなかったから
- ・ 特に何も行わなかったから
- ・ 勉強していない

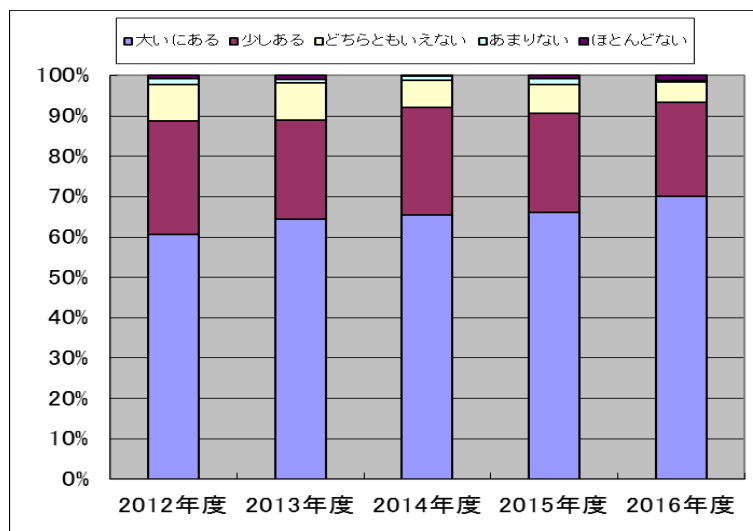
- ・ 英語に触れる機会が少なかったため
- ・ 3年次以降英語に触れる事がなかったため、むしろ低下しました
- ・ 全く勉強していないため
- ・ 実践する機会が無かったから
- ・ 高校より英語が読めなくなったため
- ・ 今でも英語読解に自信が持てないため
- ・ 授業以外に英語を学べなかったから
- ・ 大学院試で受験科目に無かったから
TOEICの点数が加算されているらしいが、他の科目を重視した方が魅力がある
- ・ 自主的に取り組まなかった。楽しめなかったため
- ・ 勉強をほとんどしていない
- ・ トーイックの点数が良くなかったから
- ・ 編入生のため、英語の授業を受けていないので
- ・ 日頃英語にふれる機会が少なかった
- ・ 大学で授業を受ける機会がなかったため
- ・ 実際に話す場がほしい
- ・ 勉強不足
- ・ 忘れてしまった。
- ・ 内容が身につかなかった
- ・ 授業が少なくレベルも低い
- ・ 英語教育に力を入れてないと感じたから
- ・ 英語を活用する機会をとれなかった
- ・ レベルが低かった
- ・ 勉強してなかったから
- ・ TOEICの点数が上がらない
- ・ 高校のときの方が英語を使っていたから
- ・ 英語の勉強をしていないため
- ・ 必要なのは分かっているが、やる気が出なかった
- ・ 講義が実用的でない
- ・ 使う機会がなかったため
- ・ 工業科目の学習に時間を割いたため、英語の学習にあまり力を入れられなかった
- ・ 高校よりも英語にふれる時間が減った
- ・ 自主学習でのみ英語力が伸びる環境の中、あまり力を入れていなかった
- ・ あまり英語学習をしなかった
- ・ 英語の勉強をしていないため
- ・ あまり英語の勉強に取り組まなかったため
- ・ 苦手分理だったため避けていたから
英語の授業が2年後期までしかなく院試も英語の科目がなかったため、英語を勉強する機会が減った
工学科目の勉強をやっていると英語の勉強をやるほどの時間がない
勉強がおろそかだった

TOEICの点が入学時とあまりかわらなかったため
TOEICをうけなかったため
実際に使う機会がなかった
TOEICの点があまり伸びていなかったから
勉強していなかったから
英語を使う頻度が激減したため
卒論などで求められる力と授業内容がかけ離れすぎている

[4] 卒業研究についてお尋ねします。

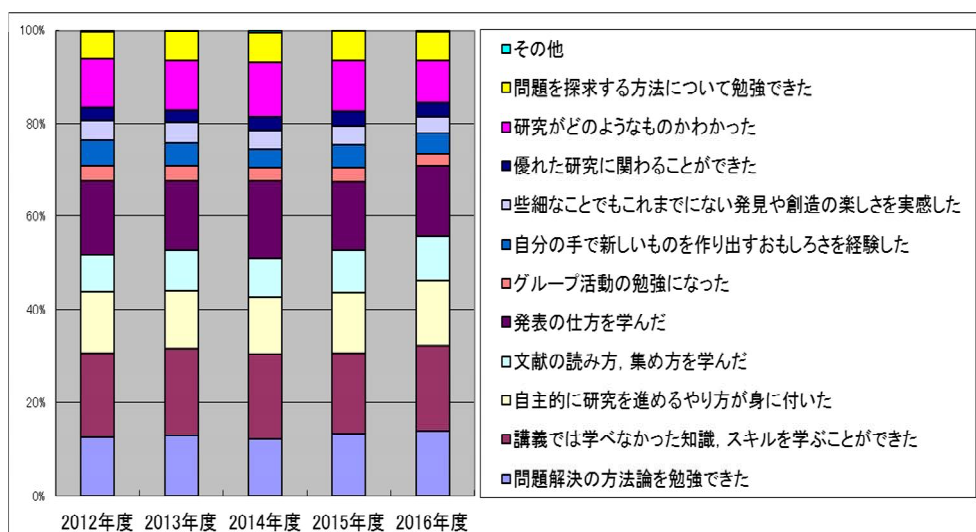
[4-1] 卒業研究の意義はありますか。

「大いにある」および「少しある」と回答した学生の割合は、例年約 90%程度と非常に高く維持されており、本年は最高値の 93%程度になった。卒業研究の意義が高いものであることは、恐らくすべての教員の思いであろう。それは工学が、それまでの学んだ座学をもとに実際にどのように展開できるかを目的としたものであるから当然の帰結として反映されているためであろう。今後もこの状況が維持され、実践力の身についた学生を社会に送り出せるようこの傾向が維持されたい。



[4-2] [4-1]でA（大いにある）またはB（少しある）と答えた方：その理由は何ですか。（複数回答可）

過去5年間を通して理由の変化はほとんどなく、講義では学べなかった知識・スキルが学べた、発表の仕方が学べた、問題解決方法論が学べた等が多く、他にも様々な理由を挙げている。工学部では多くの実践的・応用的な能力の向上を卒業研究を通じて得ることを目的としており、回答の分類結果はこの目的が達成されていることを示している。



L（その他） [具体的に]

- ・ 計画立てて進めていく大切さを改めて学んだ
- ・ やりたいことだけができるから
- ・ 作業の効率化について学んだ
- ・ 自分で考える力がついた
- ・ 精神面が鍛わった
- ・ 自分で問題点をまとめ、相手に伝える力がついた

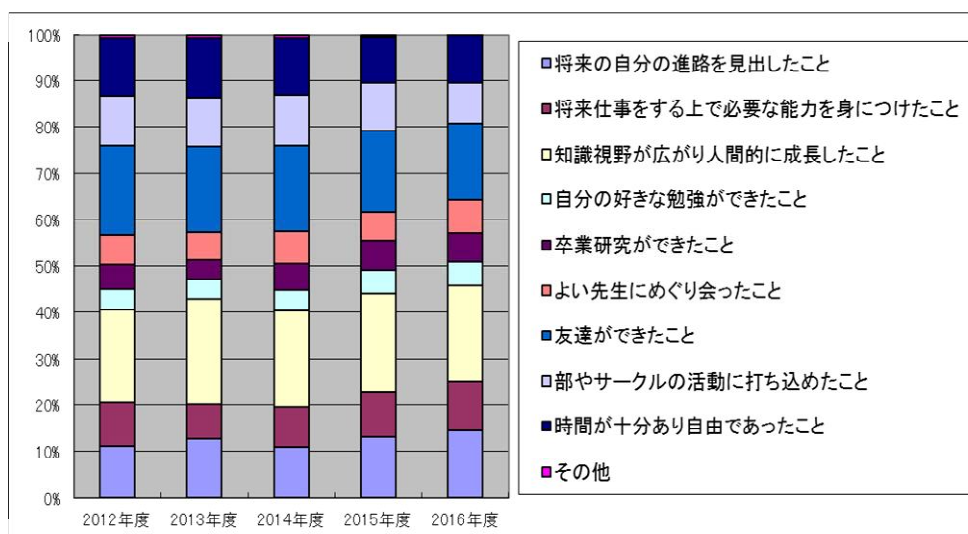
[4-3][4-1]で卒業研究の意義がD(あまりない)またはE(ほとんどない)と答えた方：その理由は何ですか。

毎年、僅かではあるが、卒業研究に意義がない（「あまりない」または「ほとんどない」）と回答する学生は必ずいるが、少数のこれらの学生をさらに減らすことは容易ではないであろう。何故なら、恐らくその理由が、自分自身の希望した研究テーマが思いのものと異なっていた等の理由で卒業研究を行う意欲が低くなってしまったことや、学生が研究テーマの意義を理解しようとししない等が原因ではないかと推察されるからである。研究室配属方法の工夫等でこれを何とか低減する努力は必要であろうが、なかなか難しい問題である。

- ・ 卒業研究には意義があると思うが卒業論文として提出する意義がない
卒業論文は時間の無駄だと思う
- ・ 自分の思い通りの研究ができないため
- ・ 就職に使わないから

[5]大学生活を振り返って、どのようなことがよかったですか。（複数回答可）

進路選択への意義、仕事従事への準備、良い友人や先生との出会い、知識や視野の広がり等々、大学学生生活の意義は各人多様であり、多面的でバランスの意義を彼らは感じている。この結果は、本学が提供している学業内容や学生生活に係る事項が、大学生活を全般的に有意義にさせる内容であることの証しであることを示しているものと思われ、心強い結果である。



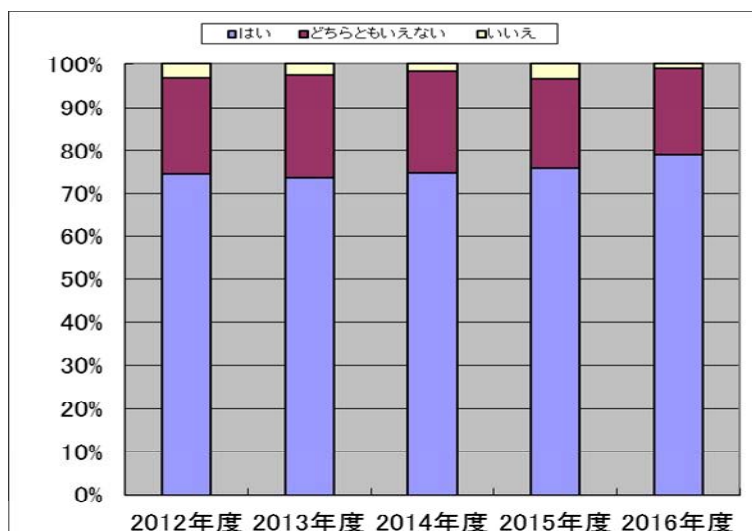
J（その他）[具体的に]

- ・ 成績で金銭的に得をできた
- ・ 自分のことを考える時間を作れたこと

[6] 入学した学科についてお尋ねします。

[6-1] 現在の学科に入学してよかったと思いますか。

「はい」と答えた学生の割合が過去5年間で最高の80%程度になった。希望の大学や希望の学科に入れなかった者もいることを考えれば、学生たちが現在の学科の教育内容自体に十分満足していることを示していると判断できる。今後もこの傾向を維持できるよう教員の努力が期待される。



[6-2] [6-1]でC(いいえ)と答えた方：その理由は何ですか。

「いいえ」と答えた学生の割合が過去5年間で最低（1%程度）になった。学科（コース）での教育内容に適応できなかった学生や将来を考慮した学科（コース）選択ができていなかった学生が過去5年間で最も少なかったことを示している。例えば、大学受験時の成績の合格基準に基づく学科選択や、大学1年次の成績やその年の人気などに基づいたコース選択を行い、その学科やコースのことをよく知らなかった可能性が考えられる。この対策として、大学での教育内容が大学や学科を選択する際に重要であることを高校などで周知する（してもらう）こと、将来を見据えてコースを選択することを1年次に啓蒙することなどが考えられる。一方、入試やコース配属方法などの弾力的運用により対応する方法もあろうが、その方法については慎重に選択しないと、むしろ逆効果が生じる可能性があるので注意が必要である。

- ・ 元々学科選択の動機が不潤だったから
- ・ 別職につけない
- ・ 興味のある事ではなかったため
- ・ 授業内容にあまり興味が持てなかった

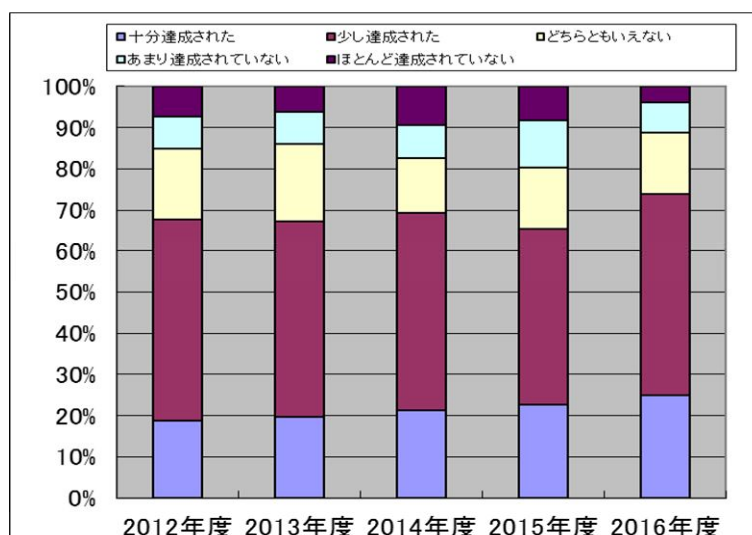
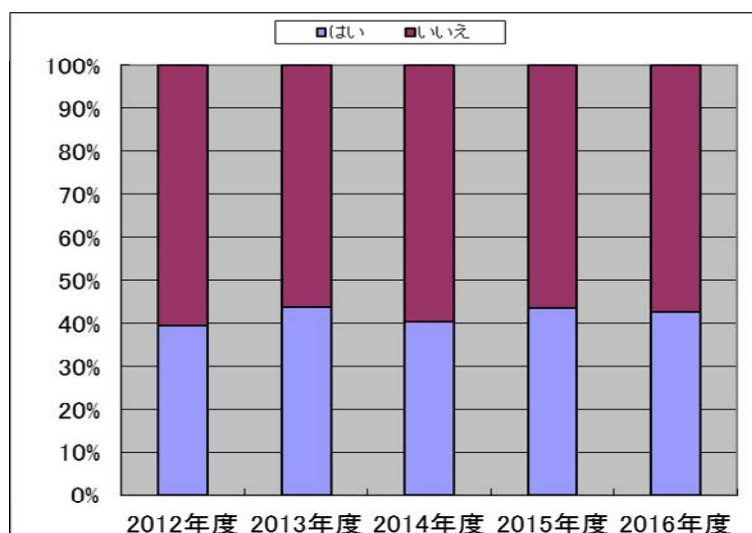
[7]入学時の目標の達成についてお尋ねします。

[7-1]あなたは入学の時に大学で達成したい目標がありましたか。

目標設定をどうとらえるかは個人の考え方や目的意識レベルにも依るので、この数字をどう捉えるかは容易ではないが、過去5年間では例年約40%の学生が入学時に達成したい目標を持っているに過ぎない。諸外国に比して、日本人は概して強い目的を持たない／表明しない傾向にあるとも聞くので、安易な判断は出来ないが、目的や目標を設定することの必要性がもう少し強調された教育が幼少期から必要なのかもしれない。

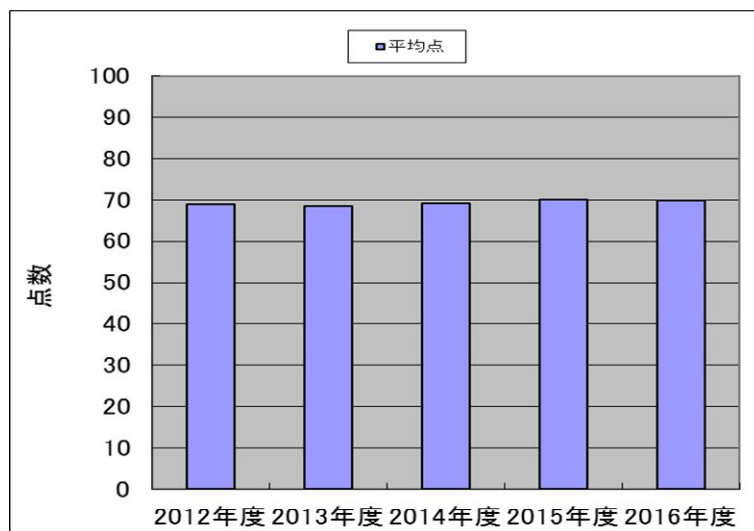
[7-2][7-1]でA（はい）と答えた方、それは現在どの程度達成されていますか。

過去5年間を通して、「十分達成された」および「少し達成された」と感じている学生の割合が70%程度いることは、かなり良い結果であり、本学の教育や環境が彼らの努力を实らせるに足る有用なものであったと判断される。



[8]在学中の学生生活の満足度に対して100点満点で点を付けるとすれば何点と思いますか。

ここ数年、数値にほとんど変化はなく、彼らの満足度は70点近くが維持されている。満足度はむしろ希望が高いことで低く出がちと思われるが、70点という点数は高水準とも理解される。教員は学生とともに引き続きこの点数を維持・向上できるよう努めることが望まれる。



[9]卒業により取得予定の資格についてお答え下さい。

(本学の教育目標に適合しない資格(自動車免許等)は除外します。)

[9-1]あなたは教員免許取得を目標としていましたか。

教員免許の取得を目的としている学生の割合はずっと10%を下回るレベルで推移している。本学の卒業生は、当初からエンジニアを目指している場合が殆どであり、教員免許を取得し、教員になることを目的に入学する者の数はもともとそれほど多くないことは自然なことと思われる。しかし教員取得希望を持っている者がこの程度はいるということも認識はしておかなくてはならない。



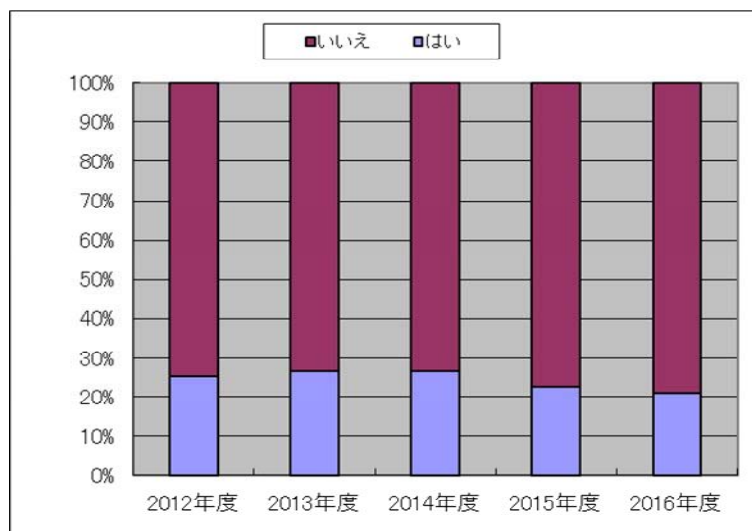
[9-2]教員免許(数学)が可能でしたら、あなたは取得を希望しましたか。

今回の調査でも、数学教員免許取得が可能ならば希望したと答える者は25%程度いる。これは数学免許が学生募集に有効である可能性を示唆するが、実際には、選択のカリキュラムなので、はじめ希望しても途中であきらめる学生が相当数出てくると考えられる。この回答があったことを把握した上で、数学教員免許取得が可能となるスタッフの増員とカリキュラムの編成についてはより詳細に検討する必要がある。



[9-3]あなたは卒業後資格(教員免許を除く)を取得する予定ですか。

就職先の業務との関連等での取得を検討した結果として回答していると考えられる。多岐にわたるいずれのエンジニアの分野でも、資格を得ることが必須であったり、昇進に有利であったりするので、このような約20%の結果が出たのではないかと考える。



[9-4] [9-3]でA (はい) と答えた方：どのような資格を取得する予定ですか。

自分が就職する会社の分野や業務内容をもとに、様々な資格の取得について検討しており、望ましいことであると考え。

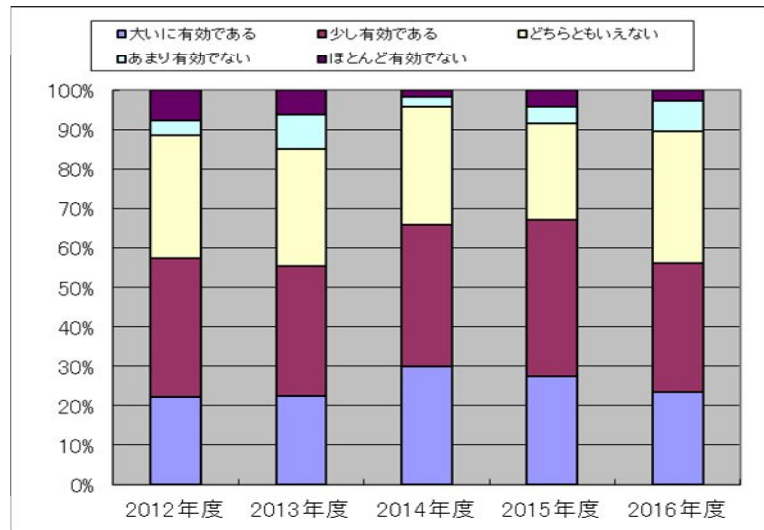
- ・ 電験
- ・ 電検
- ・ 電気主任技術者
- ・ 電気主任技術者
- ・ 電気主任技術者、電気工事士
- ・ 電験3種
- ・ 会社で使えるもの
- ・ 具体的にはありません
- ・ 応用情報処理

- ・ 電験3種
- ・ 電気主任技術士
- ・ 電気主任技術者
- ・ 電気工事士
- ・ 電検など
- ・ 電験
- ・ 危険物取扱
- ・ 危険物取扱、毒物
- ・ 就職先で必要な資格
- ・ できるだけ多く
- ・ 技術士
- ・ 危険物取扱
- ・ FEC(基本情報処理)
- ・ 危険物取扱
- ・ 危険物取扱者甲種
- ・ 仕事に役立つもの
- ・ 危険物・甲種など
- ・ 危険物など
- ・ 未定 仕事関係による
- ・ 職に関連する資格を取得したいため、具体的に定まっていない
- ・ 技術士(建設部門)
- ・ 一級建築士 二級建築士 インテリアコーディネーター
- ・ 2級建築士
- ・ 建築士資格
- ・ 技術士
- ・ 一級建築士、2級建築士
- ・ 技術士
- ・ 二級建築士
- ・ 技術士
- ・ 土木専門の資格
- ・ 二級建築士
- ・ 技術士
- ・ 技術士(建築), 土木施工管理技士
- ・ 二級建築士, 一級建築士
- ・ 二級建築士
- ・ 建築士資格
- ・ 二級建築士, 一級建築士
- ・ 建築士
- ・ 技術士の資格
- ・ コンクリート技士

- ・ 土木施工管理士, 技術士
- ・ 土木施工管理技士
- ・ 技術士
- ・ 技術士、施工管理技師
- ・ 一級建築士
- ・ 2級建築士 1級建築士
- ・ 技術士
- ・ 技術士 土木施工管理技師等
- ・ 技術士、一級土木施工管理技師
- ・ 土木一級
- ・ 土木技術士
- ・ 技術士
- ・ 建築士
- ・ 技術士
- ・ 建築士一級, 施工管理技師
- ・ 基本情報処理
- ・ 高等学校数学第1種
- ・ 応用情報技術者
- ・ 技術士
- ・ 仕事で必要となる技師資格
- ・ 基本情報技術者、応用情報技術者
- ・ 専門的な資格(職に役立つ)
- ・ 電気主任技術者
- ・ 会社で必要なもの 品質管理
- ・ CAD
- ・ 仕事に必要な資格
- ・ 仕事に必要なもの
- ・ 仕事に必要なものを適宜
- ・ 宅建、ファイナンシャルプランナー
- ・ 技術士
- ・ 会社で必要な資格
- ・ 仕事に関する資格
- ・ 未定だが、何かしら取得し活動の幅を広げたい
- ・ 電気工事士
- ・ アマチュア無線3級、移動式クレーン運転士、玉掛け技能士
- ・ 将来の職次第
- ・ 設計関係
- ・ 電気工事士
- ・ 危険物、日商
- ・ Python3 エンジニア 認定基礎試験

[9-5][9-3]でA（はい）と答えた方：大学の授業は資格取得に有効ですか。

「大いに有効である」および「少し有効である」とした回答数は昨年より約 10%程度減少し、2013 年度と同程度になった。これは JABEE の技術者教育プログラムの受審活動が一段落したことと関連すると考えられる。直接的に資格取得を目的に大学の授業を行っているわけではない中で、大学で学ぶ内容が資格取得にも有用的に関連していると認識されていることは、工学部における技術者教育という観点からは好ましいと言えるであろう。資格取得をより意識した授業内容にするのかは議論が必要である。



[9-6][9-5]でD（あまり有効でない）またはE（ほとんど有効でない）と答えた方：その理由は何ですか。

本年度は「あまり有効でない」および「ほとんど有効でない」とした回答数は約 10%であり、昨年より多いものの3年前までよりは少ない。これは工学部全学科全コースが JABEE の技術者教育プログラムの受審活動が一段落したことと関係すると考えられる。その他にも各学科で用意する資格があるが、それらの資格以外を希望する学生や、資格とは関係なく勉学に集中したい学生が、本質問の回答者であると判断できる。

- ・ 資格試験の内容と授業内容が一致していない
- ・ 電験3種を2年夏に受験できるようになっていないから
- ・ 関連がない。
- ・ 就職に必要でないと判断したから
- ・ 資格がないから
- ・ 資格試験についての勉強がない
- ・ 自分で考えなくても式がわかれば解けるテストや、他人のものを映したレポートの方が表価の高い実験等、無意味な授業が多いから
- ・ 資格取得に関するサポートはなかったから
- ・ 対策講座などが必修でなかったため
- ・ 資格に対してのみならず、今後使用するであろうPCそのものの使い方すら学べないから
- ・ 大学の授業は資格取得を目指すものではないから
- ・ 時間
- ・ 教員免許について、取得しやすい環境でないため

分野が違うから

授業でPythonプログラミングを習わないため

[10] 卒業後の進路についてお尋ねします。

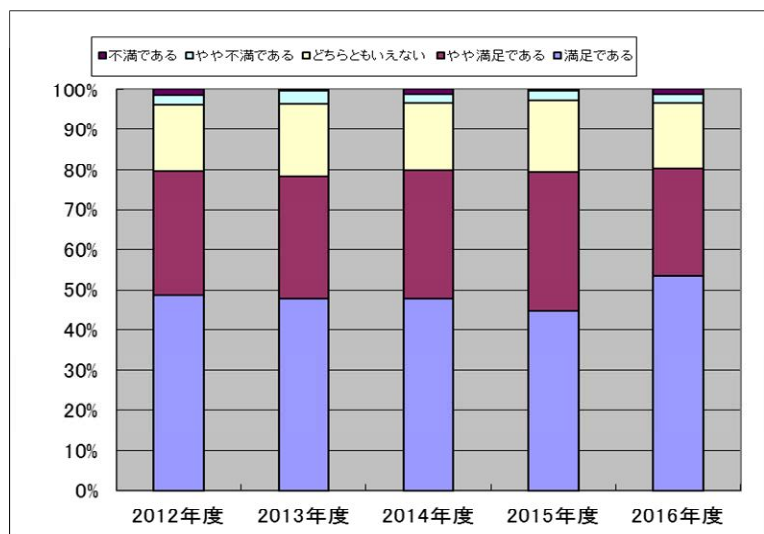
[10-1] あなたは卒業後就職しますか、進学しますか。

若干の変動は見られるものの、就職率は 30%~40%、進学率は 60%~70%の間で推移している。



[10-2] あなたは卒業後の進路に満足していますか。

「満足である」または「やや満足である」とした回答が、約 80%あり、高い満足度を保っている。



[10-3] [10-2] でD（やや不満である）またはE（不満である）と答えた方：その理由は何ですか。

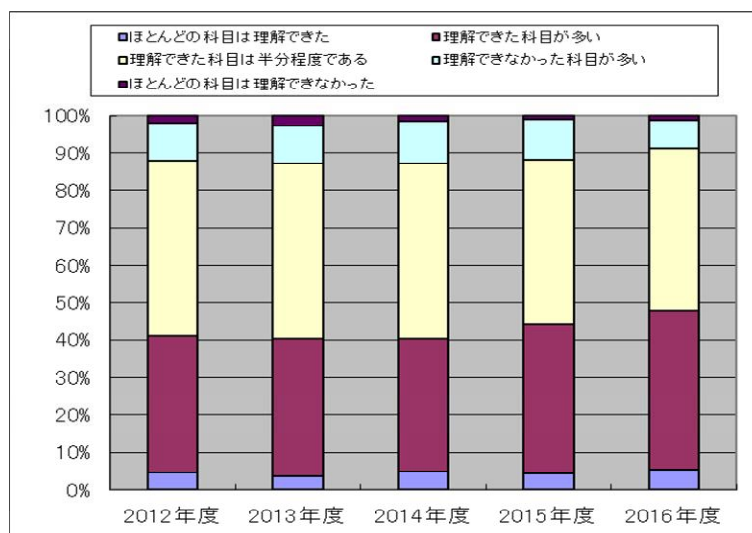
該当者は全体の 5%弱であるが、様々な思いが見られる。自分の希望通りにいかなかったことを挙げるものが多い。

- ・ 福岡を離れること
- ・ 第1希望のところではないから
- ・ やりたい事ではなかったため
- ・ 自分がしたい分野でなかったため
- ・ 就職できるならそれに越したことはなかった
- ・ 大学院試験に失敗して選んだ進路だから
- ・ 研究室が非常につらいから

- ・ 未定であるため
- ・ アカハラ
- ・ 外部受験に失敗したため
- ・ 行きたい業界ではないから
- ・ 第一希望には行けなかった
- ・ 就職先が決まってから自分のやりたいことに気づいたから

[11] これまでに受講した科目の理解度はどの程度ですか。

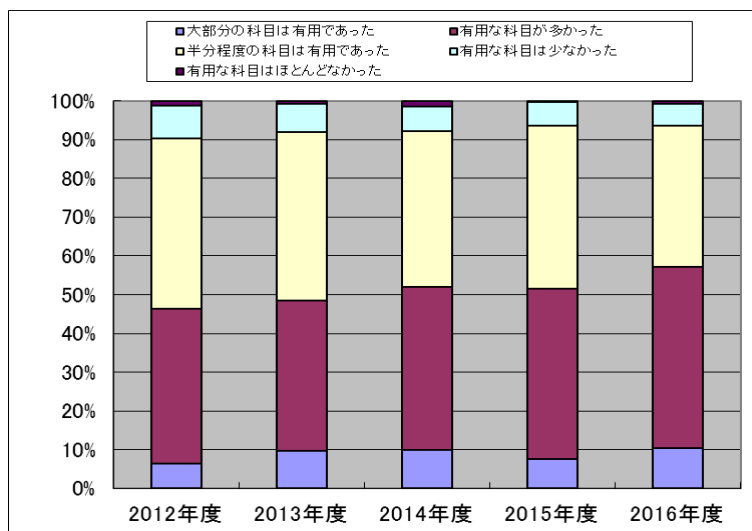
「ほとんどの科目は理解できた」
または「理解できた科目が多い」
とした回答が、2012 年度から 2014
年度まではほぼ 40%であったが、昨
年度から本年度にかけて 50%弱
まで増加した。



[12]履修価値のあった科目の割合についてお尋ねします。

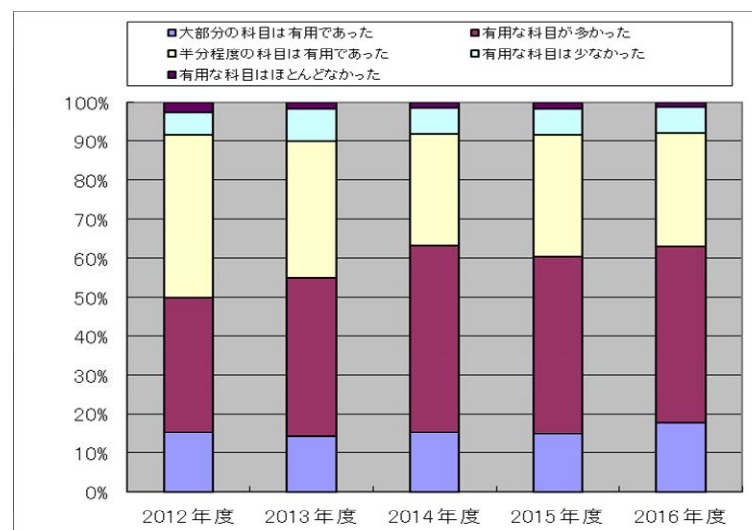
[12-1]受講した講義科目（演習科目を含む）の中で、自分自身の成長のために有用であり、履修価値があった科目の割合はどの程度ですか。

「大部分の科目は有用であった」と「有用な科目が多かった」する回答が55%を超えているが、今後はどのような科目を有用でないと感じているのかを分析していく必要がある。



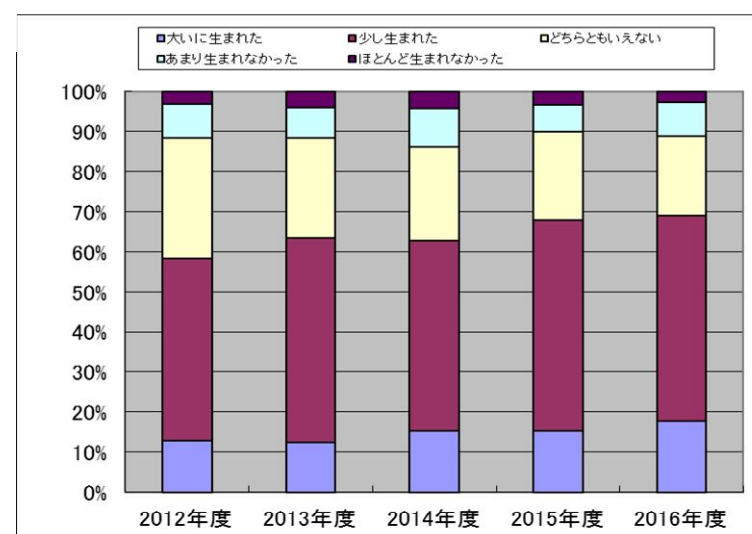
[12-2]受講した実験・実習科目の中で、自分自身の成長のために有用であり、履修価値があった科目の割合はどの程度ですか。

「大部分の科目は有用であった」または「有用な科目が多かった」とする回答は、近年、増加傾向にあり改善が見られる。



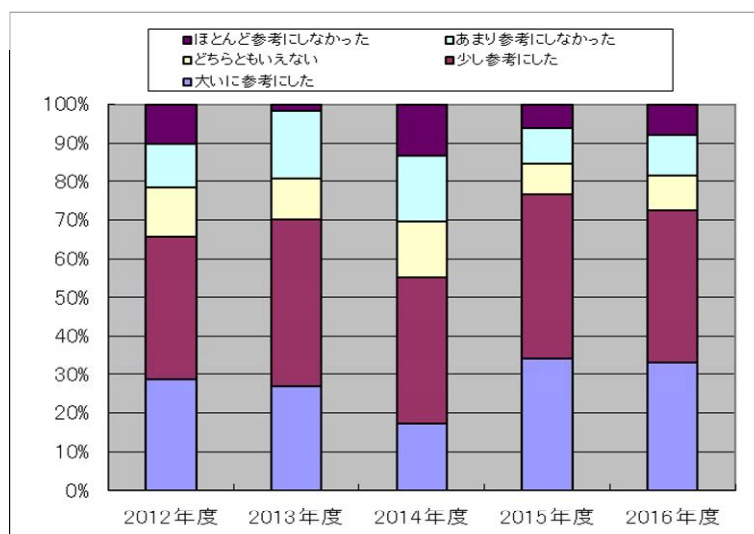
[13]大学における教育により、将来への自信や意欲が生まれましたか。

大きな変化は見られないものの、近年、「大いに生まれた」または「少し生まれた」とする回答が僅かに増加している。



[14]講義科目を選択する際に、シラバスを参考にしましたか。

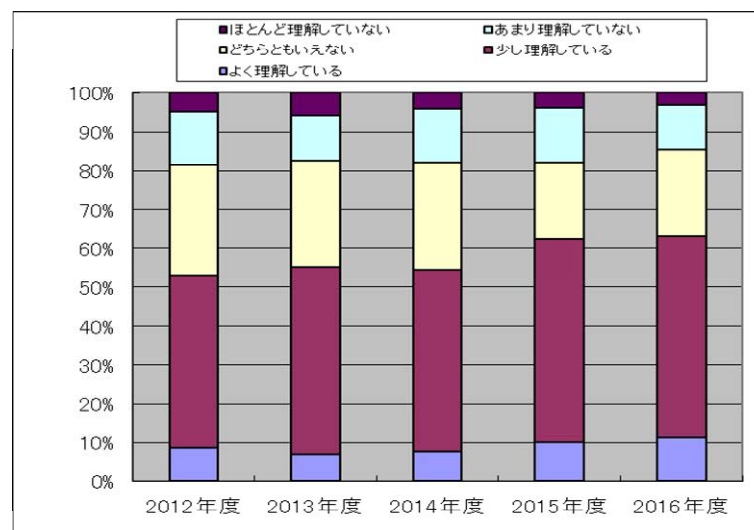
2014年度は、「ほとんど参考にしなかった」「あまり参考にしなかった」とする回答数の和が増加したが、2015年度は、過去5年で「大いに参考にした」「少し参考にした」が増加しており、改善が見られる。但し、2016年度は、「大いに参考にした」「少し参考にした」が少々減ったので、履修方法に対する指導の改善が必要である。



[15]カリキュラムについてお尋ねします。

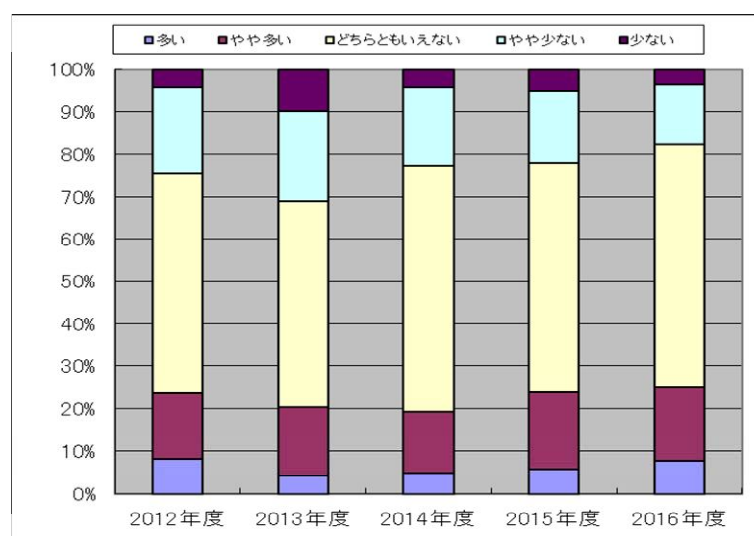
[15-1]カリキュラムの中で、科目間のつながりを理解していますか。

「ほとんど理解していない」または「あまり理解していない」とする回答は徐々に減少し、2012年度から20%を下回っている。一方で、「少し理解している」または「よく理解している」とする回答は増加傾向にあり、50%を超えている。



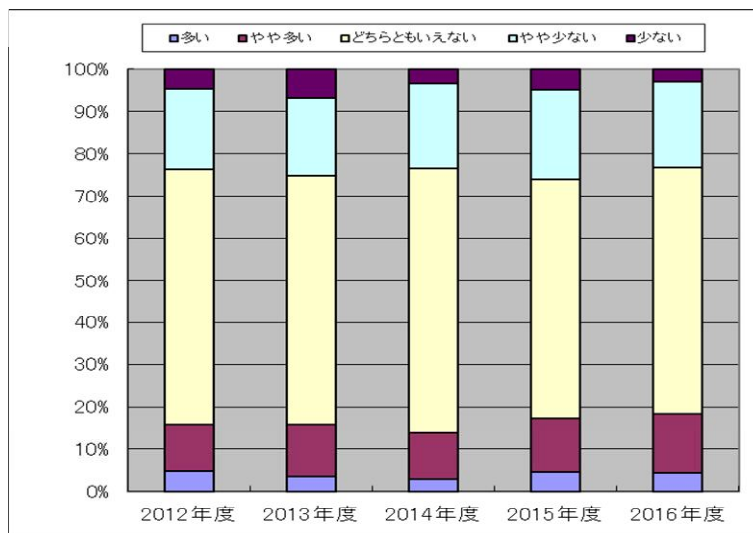
[15-2]カリキュラムの中で、実験・実習科目の比重は多いと感じますか、少ないと感じますか。

「少ない」または「やや少ない」とする回答は、25%程度で推移していて、安定している。



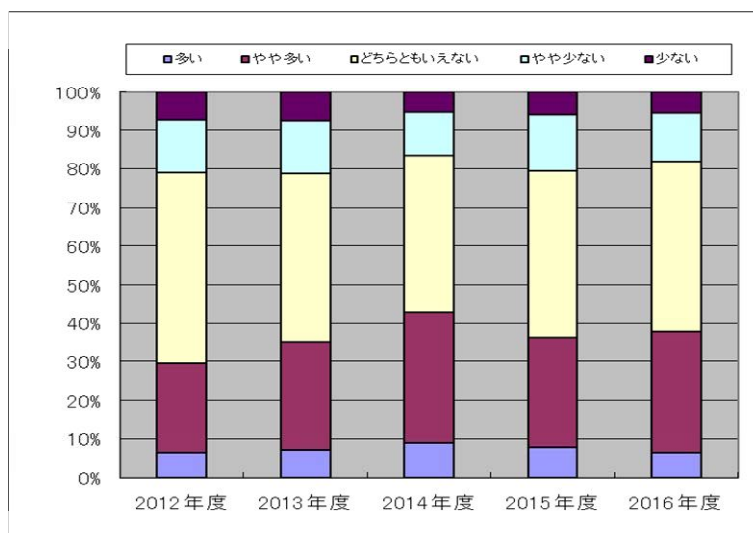
[15-3]カリキュラムの中で、演習時間の比重は多いと感じますか、少ないと感じますか。

「少ない」または「やや少ない」とする回答は、25%程度で推移していて、安定している。



[16]受講した科目全般について、教育への熱意があった担当教員の割合はどの程度ですか。

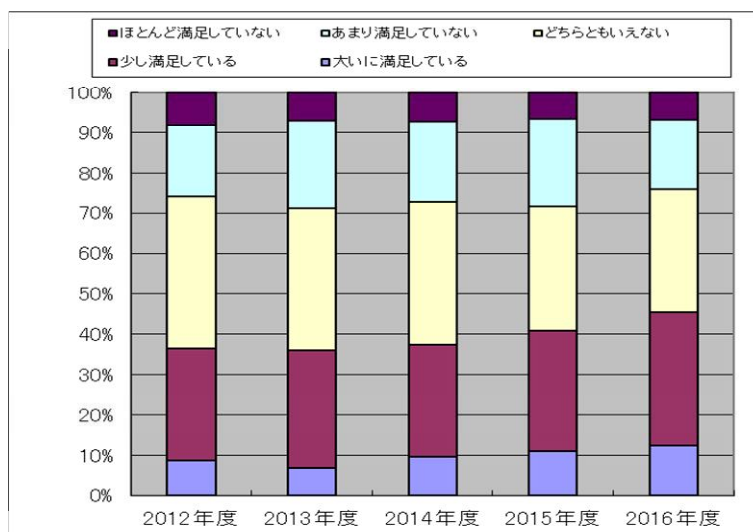
変動はあるものの、「多い」または「やや多い」とする回答が35%前後、「やや少ない」または「少ない」とする回答が20%程度で推移している。



[17]成績評価についてお尋ねします。

[17-1]成績評価（秀・優・良・可・不合格・未履修）に満足していますか。

「大いに満足」または「少し満足」とする回答は、約35%～45%へとやや増えている。「あまり満足していない」または「ほとんど満足していない」とする回答は30%弱で、減る傾向がある。



[17-2][17-1]でD（あまり満足していない）またはE（ほとんど満足していない）と答えた方：その理由は何ですか。

種々の理由が挙げられ、不満も記されている。自己反省的なことが多い。

- ・ 一夜漬けだったから
- ・ 特に1、2年の成績が悪かったため
- ・ もっと自発的に行動すれば上がったから
- ・ GPA2.66
- ・ 努力のむくわれない科目があった
- ・ 勉強疎かにしていた
- ・ もう少し、良く出来たと感じている
- ・ 勉強をもっとできたはずだと思うから
- ・ もっと勉強すべきだった
- ・ 自分が怠けていたことがあるから
- ・ GPAが低い
- ・ 最初の方、あまり勉強していなかったため
- ・ 自身の努力のなさが原因ではあるが全体的に低評価であるため
- ・ 一、二年の成績があまり良くなかった
- ・ 得点が低かった
- ・ 自分の勉強の甘さが、反映されたから
- ・ GPAが低かった
- ・ バイトに時間を費やし過ぎて勉強をおろそかにしてしまったから
- ・ 成績が良くなかった
- ・ 不可が多かった
- ・ 自分の成績が良くなかった
- ・ 成績が良くなかったため
- ・ 成績が良くなかったから
- ・ 努力が足りなかった
- ・ 優れたと思ったものがあまり良くなかった
- ・ あまり良い成績ではなかったため
- ・ GPAが低かったから
- ・ 勉強の方法や時間を有効に活用することで、よりよい成績を修めることができたはずだから
- ・ 低い
- ・ もっとしっかりと学習しておけばよかったという後悔があるから
- ・ 相対的に低い
- ・ 勉強に集中して取り組んでいなかったため
- ・ しっかり勉強できてなかった
- ・ 勉強時間にもなった成績ではなかったため
- ・ もっと上を目指すべきだったから
- ・ GPAが低いから
- ・ がんばりが足りなかったから

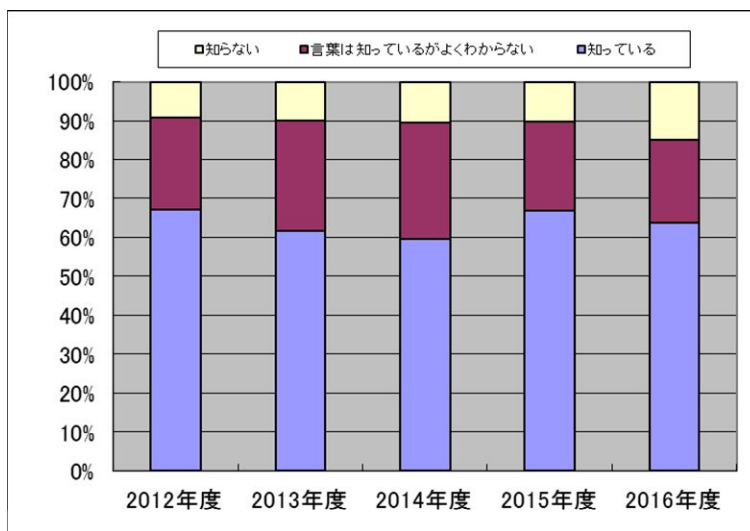
- ・ 勉強していなかった
- ・ 努力不足
- ・ 成績がわるいから
- ・ 努力不足
- ・ 出来が悪かったから
- ・ 勉強が不十分であったから
- ・ 自分自身の努力が足りていないと感じたため
- ・ 勉強が足りなかった
- ・ 努力が不十分だったから
- ・ 自分自身の勉強不足
- ・ 卒業研究の活動において知識不足を痛感した
- ・ もっと頑張れたと思うから
- ・ もう少し、勉強をすればよかった
- ・ 勉強不足
- ・ 実験等で、レポートを写した人よりも表価が低かったから、その他の科目は、ほとんど優か秀だったため、悪意が感じられた
- ・ まだ上を目指せた
- ・ 自分の努力不足による
- ・ 高校の頃と比べ、勉強不足
- ・ もっとできたと思います
- ・ GPAが思うほど高くならなかった
- ・ もっと意欲的に学べばよかったと後悔している。
- ・ 3年で少しサボリが出てしまいGPAを下げてしまった
- ・ GPAが低いから
- ・ 勉強をあまりしなかった
- ・ 成績が低い
- ・ 低い
- ・ もう少し、自身の成績を上げられると思っていたため
- ・ 正当な評価を行わない教員がいる
- ・ 学習を怠ったから
- ・ 留年したため
- ・ 一年次のGPAが最後まで響いた
- ・ もっと頑張れた
- ・ 結果(GPA)があまりよくなかったため
- ・ 低い
- ・ 成績がよくないため
- ・ 悪かった
- ・ 悪いから
- ・ もう少し良くできた気がする
- ・ 努力不足

- ・ よい点数がもらえなかったから
- ・ バイトや部活を管理しきれず、勉強できないことが多々あった
- ・ 部活が多忙で、学習時間の確保が難しかったため
- ・ 意欲がある授業とそうでない授業で勉強時間に差があった
- ・ 1年のとき、さぼったから
- ・ 理解ができていないため
- ・ 九工大のGPAの算出方法または授業の選択方法が不公平すぎる(他国立大と比較して)
- ・ もっと勉強すべきだった
- ・ 科目によって成績のつけ方が異なり不公平に感じるがあった
- ・ 自主学習が少なく、もったいない授業の受け方をしていた
- ・ もう少し勉強に時間を取れたと思う
- ・ もっと勉強を熱心にするべきだった
- ・ GPAが低かったので
- ・ 今思えばもう少し勉強をがんばることができたはずだから
- ・ 本気で打ちこんだ科目が少ない
- ・ あまりやる気がなかった
- ・ 自分の勉強不足のため
- ・ 自分の努力不足, 全体的な運の悪さ
- ・ サークルに時間とられすぎて勉強する余裕がなかった
- ・ 高校に比べあまり勉強せず、芳ばしくなかったため
- ・ あまり勉強していなかった
- ・ GPAが低かったため
- ・ 出席が足りないことが多々あった
- ・ 大学1~2年の頃もう少し頑張れた

[18] オフィスアワー（質問・相談時間）についてお尋ねします。

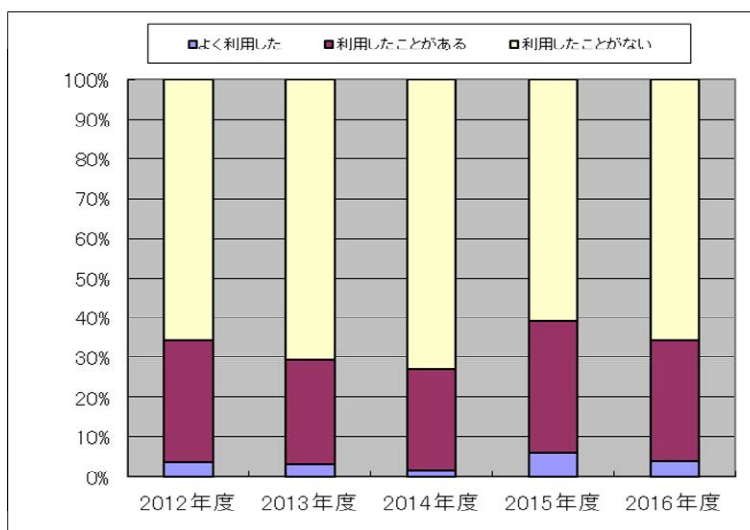
[18-1] オフィスアワーという制度を知っていますか。

「知っている」が多数を占めるが、その率は減少傾向にあり、「知らない」とする回答も10%程度ある。改善の余地がある。



[18-2] オフィスアワーを利用して、教員に質問した経験がありますか。

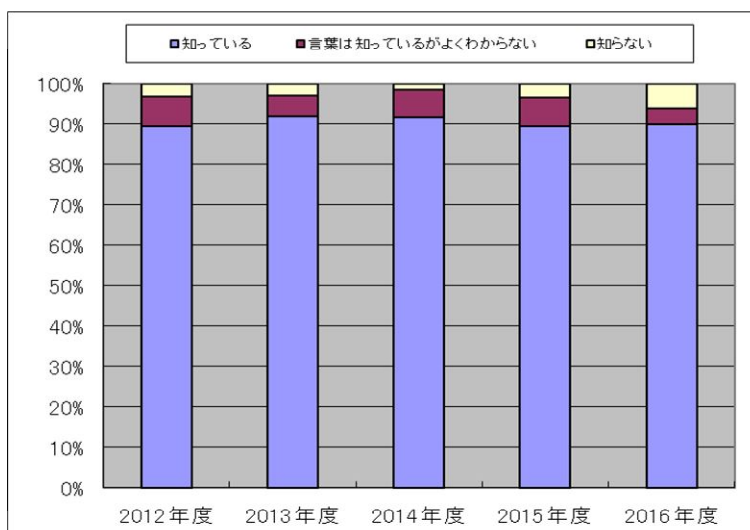
2014年度までは、「よく利用した」または「利用したことがある」とする回答が徐々に減少し、「利用したことがない」とする回答が増加傾向である。



[19] ティーチングアシスタント（TA）についてお尋ねします。

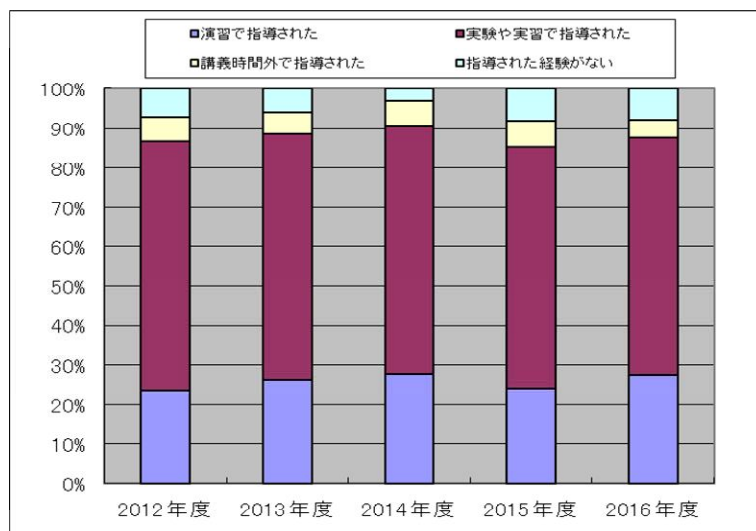
[19-1] ティーチングアシスタント（TA）という制度を知っていますか。

TA制度を「知っている」と回答した者が多数を占めており、認知度は十分高い。TA制度は定着していると考えられる。



[19-2]ティーチングアシスタント（TA）に指導してもらった経験がありますか。（複数回答可）

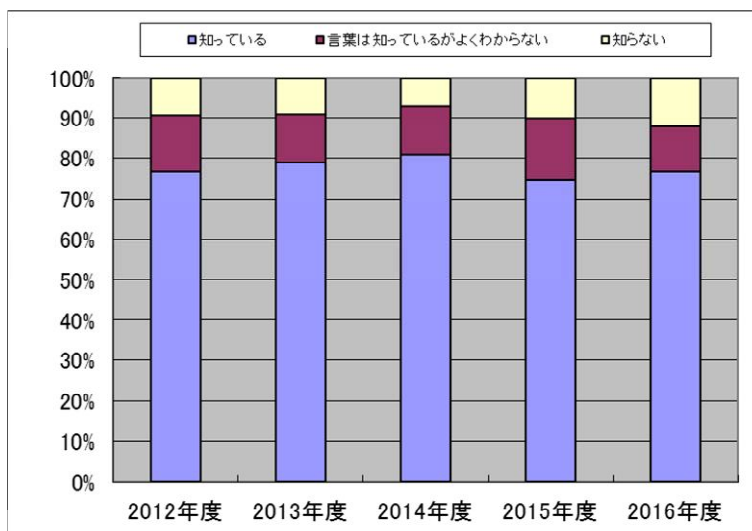
「演習」「実験・実習」「講義時間外」のいずれかで指導を受けたとする回答が90%を超えており、TA制度は定着している。



[20]指導教員制度についてお尋ねします。

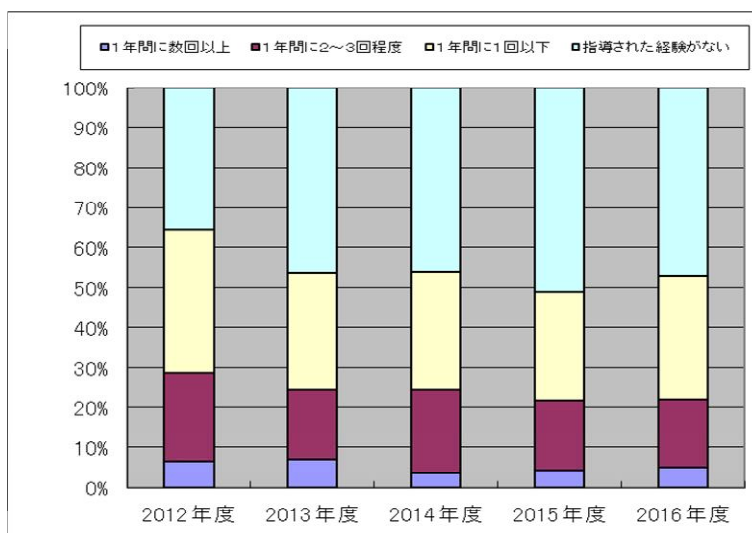
[20-1]指導教員制度を知っていますか。

「知っている」とする回答は、80%前後で推移している。一方で「知らない」、「言葉は知っているが、よくわからない」の回答が2015年には20%から25%程度の上昇しているため、改善の余地がある。



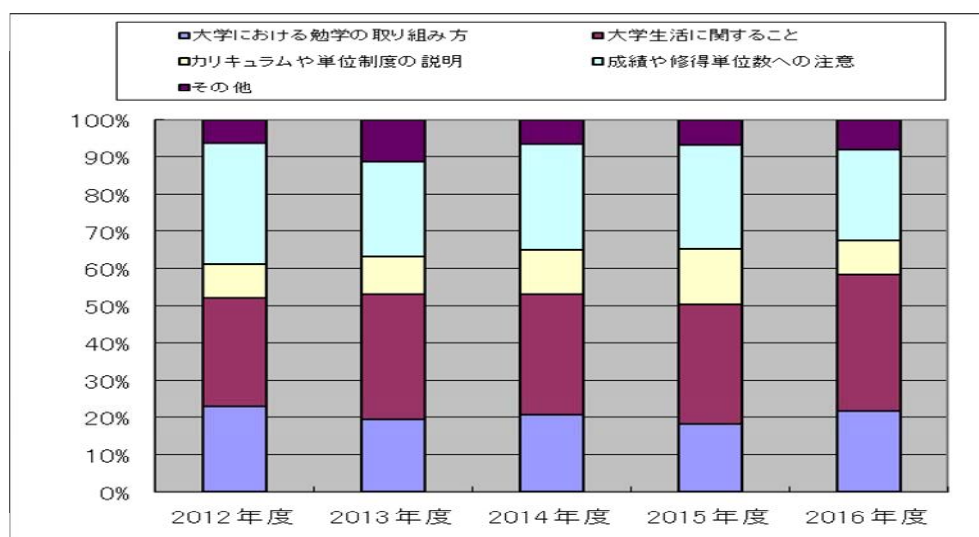
[20-2]1年生から3年生の間に、指導教員から指導やガイダンスを受けた経験がありますか。（受けた経験のある方は、1年間の平均的な回数を答えて下さい。）

「指導された経験がない」との回答が、2011年度以降1/3を超え、2015年度はさらに増えた。改善の余地がある。



[20-3][20-2]でA（1年間に数回以上）、B（1年間に2～3回程度）、C（1年間に1回以下）のいずれかを答えた方：1年生から3年生の間に、指導教員から指導を受けた内容を答えて下さい。（複数回答可）

大学生活、成績等、多岐に渡っているが、具体的コメントでは、就活等の進路関係の内容が多い。



E（その他）[具体的に]

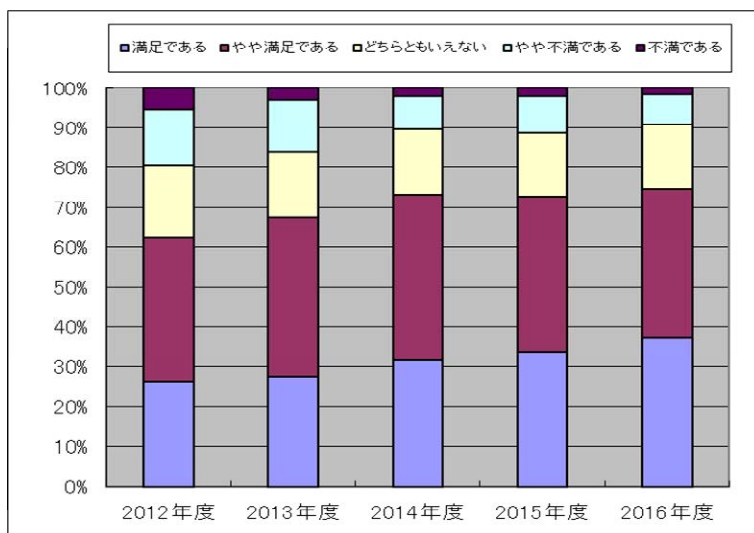
- ・ 進路について
- ・ 進路相談
- ・ 飛び級についての相談
- ・ 就職面談等
- ・ 雑談
- ・ 就活のこと
- ・ 就職活動
- ・ 進路
- ・ 研究室の決め方
- ・ 研究室選びの情報, アドバイスをいただきました
- ・ 就職について
- ・ 助官(研究の)
- ・ 奨学金について
- ・ 進学についての相談
- ・ 奨学金に関すること
- ・ 単位が取得できているどうかの確認
- ・ インターンシップの提出書類(報告書)のとき
- ・ 就職に関すること
- ・ 再受験(大学)について
- ・ 就職について
- ・ 就職活動に関すること
- ・ 就職先について
- 進路について

- ・ 研究室の早期配属について
- ・ インターンシップの際
- ・ 進路について
- ・ 将来の進学先について
- ・ 米国への語学研修の相談

[21]施設や設備等についてお尋ねします。

[21-1]教室の広さ、席数、明るさ等について、満足していますか。

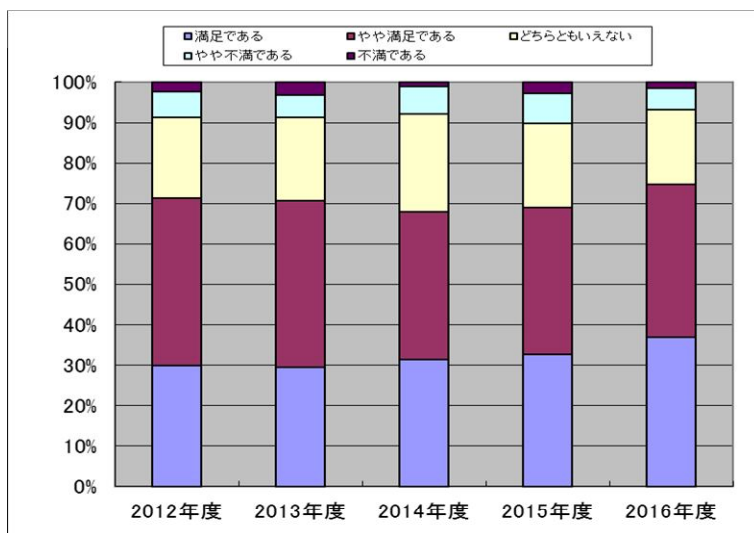
「不満である」または「やや不満である」とする回答は 10～20%、「満足である」または「やや満足である」とする回答は 25～30%で変動し、上昇傾向にある。



[21-2]必要な設備（マイク、OHP、プロジェクタ等）に満足していますか。

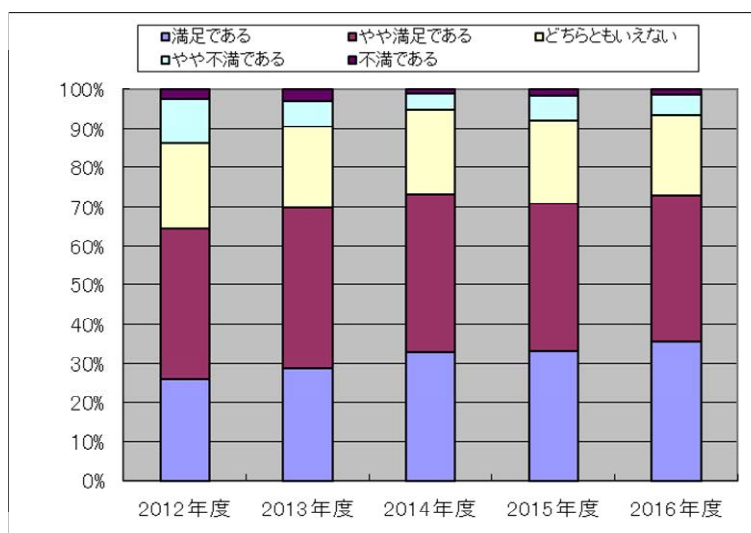
「満足である」または「やや満足である」とする回答は、2010年度以降 70%程度で推移している。

「やや不満である」または「不満である」とする回答は、2010年度以降、10%程度に留まっている。



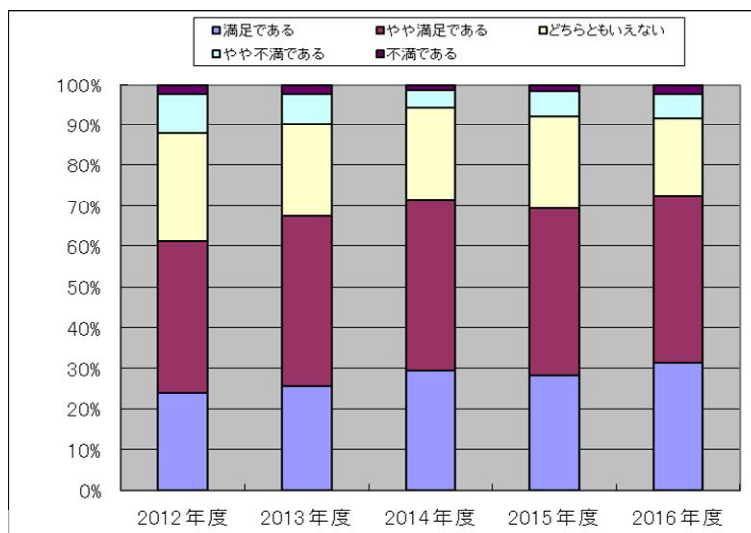
[21-3] 1年生から3年生の間に利用した実験室・実習室の広さ、明るさ等について、満足していますか。

「満足である」または「やや満足である」とする回答は順調に増加し、2013年度以降は70%に達している。一方、「やや不満である」または「不満である」とする回答は10%に減少している。



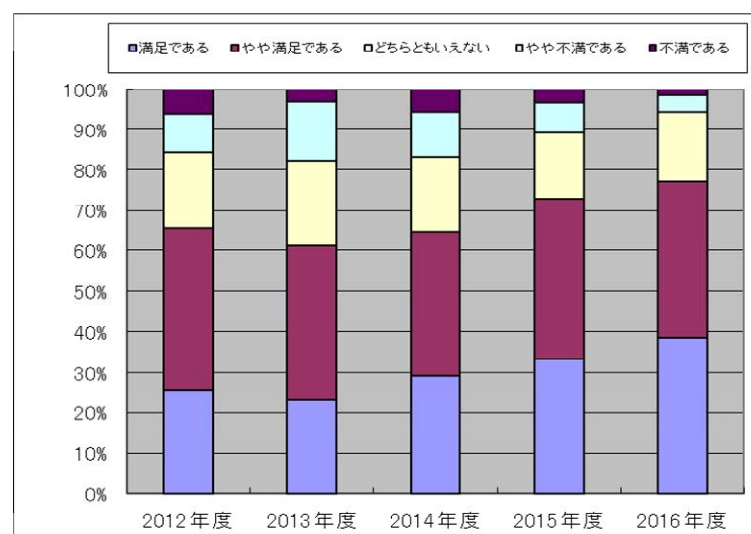
[21-4] 1年生から3年生の間に利用した実験・実習に必要な設備・装置について、満足していますか。

「満足である」「やや満足である」とする回答は順調に増加し、2013年度以降は65%以上に増えている。一方、「やや不満である」「不満である」は減少傾向にあり、2013年度以降は10%程度以下となっている。



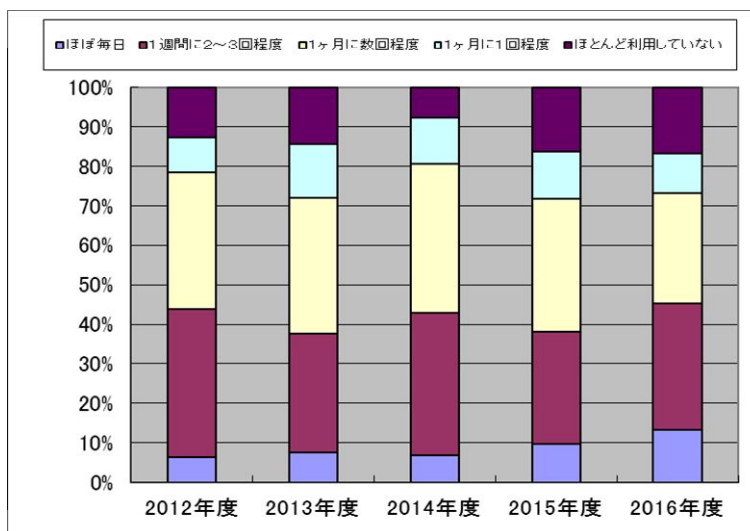
[22-1] 情報機器（コンピュータ端末等）の整備状況について満足していますか。

昨年と比べて「満足である」が増加している。個人用情報端末の所有が増えており、学内のWiFiの充実等により不満が改善されてきていると思われる。



[22-2] 1年生から3年生の間に、講義以外でネットワークや情報サービス（ソフトウェア、教材を含む）を、どの程度利用しましたか。

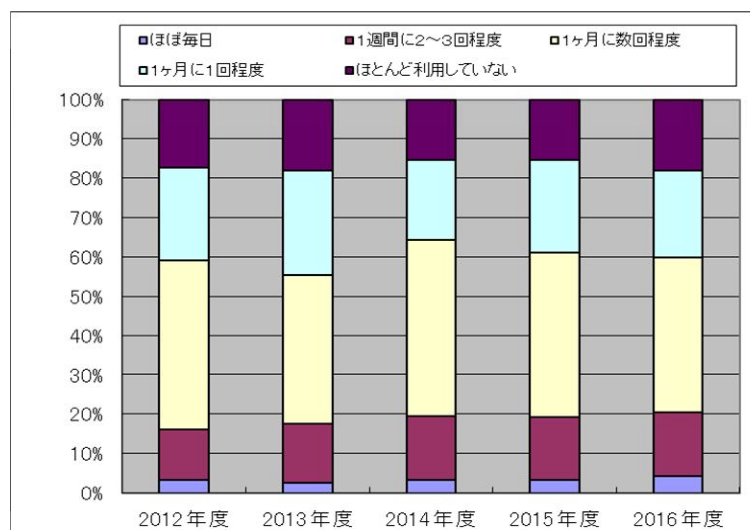
5年間で「1週間に2-3回程度」が30%前後、「1ヶ月に数回程度」35%で推移しているが、利用者の目立った増加傾向がなく、より積極的な活用が望まれる。



[23] 図書館についてお尋ねします。

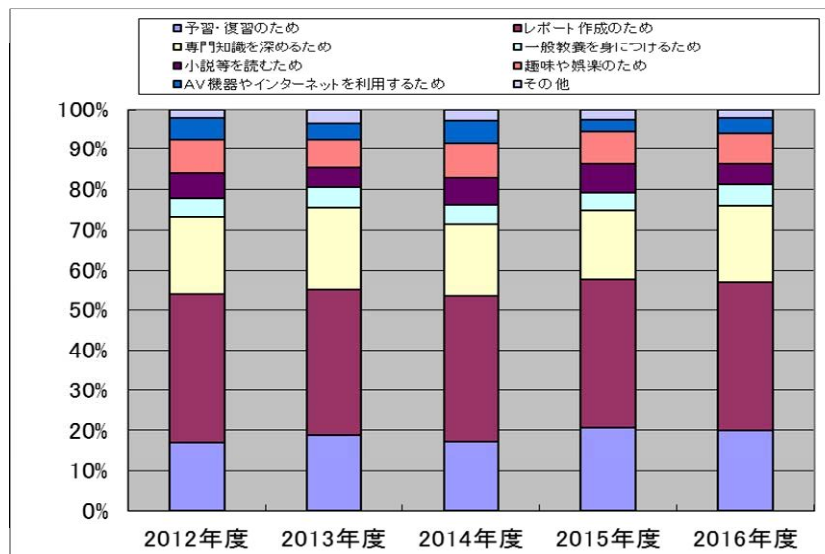
[23-1] 図書館を利用している頻度はどの程度ですか。

「1か月に数回程度」「1週間2-3回程度」「ほぼ毎日」が60%前後で推移しており、安定している。



[23-2]図書館を利用する主な理由を教えてください。(複数回答可)

5年間を通して「予習・復習のため」、「レポート作成のため」が55%前後、「専門知識を深めるため」が20%前後と、ほぼ安定している。また、具体的コメントからは試験勉強が利用の主体である傾向が伺えるため、今後、「専門知識を深めるため」の利用の増加が望まれる。



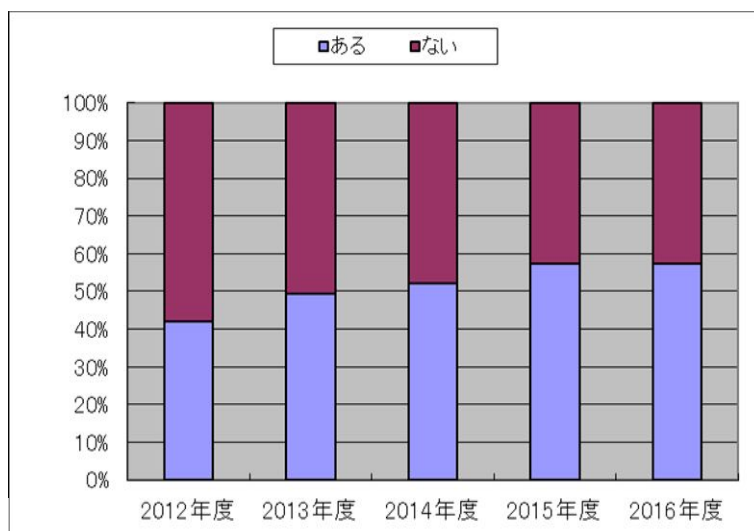
H (その他) [具体的に]

- ・ 試験前勉強
- ・ 新聞
- ・ 院試勉強・卒論作成のため
- ・ 卒論作成
- ・ テスト勉強
- ・ 静かであるため
- ・ テスト勉強
- ・ テスト期間の勉強
- ・ テスト勉強のため
- ・ 授業の間に
- ・ 試験勉強
- ・ 論文の参考文献を探すため、休憩場所として
- ・ テスト勉強
- ・ 論文検索
- ・ 勉強(授業を除く)
- ・ 試験勉強
- ・ 新聞を読むため
- ・ テスト勉強
- ・ 睡眠

[24]工場見学やインターンシップ（工場実習）についてお尋ねします。

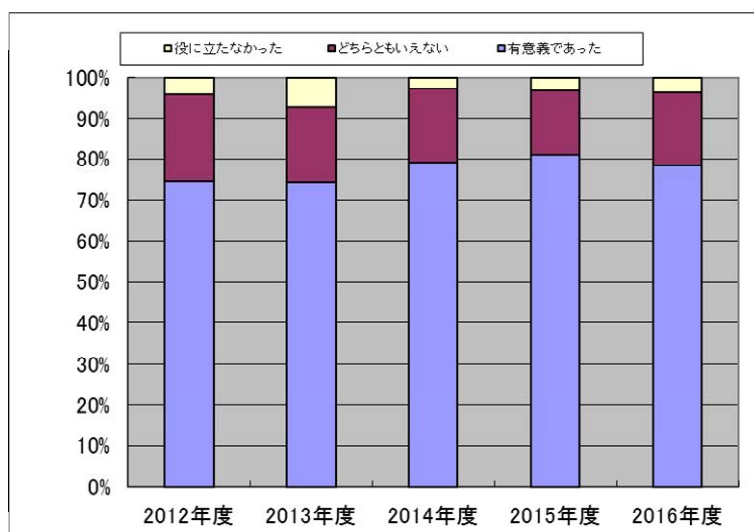
[24-1]工場見学やインターンシップに参加した経験がありますか。

インターンシップを経験していると
する回答が昨年と同様な割合である
が、2012年度以降は増えている傾向で
あるので、就職意識の向上が窺える。



[24-2][24-1]でA(ある)と答えた方。
工場見学やインターンシップに参加した
経験が、自分自身の成長のために有意
義であり、履修した価値がありましたか。

80%近くのインターンシップ経験者
が有意義と答えている。また「役に立
たなかった」との回答が減少した。就
職に直結しなかった可能性もあるが、
社会経験として有意義であると考えら
れる。



2. 2 2016年度修了生アンケート（工学府）

※アンケート実施年月日 平成29年2月7日

※アンケート回収率

課程	配付枚数	回収枚数（回答率）
博士前期課程	285枚	252枚（88.4%）
博士後期課程	8枚	5枚（62.5%）

[1]あなたの課程、専攻についてお答え下さい。

[1-1]あなたが修了される課程は何ですか。

A（博士前期課程）252名

B（博士後期課程）5名

昨年87.7%であった博士前期課程の回答率が増加した（在籍者数の減少により回答者数は減少したが回答率は増加）。博士後期課程も回答数はほぼ例年並みである（絶対数が少ないため回答率の数字は信頼性が低い）。



[1-2]あなたが修了される専攻・領域は何ですか。

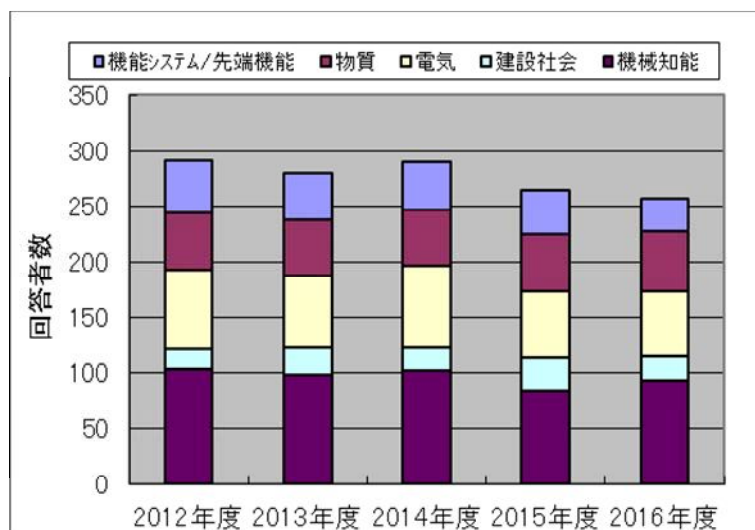
機械知能 : 92名

建設社会 : 22名

電気電子 : 60名

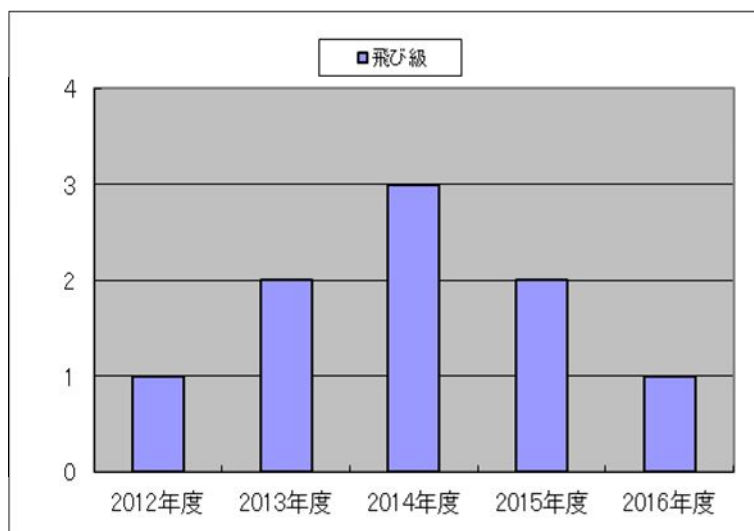
物質 : 53名

先端機能システム : 30名



[1-3]飛び級入学の方は [] に○を入れてください。 [1名]

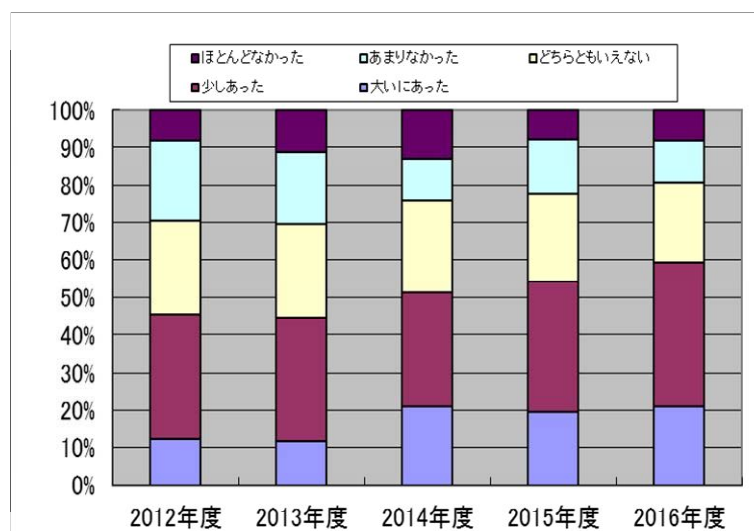
飛び級の入学者は1名であった。飛び級は大学生活が1年間短縮されるという特殊要因が加わるために、推薦されても辞退する学生も多い。



[2]工学府・工学研究科における大学院教育があなたの成長（自己形成）に及ぼした効果についてお尋ねします。

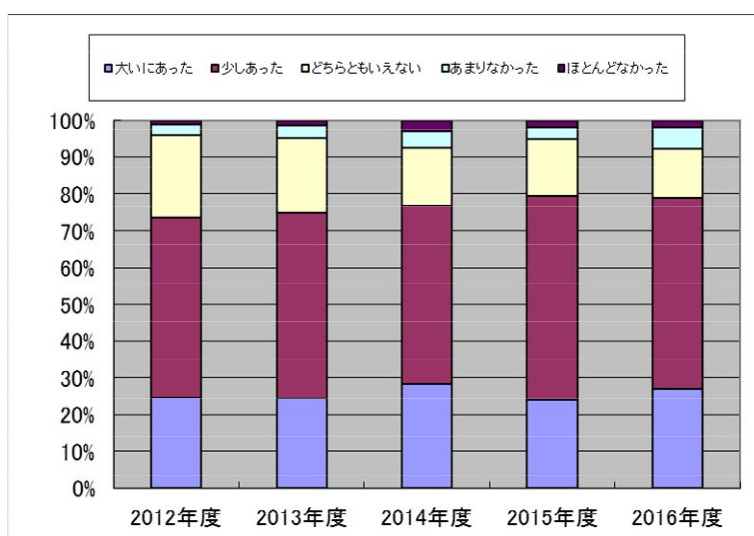
[2-1]外国語科目はあなたの自己形成に効果がありましたか。（受講生のみ）

「大いに効果があった」及び「少しあった」と回答した学生の比率は年々増加している。外国語科目の重要性が徐々に認識されている傾向がみられる。



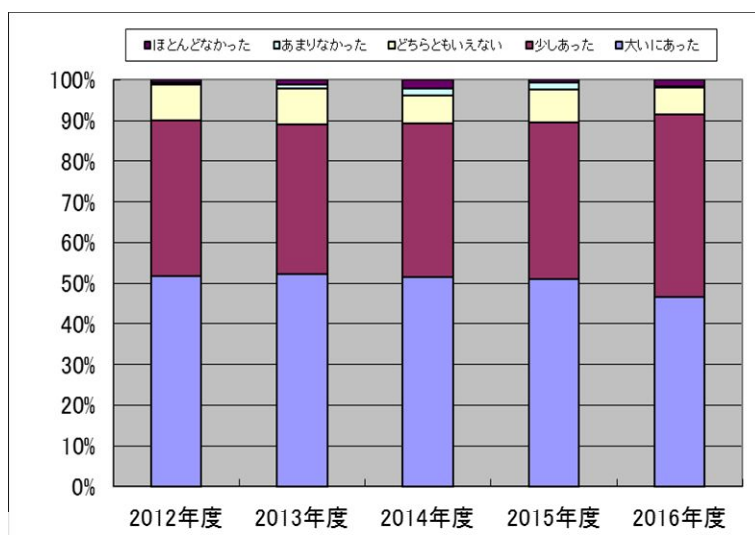
[2-2]共通科目はあなたの自己形成に効果がありましたか。

「大いにあった」が少し減少したものの「少しあった」を含めると80%程度が維持されており、一定の効果を果たしていると思われる。



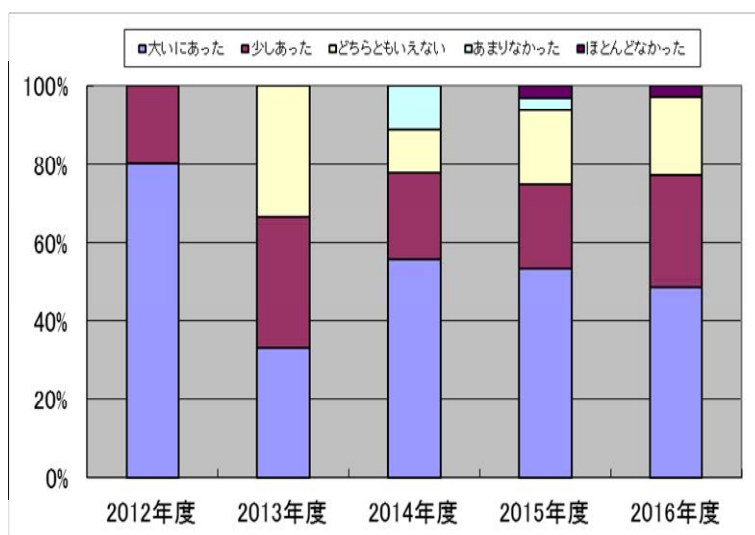
[2-3] 専門科目はあなたの自己形成に効果がありましたか。

昨年とほぼ同じ傾向である。「大いにあった」と「少しあった」で90%近くを維持しているということから専門科目の自己形成に対する高い影響力が窺える。



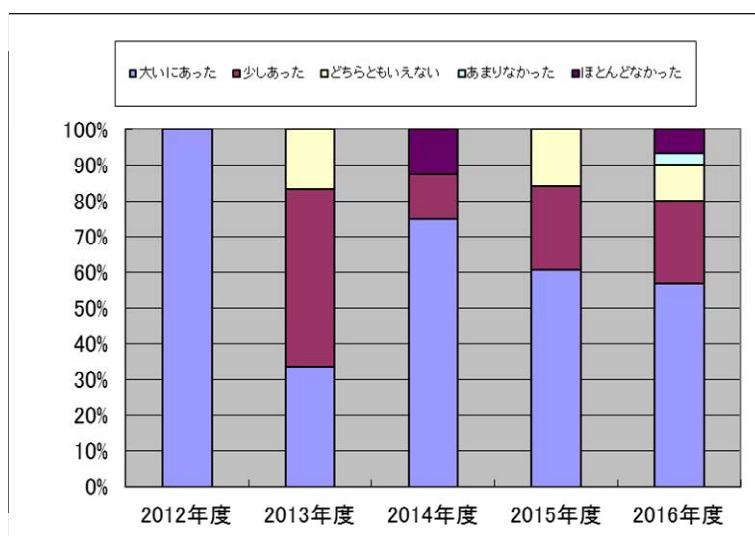
[2-4] 学外研修・特別演習はあなたの自己形成に効果がありましたか。（博士後期課程の方のみ）

「大いにあった」「少しあった」で80%近くになり、効果があることが窺えるが、その一方で、「どちらともいえない」との回答が多い。



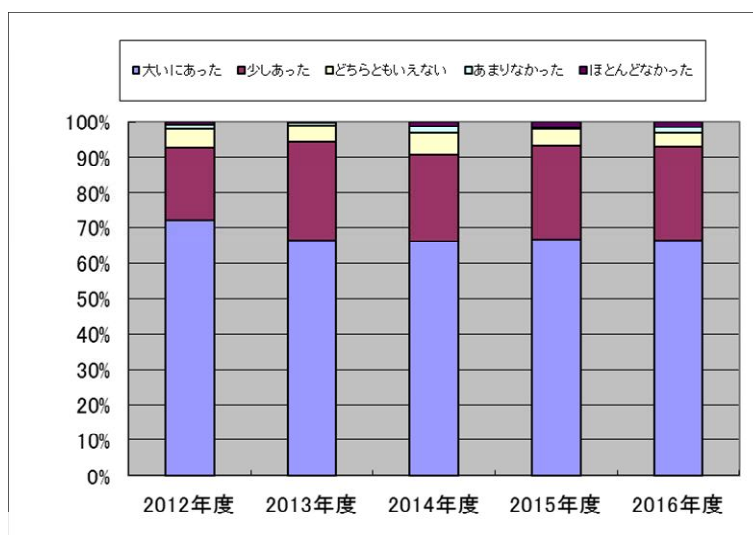
[2-5] プロジェクト研究はあなたの自己形成に効果がありましたか。（博士後期課程の方のみ）

「大いにあった」「少しあった」が90%近くで、効果があると考えられるが「どちらともいえない」との回答が増加している。「あまりなかった」と「ほとんどなかった」との回答が出て来たことが懸念材料である。



[2-6] 学位（修士・博士）論文のための取組みはあなたの自己形成に効果がありましたか。

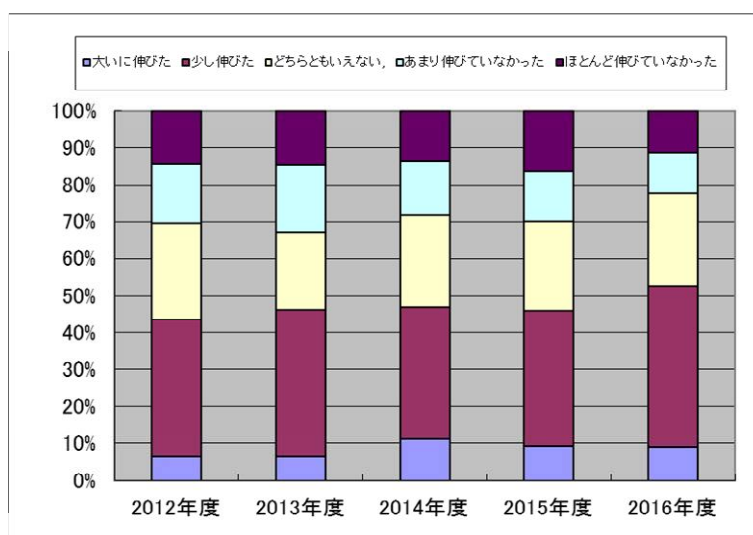
「大いにあった」「少しあった」との回答が90%を超えた状態が継続している。



[3] 英語力についてお尋ねします。

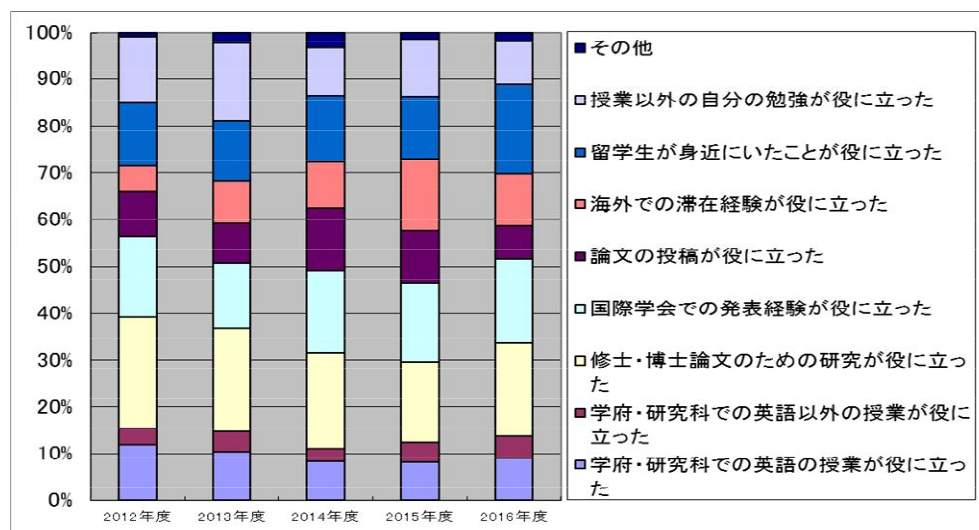
[3-1] 研究科の在学期間であなたの英語力は伸びましたか。

「大いに伸びた」と「少し伸びた」が50%を超えた。海外プログラムの増加の効果があるものと考えられる。



[3-2][3-1]でA（おおいに伸びた）またはB（少し伸びた）と回答された方：その理由は何ですか。（複数回答可）

「留学生が身近にいたことが役に立った」の割合が増加しており学内の国際化が進展しているものと考えられる。



I（その他）〔具体的に〕

- ・ 外国人助手との会話(研究の打ち合わせなど)
- ・ 国際研修館
- ・ 海外インターンシップ参加のため
- ・ TAとして外国人との交流があったため
- ・ 就職に必要なだった

[3-3][3-1]でD(あまり伸びていない)またはE(ほとんど伸びていない)と答えた方:その理由は何ですか。

英語に触れる機会が少ないとの回答が多い。また英語学習に対する努力の不足を自分自身で感じている者も多い。これからの社会での英語の必要性を強く認識させるとともに、日常での「英語力」を必要とする機会を増やす方策が望まれる。

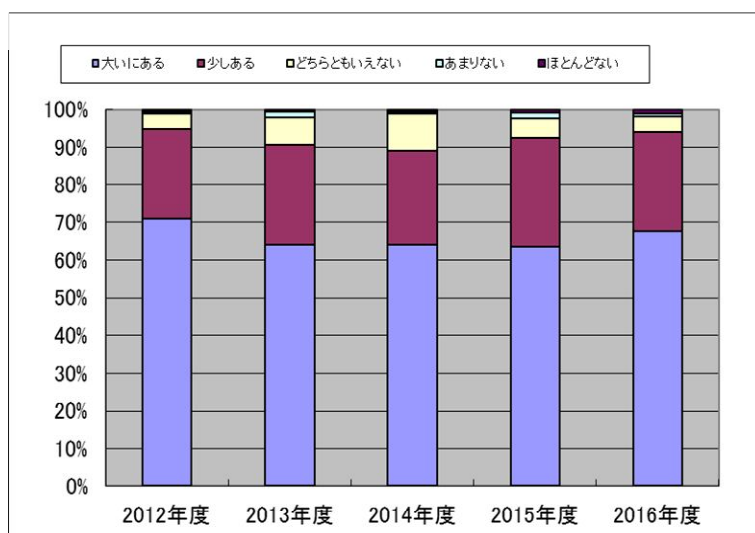
- ・ 英語での授業はほとんどなかったから
- ・ 英語を日常的に使用しなかったため
- ・ 英語にほとんどふれてないから
- ・ 英語の学習に積極的になれなかった
- ・ 英語を必要としなかった
- ・ 英語を使う機会がなかったから
- ・ 勉強不足
- ・ やらなかったから
- ・ 勉強していないから
- ・ 使わなかった
- ・ TOEICの点数が下がっていた
- ・ 英語をほとんど使っていない
- ・ 勉強しなかったから
- ・ 何もしてない
- ・ 実際に必要となる場面が少なかった
- ・ 英語を勉強する機会が減った
- ・ 英語を使う機会があまりなかった
- ・ 使用機会がない
- ・ 勉強時間が短すぎた
- ・ 勉強しなかった
- ・ 英語学習にまで気がまわらなかった
- ・ 週1の授業で自習も特にしていなかったから
- ・ 院で英語の授業がほとんどなかったから
- ・ 勉強意欲の低下
- ・ 英語に触れる機会が少ない
- ・ 海外インターンシップ参加のため
- ・ 留学生だから
- ・ 英語に触れる時間が短いため
- ・ 勉強をしていない
- ・ 専門分野の英語に対して触れることが多く、幅広く英語を勉強できていなかった

- ・ 講義以外で使う機会がないから
- ・ 研究で英論文を読む程度しか英語に触れることがなく、そこで得られた知識は自分の考える英語力には結び付かなかったから
- ・ 必要ないと思ったから
- ・ 使用する機会、TOEICを勉強する機会が減ったため
- ・ ふれる機会が少なかった
- ・ 海外留学等のプログラムにほとんど参加せず、英語を使用する機会がなかったから
- ・ 就職に必要なだった
- ・ 英語の論文を読む以外に、集中的に英語に取り組むことがなかったから
- ・ 英論解読以外に英語を使う機会がなかった
- ・ 積極性が足りなかった
- ・ 英語の勉強をしていないため
- ・ 英語にふれる機会があまりなかったから
- ・ 英語に関する勉強をしていなかった
- ・ 学部時代のTOEICの点数と修士のTOEICの点数に変化がなかったため
- ・ 機会がない
- ・ 使用しなかったから
- ・ 外国語を受講せず、海外へも行かなかったので、英語にふれる機会がなかった
- ・ 勉強しなかったから
- ・ 英語に接する機会が減った
- ・ ほとんど英語に触れなかったため
- ・ TOEICの点数において変化がみられなかったため
- ・ TOEICの点数が変わらなかった
- ・ 英語を活用する機会が少なかった

[4] 学位（修士・博士）論文のための取組みについてお尋ねします。

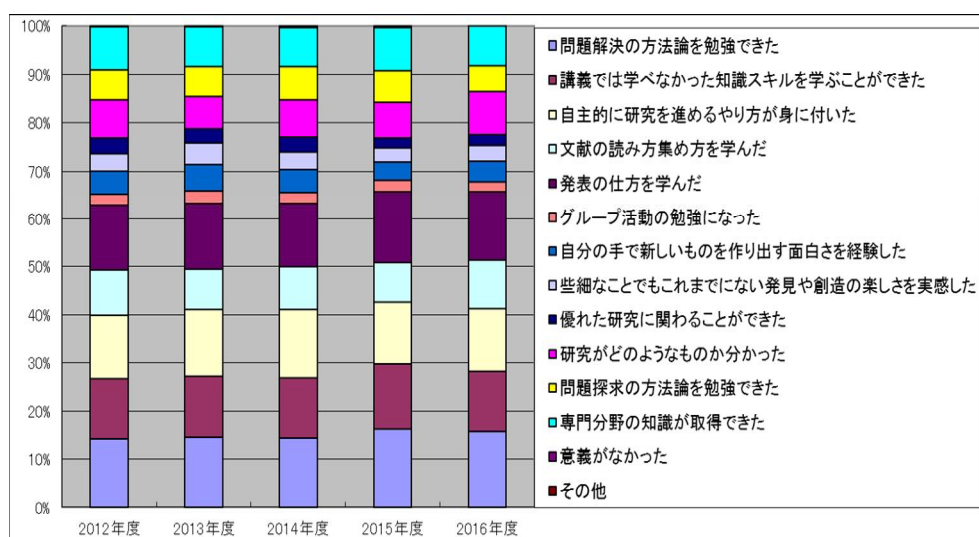
[4-1] 学位論文の意義はあると思いますか。

「ほとんどない」「あまりない」はほとんどなくなり90%以上の高率で意義があると考えている。



[4-2] [4-1]でA（大いにある）またはB（少しある）と答えた方：その理由は何ですか。（複数回答可）

ここ5年間比率に大きな変化はなく、課題解決の方法論、自主的に研究を進めるやり方、講義では学べない知識・スキルの取得、発表の仕方が上位を占め、それらの比率は増加傾向にある。



N（その他） [具体的に]

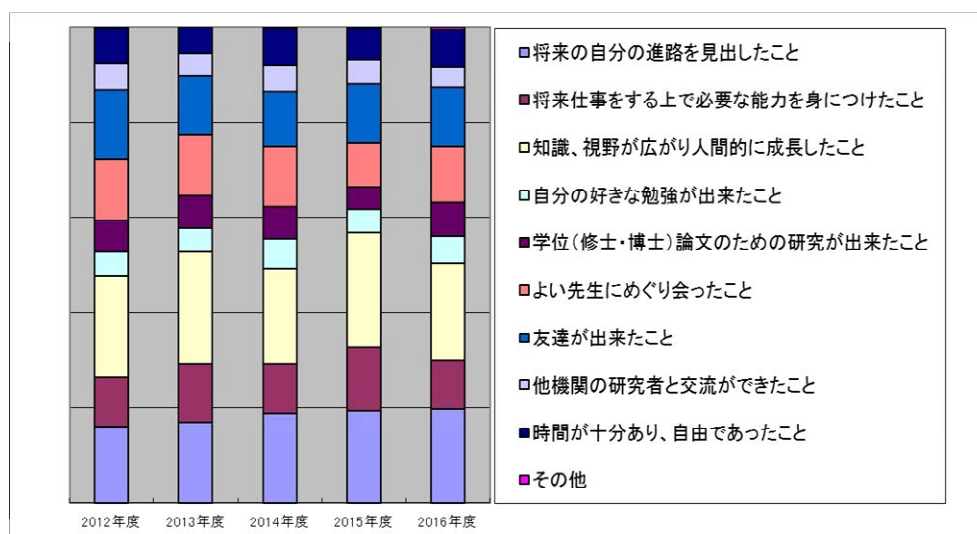
（回答者なし）

[4-3] [4-1]でD（あまりない）またはE（ほとんどない）と答えた方：その理由は何ですか。（複数回答可）

- ・ 研究が学生に投げられすぎており、適切な指導が得られたとは思えない
- ・ 分からないことを教えてくれる人がいないから
- ・ 学会発表等で十分であると思うから

[5] 学府・研究科生活を振り返って、どのようなことが良かったと思いますか。（複数回答可）

「将来の自分の進路を見出した」が増加傾向にある。その他多様な価値を見出している。



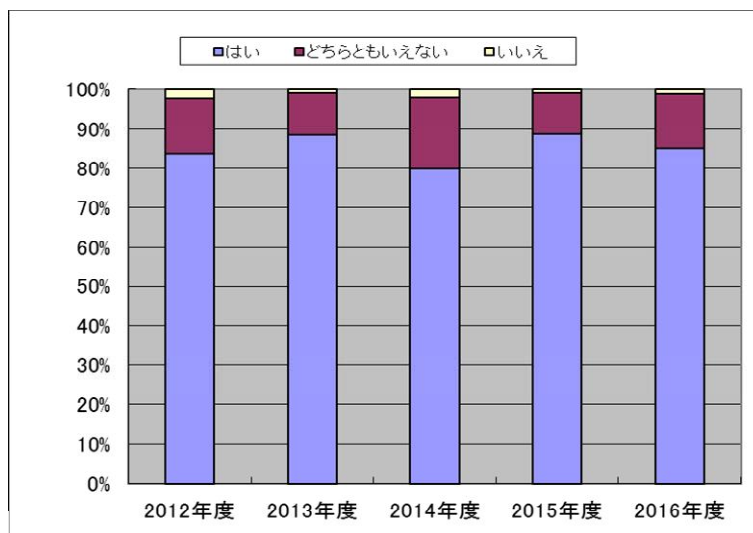
J（その他） [具体的に]

- ・ 学生フォーミュラに打ち込めたこと
- ・ 大学院がどのような場所かが分かったこと
- ・ 学部4年間では、成し得なかった濃密なサークル活動ができた
- ・ 自分自身を見つめ直す時間があった。

[6] 入学した専攻についてお尋ねします。

「いいえ」の割合は極めて少なく、専攻選択時のミスマッチは少ない。

[6-1] 現在の専攻に入学してよかったと思いますか。



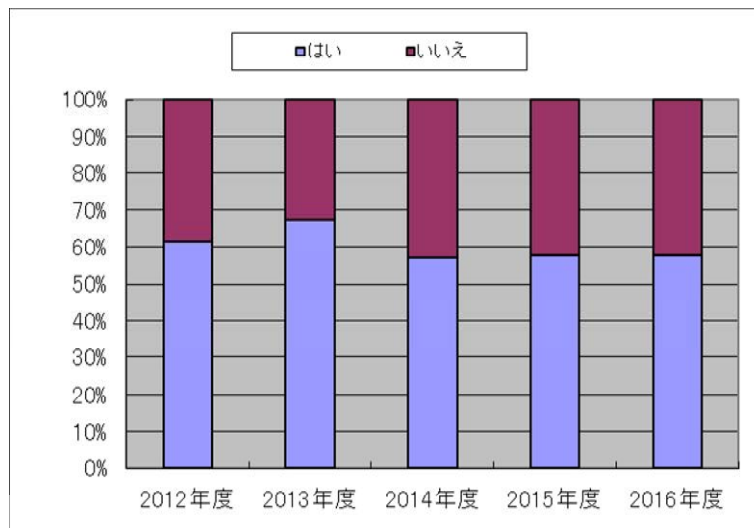
[6-2] [6-1]でC（いいえ）と答えた方：その理由は何ですか。

- ・ 講義の意味がわからなかった
- ・ 機械電気専攻に比べて専門科目の汎用性が低いと感じた

[7]進学時の目標についてお尋ねします。

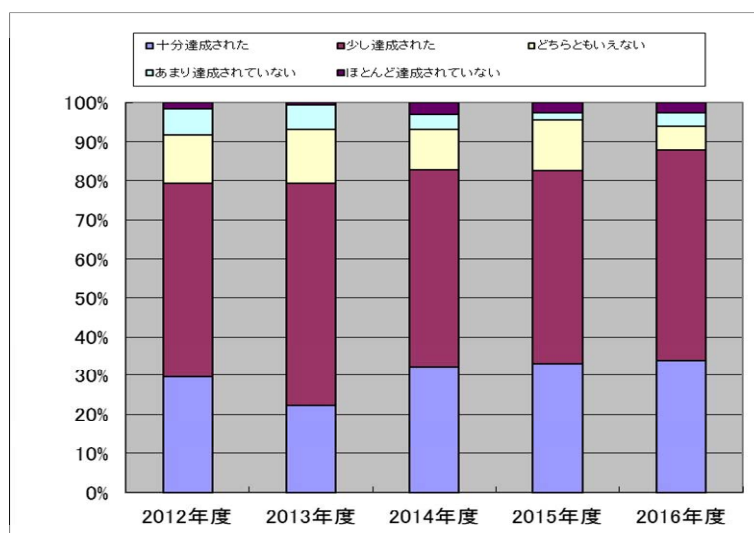
[7-1]あなたは進学の際に研究科で達成したい目標がありましたか。

目標を持って進学した院生の割合は50%強の状態が続いている。



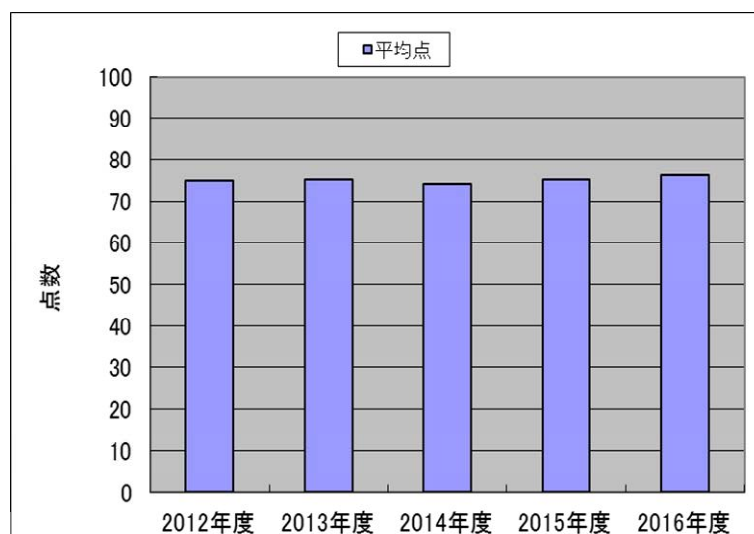
[7-2] [7-1]でA（はい）と回答された方。現在どの程度達成されていますか。

「十分達成された」、「少し達成された」を合わせて90%近くが何らかの達成感を得ている。しかし、「ほとんど達成されていない」が数%いることは注意していく必要がある。



[8]学府・研究科在学中の学生生活の満足度に対して100点満点で点を付けるとすれば何点と思いますか。

数年間大きな変動はなく、70点強となっている。さらに向上に向けた問題解明・解決方法等の調査（質問項目の追加）などの努力が必要であろう。



[9]修了後の進路についてお尋ねします。

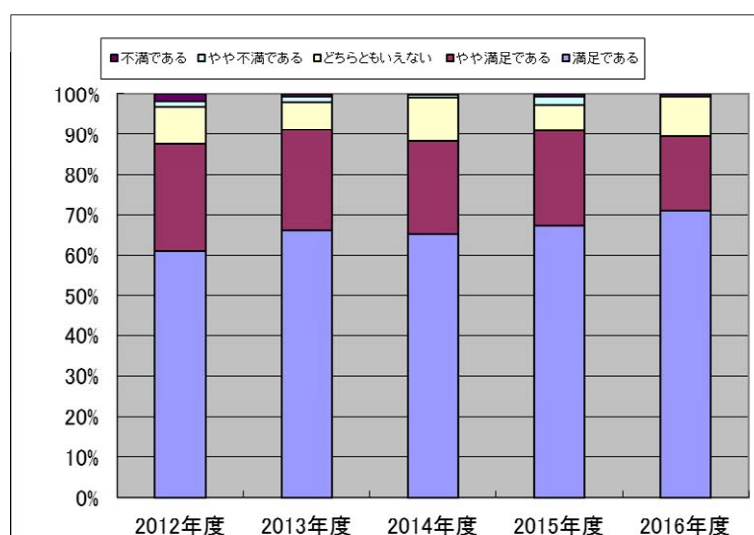
[9-1]あなたは修了後就職しますか、進学しますか。

就職する院生が95%以上で残りの学生が進学する傾向はここ数年変わらない。今後高度な研究者を社会に輩出するためにも博士後期課程への進学率向上に向けた努力が必要であろう。



[9-2]あなたは修了後の進路に満足していますか。

修了後の進路に満足を感じている院生の割合は回復しており、好調な求人数の状況が好影響となっているものと思われる。満足度向上のためには、本人の研究科在学中での研究能力や基礎学力が向上するようにどれだけ努力したかが最も重要である。



[9-3][9-2]でD（やや不満である）またはE（不満である）と答えた方：その理由は何ですか。

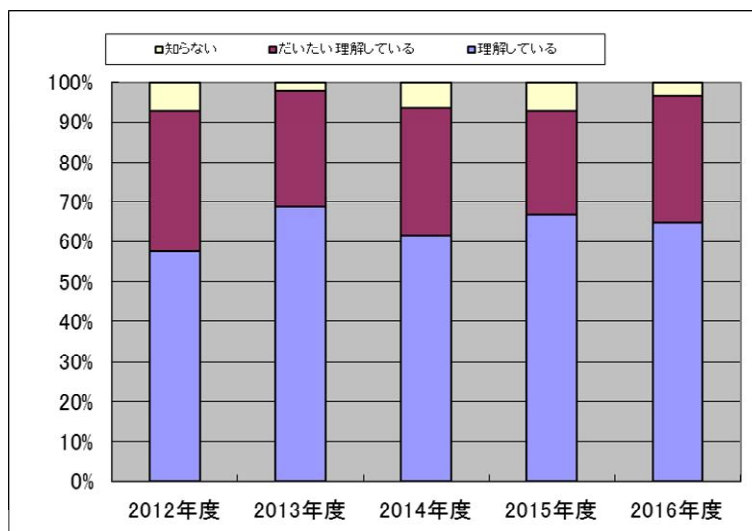
不満足感に加えて、不安感もあると思われる（求人数は増加しているものの、結局は、本人の研究科在学中における努力不足に起因することもあると考えられる）。

- ・ 給料が低い
- ・ 第一希望先の企業ではないため。

[10]研究活動についてお尋ねします。

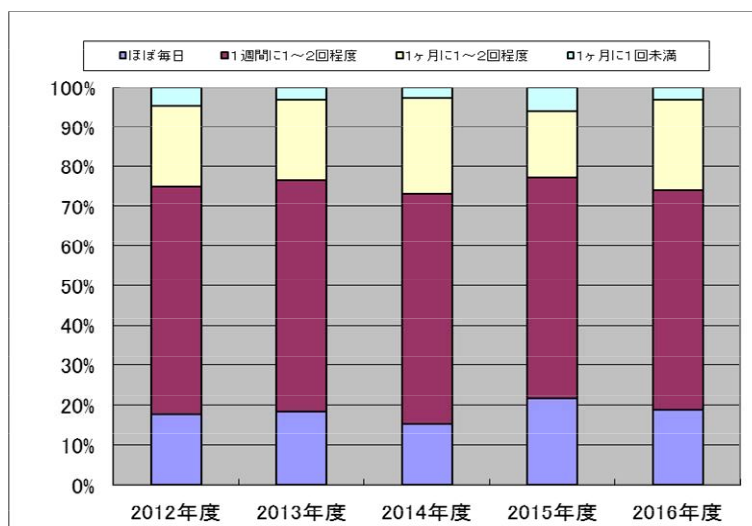
[10-1]進学時の研究室の配属決定方法を理解していますか。

研究室配属決定方法を知らない院生は10%以下である。学科及び教員側は、説明方法を工夫し、努力をしているものの、説明開催時に参加しない学生、理解できなくても質問しない学生側の資質の問題も垣間見られる。



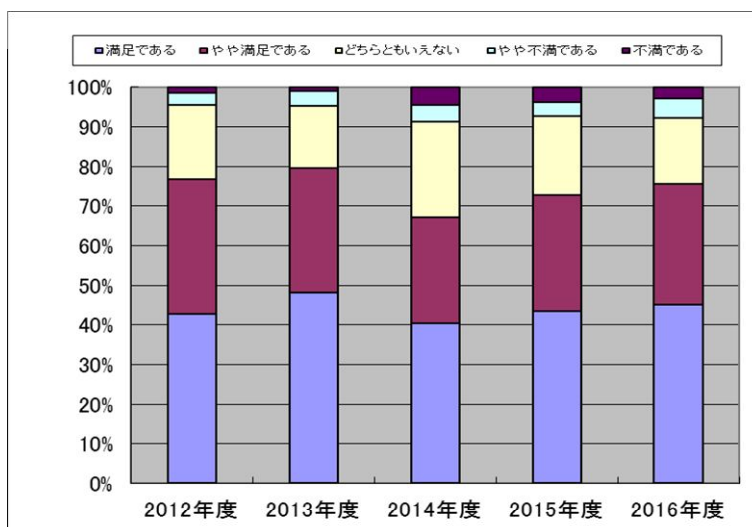
[10-2]研究指導はどの程度の頻度で受けましたか。

研究指導の頻度については、その割合は数年間変わっていない。「1週間に1～2回程度」が最も多く、「1ヶ月に1～2回程度」と「ほぼ毎日」が同程度であった。教員が院生の研究指導にもっと多くの時間を割けるような対策を講じる必要がある。



[10-3]あなたの研究に対する指導方法について、どのように思っていますか。

「満足である」と「やや満足である」と回答した割合が70%を上回った。更なる院生の研究指導方法の改善の努力・工夫を続ける必要がある。



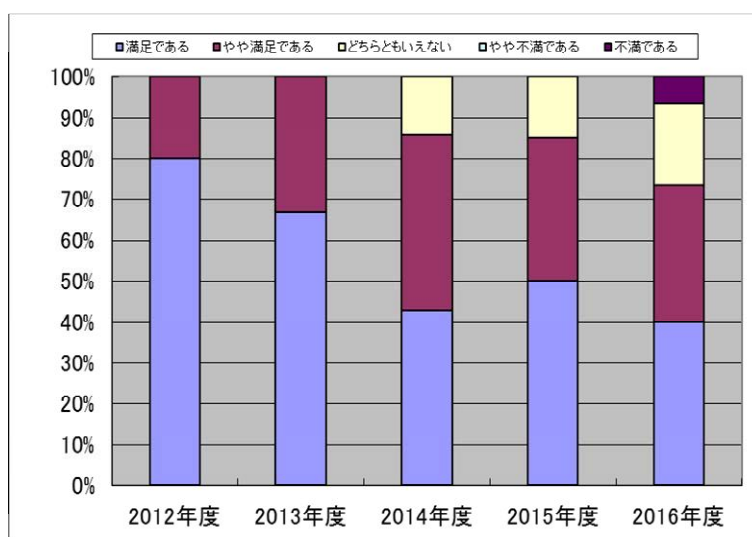
[10-4][10-3]でD（やや不満である）またはE（不満）と答えた方：その理由は何ですか。

学生から見た場合に理解しにくい表現が教員側から発せられることが一因と認められる。放置や放任との指摘も見られ、学内の各委員会・ワーキング会議等の簡素化・効率化などの検討を含め教員が院生の研究指導にもっと多くの時間を割けるような対策を講じる必要がある。

- ・ 打ち合わせ回数が多すぎて、研究が逆に進まない状況だったため
- ・ 忙しい
- ・ 無駄話が多い
- ・ 報告が多い
- ・ 精神的苦痛を感じるが多々あった
- ・ 研究方針が日によって大幅に変わる事がある
- ・ 指導の頻度が多すぎる
- ・ 全面的に投げられすぎている
- ・ 分からないことをきいても教えてもらえない
- ・ 研究テーマの底が浅く、テーマを何回も変更された
- ・ どうしたら良いかアイデアはないが否定だけされる
- ・ 放置だった
- ・ 具体的なアドバイスがほしい
- ・ 相談しても解決しない事柄が多かった
- ・ 直上の先輩から受ける指導がなかったこと
- ・ あまり指導をうけなかったから
- ・ 放任的であった
- ・ 認められる部分については認めてもらいたかったので指導をしてもらえる人とそうでない人に差がある

[10-5]あなたの研究に対する指導体制（指導教官グループ）について、どのように思っていますか。（博士後期課程の方のみ）

「不満」との回答が一定数現れたことは注視すべきである。「どちらとも言えない」との回答が多くあり、満足度の低下傾向が認められる。[10-6]の回答に書かれているように研究テーマでのやりがいを感じないで過ごした可能性がある。

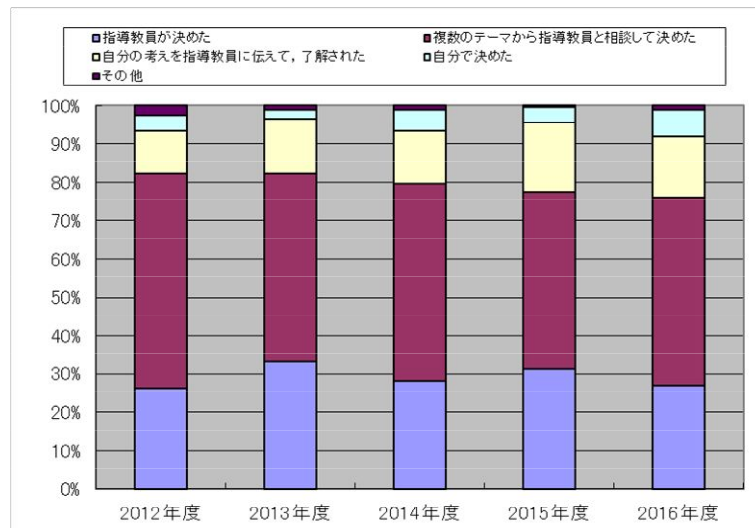


[10-6][10-5]でD（やや不満）またはE（不満）と答えた方：その理由は何ですか。

- ・ やりたいことはできなかった。見つけれなかった。

[10-7]研究テーマはどのように決定されましたか。

指導教員との話し合い、あるいは複数の候補から研究テーマを決める割合が多く、この傾向はあまり変化していないが学生からの提案が増加傾向にある。社会の動向や要請に応える研究テーマも、工学系大学の研究としては、意味があると思われる。学生のポテンシャルが高ければ、学生本人から提案するよう指導するのも、1つのやり方かもしれない。

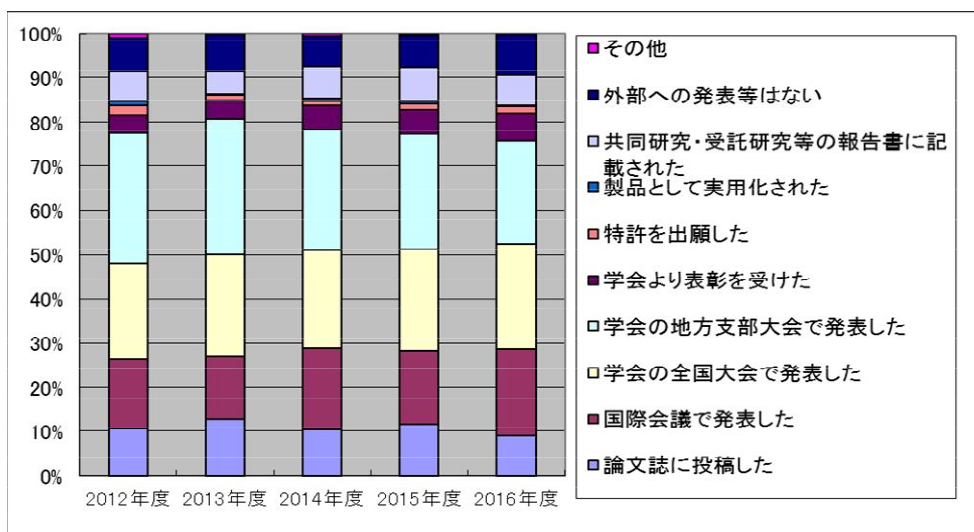


E (その他) [具体的に]

- ・ ジャンケンに負けた
- ・ 複数のテーマを学生で話し合って誰がどれをやるか決めた
- ・ B4からの継続

[10-8]あなたが在学中に研究したテーマの成果は下記のうちどれに該当しますか。(複数回答可)

論文誌への投稿、国際会議や学会の全国大会での発表については、ある程度の水準を維持している。高いレベルの研究を積極的に推進する意味でも、国際会議等での発表等へ繋がるような積極的な研究指導が望まれ、国際会議発表の割合がこのまま増加するか注視する必要がある。まったく発表しないケースも見られるので、さらに改善が必要と思われる。

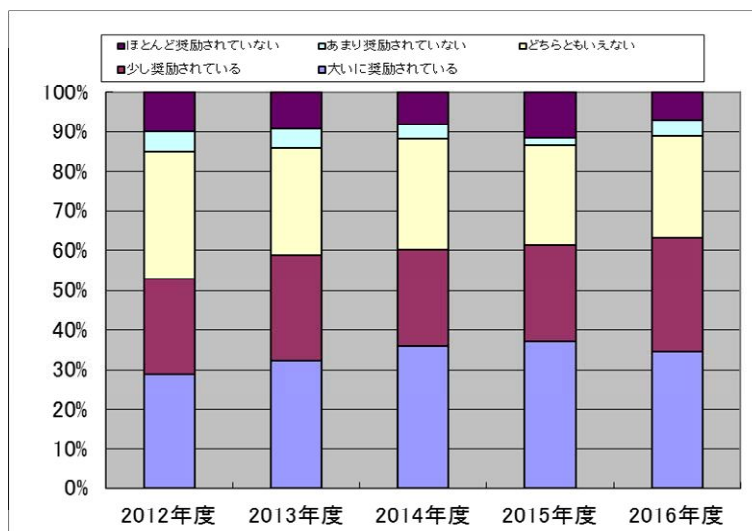


J (その他) [具体的に]

- ・ 論文誌に投稿予定である

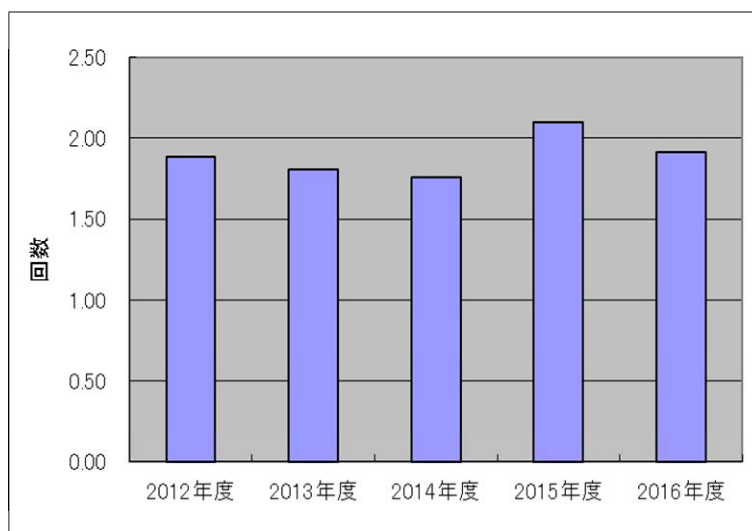
[10-9]学外での研究活動（学会発表や他機関での研究活動等）を奨励されていますか。

「おおいに推奨されている」あるいは「少し推奨されている」と感じている学生の割合が若干ではあるが60%を超え増加している。「ほとんど奨励されていない」が減少している。他の研究者と意見交換する能力を身につけ、新たな研究領域の見識を広めるためにも、学生を学会で研究活動をさせるのは重要で有り、今後も継続して更なる教員の指導姿勢への意識の改革が必要である。



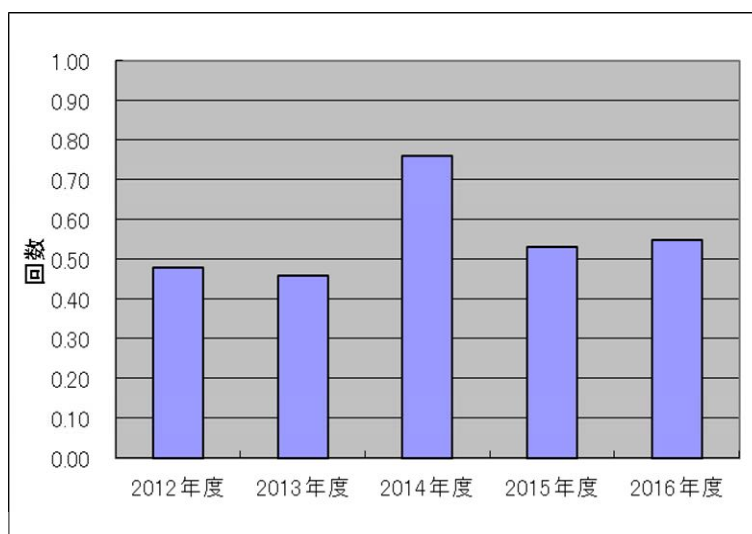
[10-10]あなたは在学中に国内学会（大会等）で何回発表しましたか。

院生の発表回数が2015年度は2.00を超えることができていますが、2016年度は若干減少の傾向にある。大学内では改組など教員の負担が増加しており、院生への指導が十分でなかったためであろう。教員の研究のための時間を確保できるようにすれば院生の発表回数も増加する期待される。



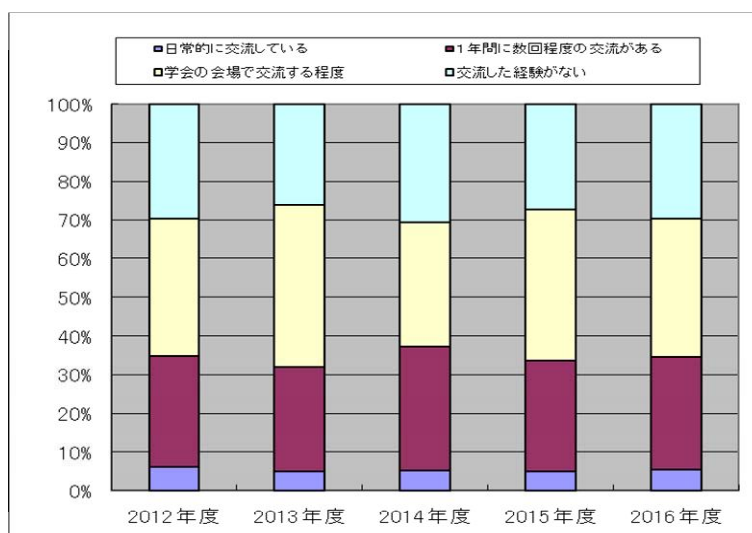
[10-11]あなたは在学中に国際会議で何回発表しましたか。

2014年度は大きく増加に転じていたが、2015年度は2013年度並みに減少している。2016年度は若干増加の傾向にある。大学教育環境のグローバル化が叫ばれる中、国際会議での発表などの経験は極めて重要であり、今後、さらに増加するよう努力が必要であると思われる。



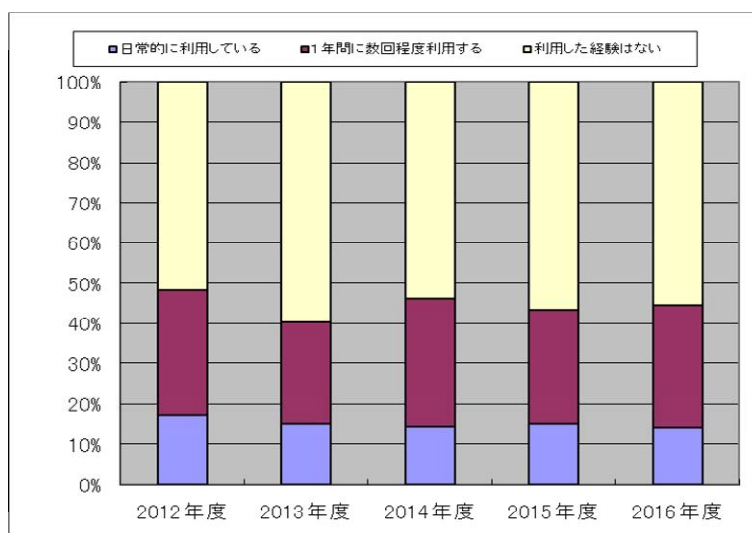
[10-12]学外の研究者（国内および国外）と研究交流した経験がありますか。

傾向は横ばいで、顕著な変化は認められない。若干交流がある学生の人数が増加している。大学として学内で交流できるような環境を整えるべきである。また、指導教員がさらなる国際的な交流の活発化を図るように大学としての援助も必要であろう。



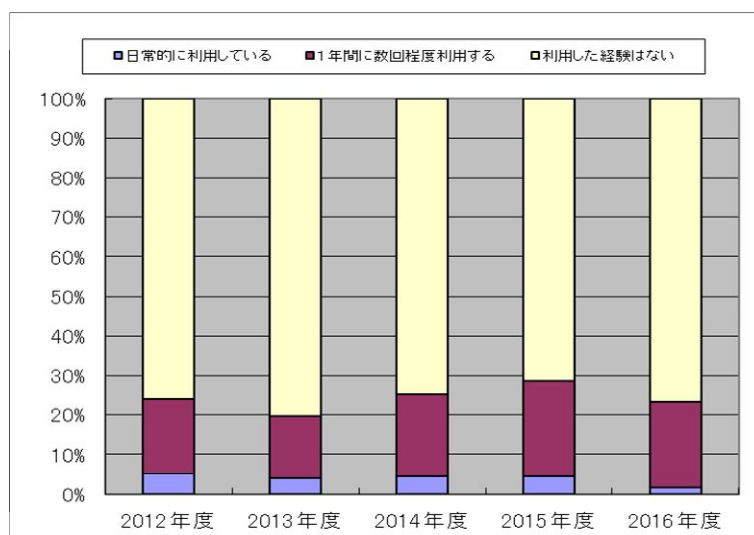
[10-13]学内の共同利用施設（情報科学センター、機器分析センター等）を研究のために利用した経験がありますか。

経験者の割合はここ数年50%近くであり、日常的に利用している学生数は20%弱の傾向は、前年度とほとんど変化していない。高度な研究推進のためには、この傾向の更なる向上が重要であると思われる。もちろん共同利用施設に、先端の測定機器等が潤沢に導入されていることが必須条件となる。しかし、国の施策の問題もあり、先端機器の老朽化等の問題を抱えており、先端研究の高いレベルでの維持のためにも大学執行部の協力も必要と考えられる。また、技官を含めたオペレーターの配置も不十分であるので利用者を増やすためには、オペレーターの充実も必修であろう。



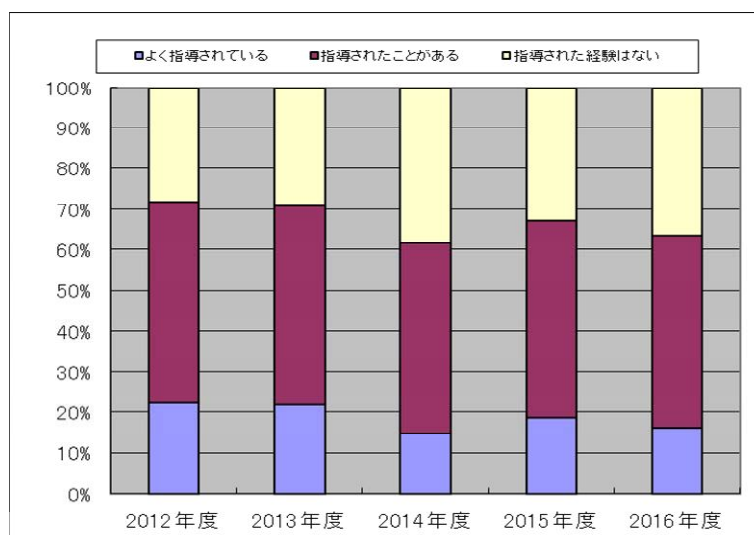
[10-14]学外の共同利用施設等を研究のために利用した経験がありますか。

経験者の割合は、30%近くあり、わずかに前年よりも減少している。学内にない測定機器に関しては、積極的な学外利用が必要と思われる。ただ、使用しやすい環境整備や要求の高い機器の導入する努力が望まれる。



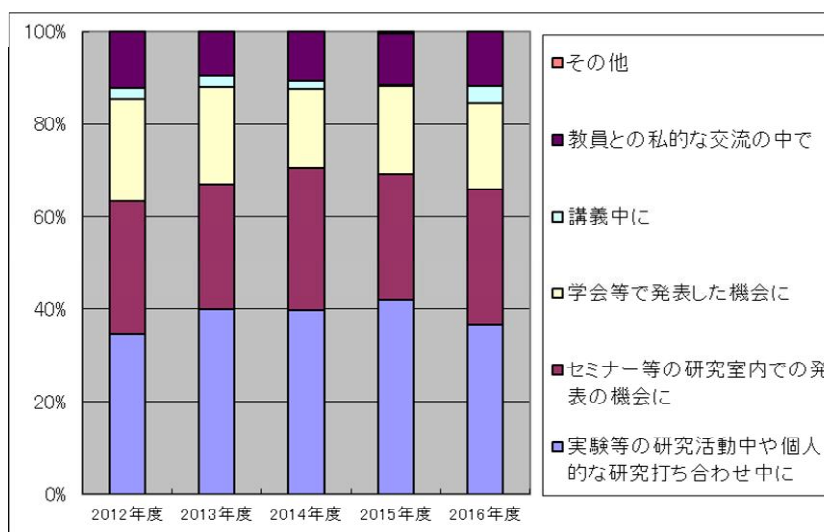
[10-15]学位論文の研究を通して、研究遂行に対して競争意欲が向上するような指導を受けたことがありますか。

指導されている院生の割合は昨年度よりも若干減少しているが、以前の70%を下回っている。[10-10]と連動しているように思われる。継続的な指導改善の取り組みの必要性がある。教員側も世界最先端レベルの研究の高い競争力の維持・高度な研究者の育成のためにも、学生の指導方法について更なる工夫が必要と思われる。



[10-16] [10-15]でA（よく指導されている）またはB（指導されたことがある）と答えた方：それはどのような機会に指導されましたか。（複数回答可）

教員との個人的な研究打ち合わせやセミナー、学会発表等で指導を受けている学生の割合は 90%に達し、この傾向が続いていが、本年度は講義中との解答が増加している。

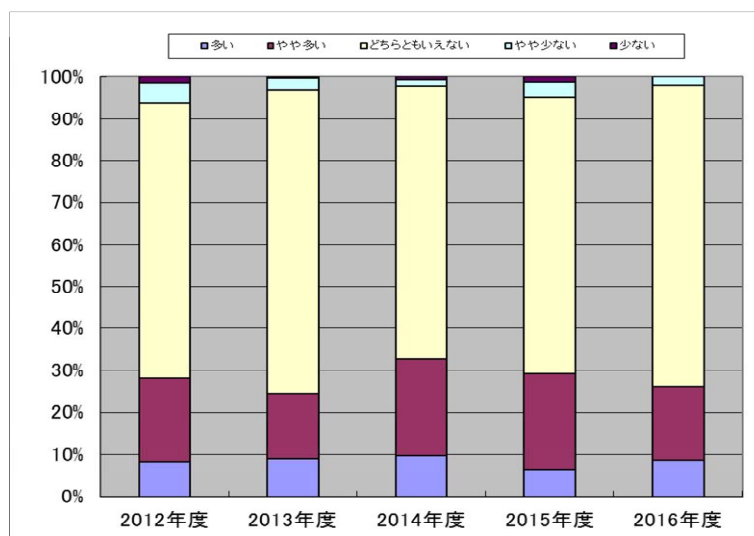


F（その他） [具体的に]
（回答者なし）

[11]工学府・工学研究科における講義・演習等についてお尋ねします。

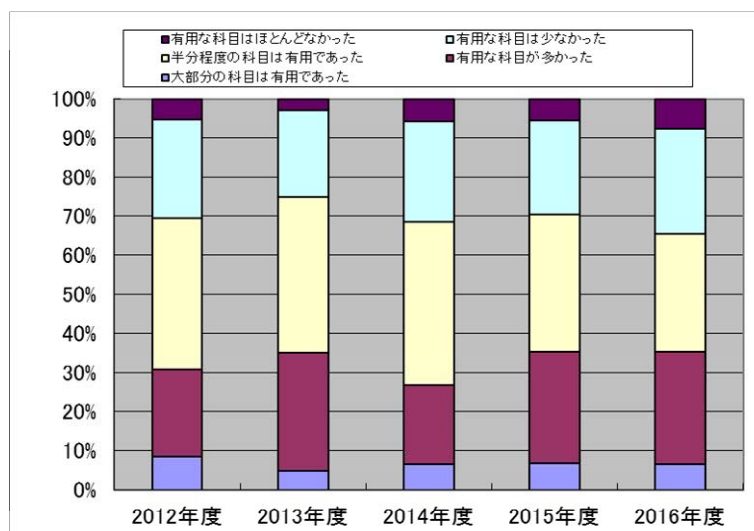
[11-1]工学府・工学研究科における講義・演習等の必要要件単位数は多いでしょうか、少ないでしょうか。

本年度は、「少ない」の回答が見られなくなった。また、「どちらともいえない」が、増加の傾向にあった。現在の学生の能力からすると理解度を深めるためには、必要要件単位は現状維持か微増される必要があると学生も考えているのかもしれない。



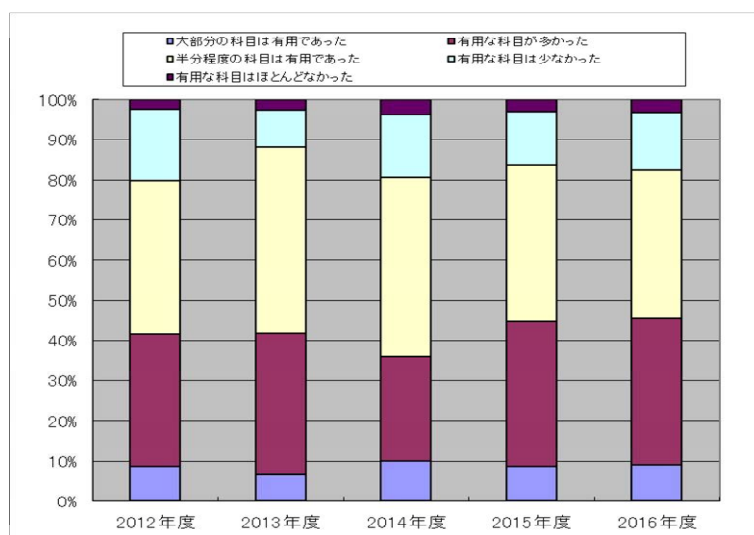
[11-2]工学府・工学研究科で受講した講義科目（演習科目を含む）の中で、自分自身の研究に役立った科目の割合はどの程度ですか。

70%弱の学生は「有用な科目」と回答しているが、「有用な科目が少ない」と回答した院生が微増している。一方で、「有効な科目が多かった」と回答した院生が増加している。有用な科目が増加するように、継続的な講義（演習）内容の改善が必要である。また、学生の科目に対する具体的な意識調査や他大学での動向の調査も必要であろう。



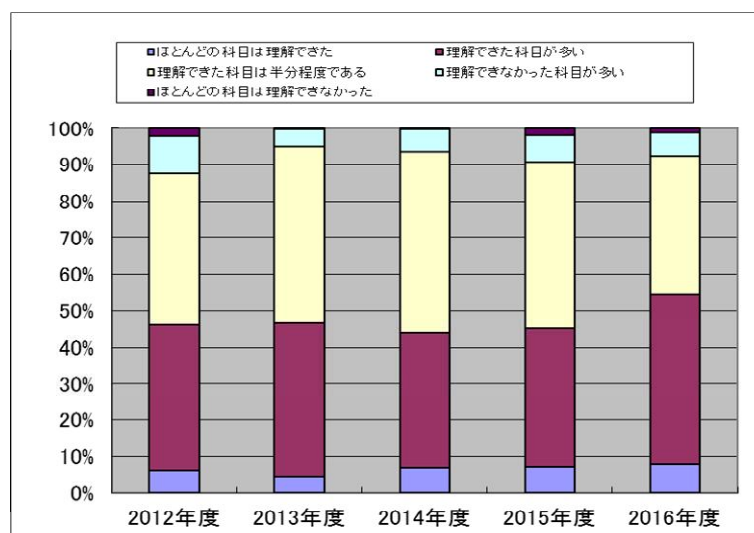
[11-3] 工学府・工学研究科で受講した講義科目（演習科目を含む）の中で、自分自身の成長のために有用であり、履修価値があった科目の割合はどの程度ですか。

「半分程度の科目は有用であった」までを含めた修了生は、80%を超えている。引き続き講義（演習）内容の継続と検討改革が必要と思われる。今後、検討改革のためには、より具体的な有用性の意識調査（具体的科目）等が必要であろう。[11-2]との関連が強い。



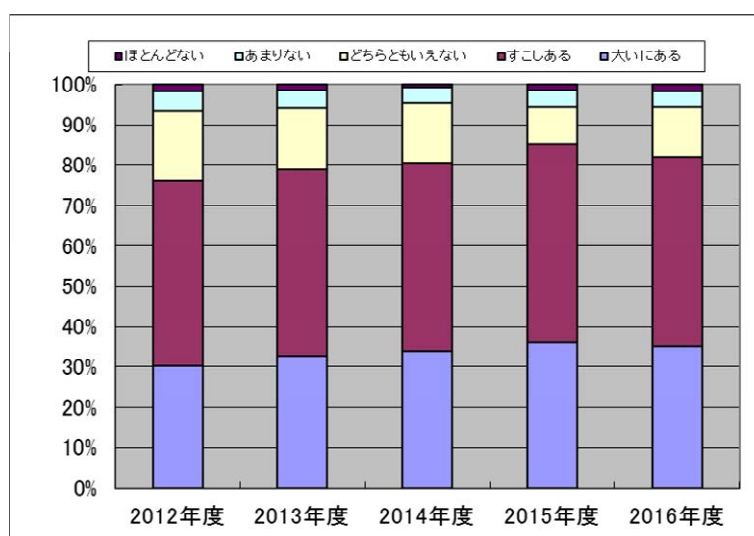
[11-4] 工学府・工学研究科で受講した講義科目の理解度はどの程度ですか。

「理解出来た科目が多い」の割合の増加した分、「理解できた科目は半分程度である」が減少している。結果として、「理解できなかった科目が多い」、「ほとんどの科目が理解できなかった」の割合が10%以下に減少している。引き続き講義内容や教授方法の検討・改善が必要と思われる。教員側の授業方法についての検討の他に、可能であれば、学生側の授業に対してどれだけ積極的に取り組んでいるかなどの（自己学習や、予習復習の実態）調査も必要と思われる。



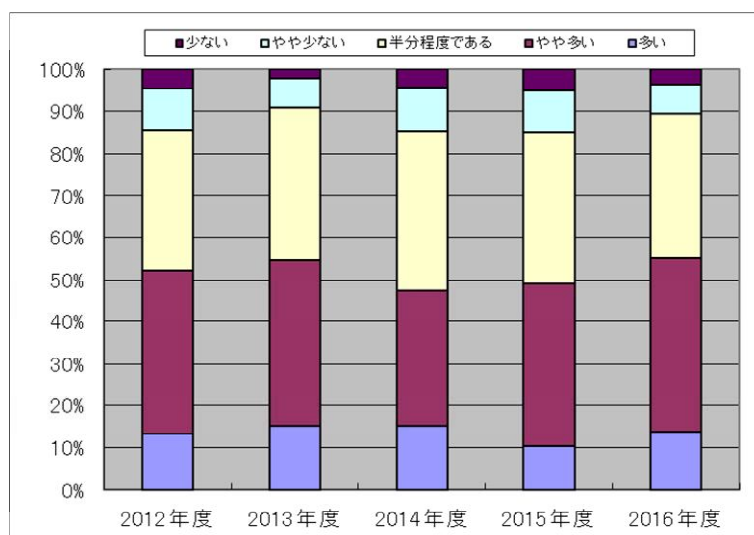
[11-5] 学部で履修した科目と研究科で履修した科目の間に、つながりがあったと思いますか。

「学部で履修した科目との関連がある」と回答した修了生の割合が80%以上で、学部で履修した科目との関連性は高いと判断できる。ただ、「どちらともいえない」が若干増加していた。「あまりない」「ほとんどない」と回答した学生も5%程度いるため、科目の内容等について更に検討することが望まれる。



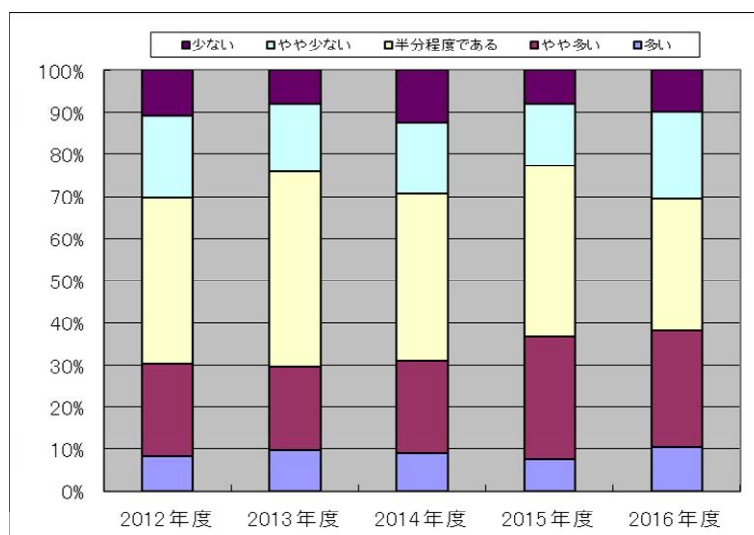
[11-6] 工学府・工学研究科で履修した科目全般について、教育への熱意があった担当教員の割合はどの程度ですか。

「半分以上の教員に熱意があった」と回答した修了生の割合は、90%以上となり、教員の意欲の向上が見られる。今後、教員が研究や教育にさける時間の確保できるようにすべきであろう。



[11-7] 工学府・工学研究科で履修した科目で、就職後、仕事をする上で役に立つと思う科目はどれくらいありましたか。

「半分以上の科目は仕事に役に立つ」と回答した修了生は、ここ数年 70%を維持しており、「実学」の観点からの教育効果は維持されていると思われる。「やや少ない」が 20%に増加しておりその理由に関して調べる必要がある。



[12] TA、RA等の制度についてお尋ねします。

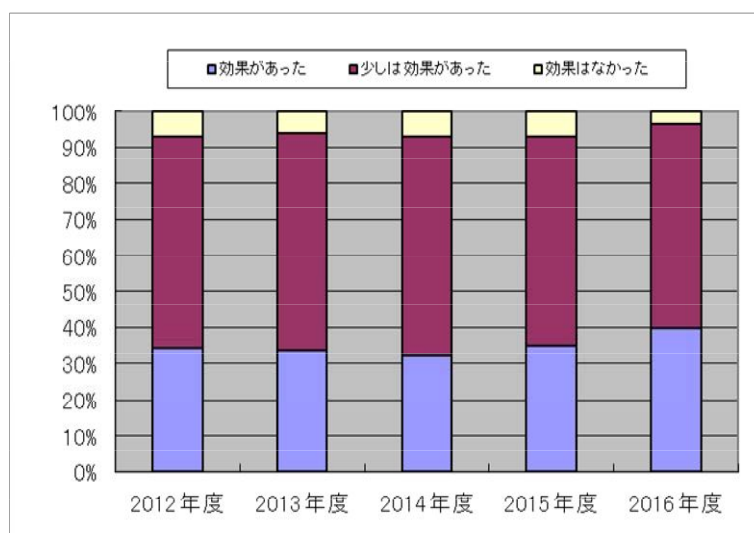
[12-1] TAを担当したことがありますか。

TA経験者は2011年度以降80%以上を維持している。2016年度には90%に及んでいる。TAをつうじた後輩の教育補助も学生にとって良い勉強となると期待されるので今後増やしていくべきであろう。



[12-2][12-1]でA（効果があった）と答えた方：TA活動を通して、学部学生に対して教育的効果があったと思いますか。

「効果があった」と「少しは効果があった」を合わせるとほぼ98%以上あり、TAが学部教育に貢献していると自己評価している。数%の「効果はなかった」の学生の理由を調べる必要がある。



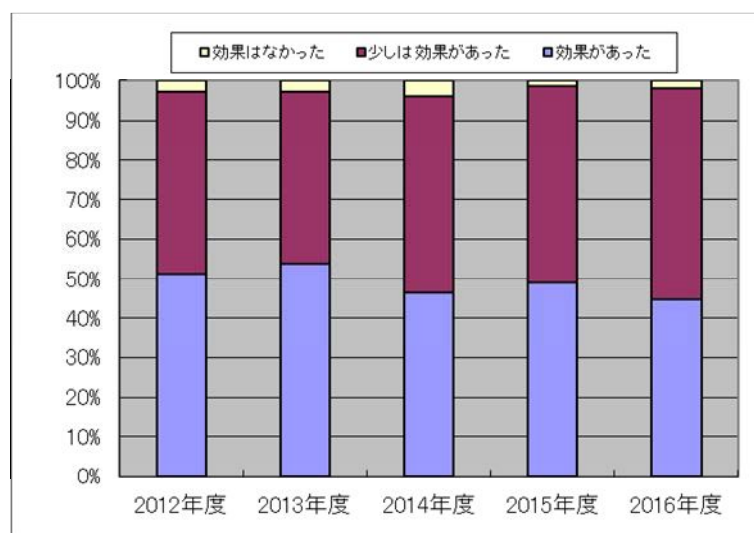
[12-3][12-2]でC（効果はなかった）と答えた方：その理由は何ですか。

TAに積極的に関与していない学生の態度が読み取れる。TA採用の際に趣旨をよく理解させることが重要と考えられる。

- ・ 学生のやる気がなかった。
- ・ 雑用の部分が多いから
- ・ 実験のサポートをただけだったから
- ・ あくまでアシストなので
- ・ 単純な実験指導に留まったため

[12-4][12-1]でA（ある）と答えた方：TA活動は、自分自身にとって教育的効果があったと思いますか。

一貫して95%以上が、教育効果があったと答えており、TA活動が充分機能していると思われる。



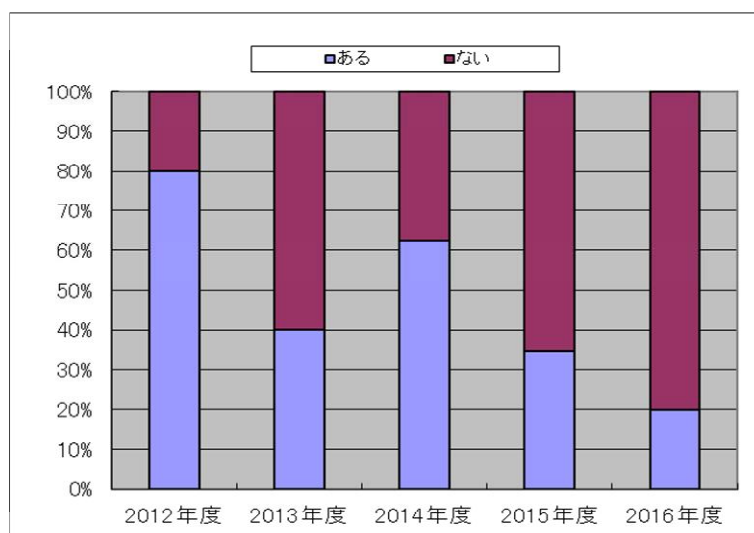
[12-5][12-4]でC（効果はなかった）と答えた方：その理由は何ですか。

TA活動は自分自身にとって教育的効果がなかったとする回答は2015年度には1%であり、この制度が十分教育的な効果を上げていると判断できる。具体的な回答は以下の通りである。TA採用時に趣旨を理解させる必要がある。

- ・ 生徒と関わりがなかったから
- ・ 実験のサポートをただけだったから

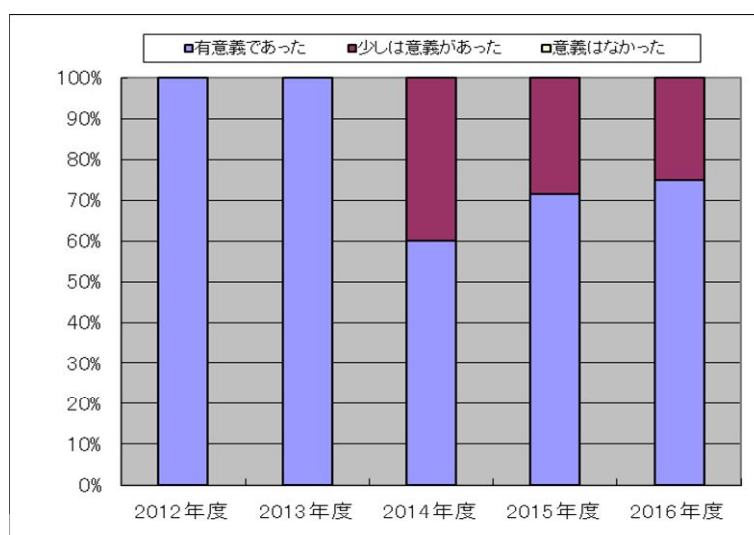
[12-6] R Aを担当したことがありますか。(博士後期課程の修了生のみ)

2016 年度はさらに博士後期課程の RA が減少している。今後 RA を増やすべきである。



[12-7][12-6]でA（ある）と答えた方。RA活動は、自分自身にとって意義があったと思いますか。

RA を行った学生においては意義は認められている。

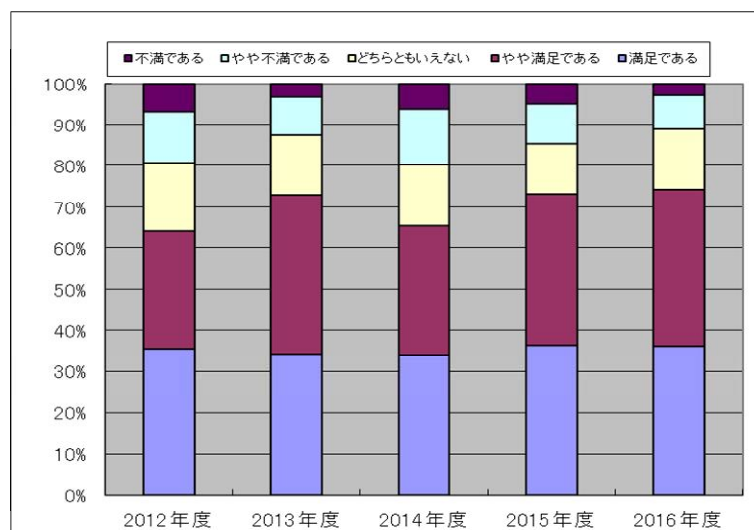


[12-8][12-7]でC（意義はなかった）と答えた方：その理由は何ですか。（博士後期課程の修了生）
(回答者なし)

[13]施設・設備等についてお尋ねします。

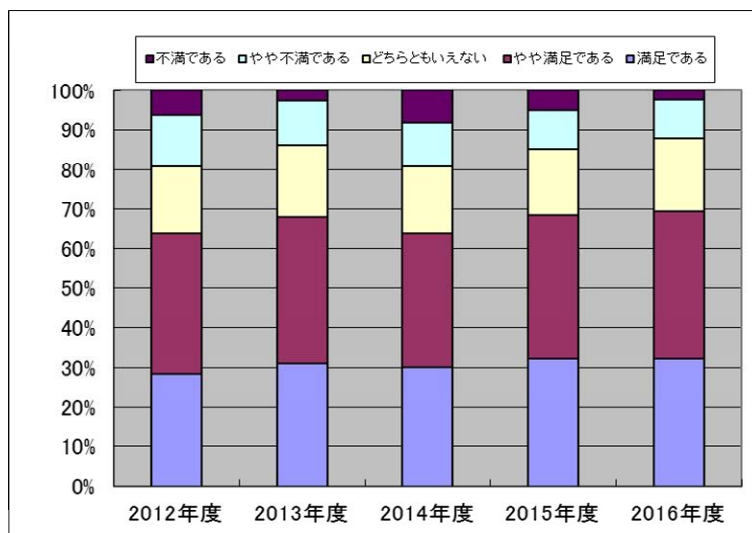
[13-1]研究に使った実験室・実習室のスペースや環境等について満足していますか。

「満足、やや満足」と解答した学生が一貫して3分の2以上を占め、漸増している傾向がみられる。改築等の効果が継続していると思われる。



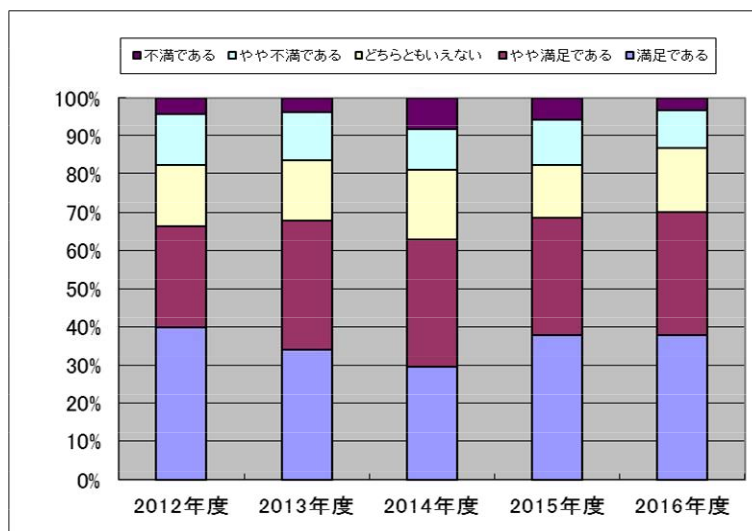
[13-2]研究に必要な設備・装置について満足していますか。

「満足、やや満足」と解答した学生が一貫して3分の2以上を占め、2014年度から漸増している傾向がみられる。改築等の効果が継続していると思われる。



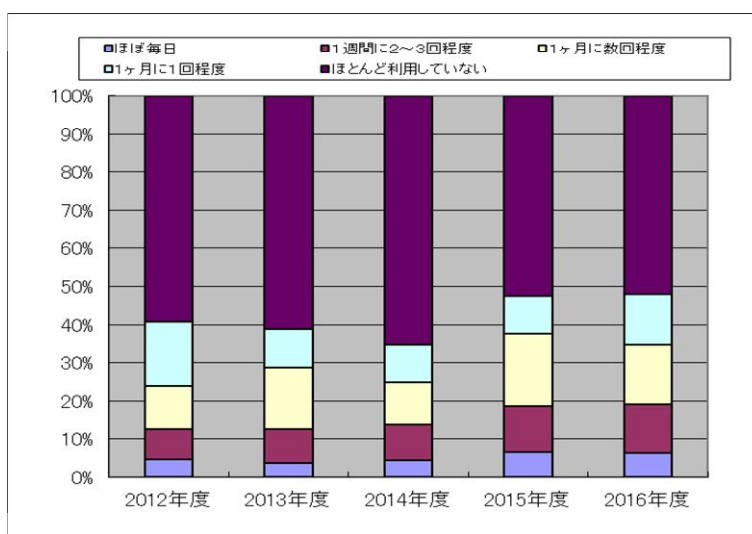
[13-3]研究に必要な情報機器（コンピュータ端末等を含む）の整備状況について満足していますか。

「満足、やや満足」と回答した学生の割合は3分の2程度で定着している。引き続き整備していく必要がある。



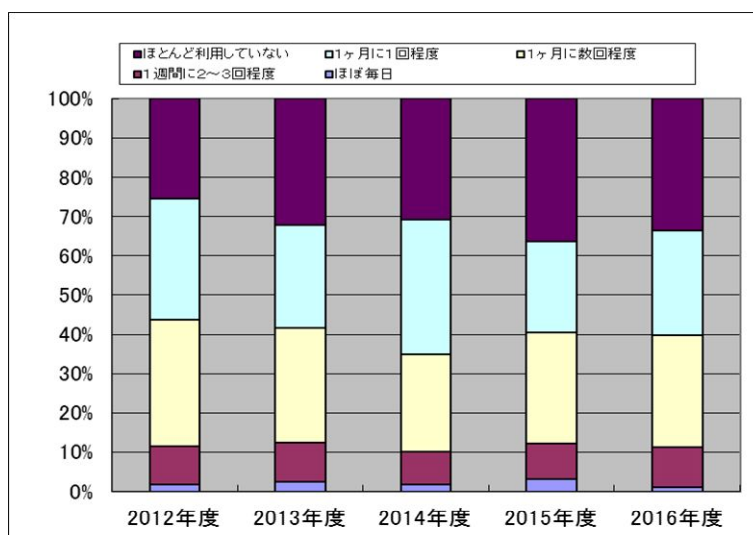
[13-4]情報科学センターが提供しているサービスをどの程度利用していますか。（インターネットや電子メールを除く。）

2015年度は利用率が最も高い結果となっているが、2016年度はさらに若干ではあるが増加していた・約50%の学生が情報科学センターのサービスを利用していない状況であるが、大学院生の場合、研究室の情報環境を利用しており、このアンケートに反映されていない。



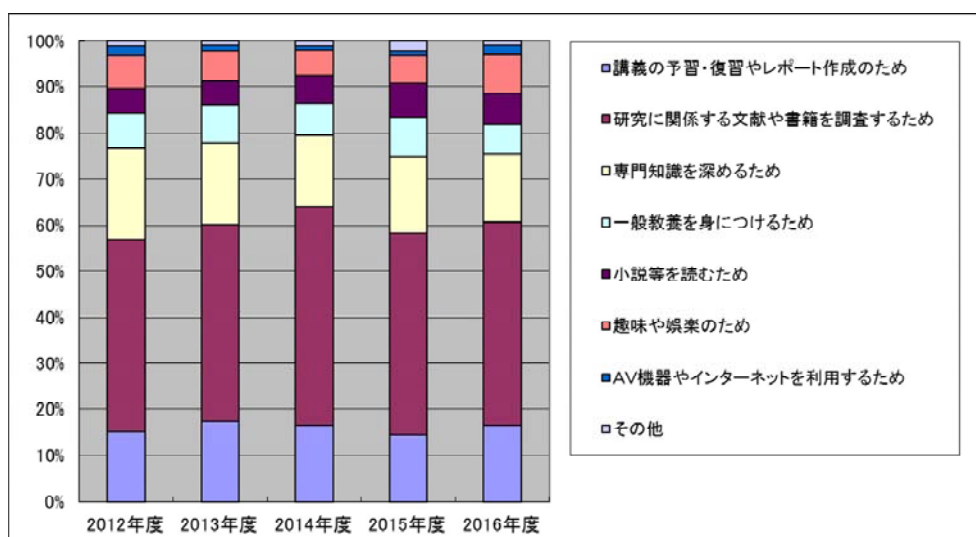
[13-5] 図書館を利用している頻度はどの程度ですか。

例年と同様に図書館の利用頻度は低く、60%の学生が1ヶ月に1回か、殆ど利用なしである。大学院生は電子ジャーナルの使用頻度が高いものと思われるので電子ジャーナルの使用頻度はかなり高いものと思われる。



[13-6] 図書館を利用する主な理由をお答えください。(複数回答可)

学生が講義、研究、専門知識および一般教養に関して図書館を利用している割合の全体的な傾向は大きく変化していない。



H (その他) [具体的に]

- ・ 講義があった
- ・ TOEICの本
- ・ 日本経済新聞の閲覧のため
- ・ 新聞を読むため

2. 3 教育達成度評価アンケート：雇用主 (2014年3月以前卒業生)

本節(2.3)と次節(2.4)では、まだ、九州工業大学工学部及び大学院工学府(旧工学研究科)における教育効果が残っていると思われる入社後3年程度を経過した本学卒業生・修了生を対象に、他大学と比較した教育レベルのアンケート調査を実施し、その結果をまとめています。なお、この時、彼らが在職する各会社・各機関(彼らの雇用主)に対しては、本アンケート調査は他大学の卒業生及び修了生に対する本学学生が受けた教育レベルの評価を行うためのものであり、対象者本人の評価を行うものではないことを断わっています。

※アンケート実施年月日 平成29年7月21日

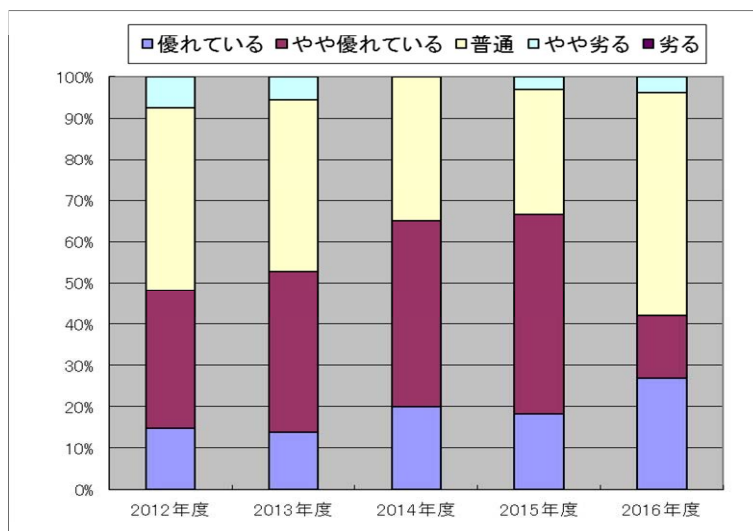
※アンケート回収率

配付枚数	回収枚数
78社	26名

1. 貴社に在籍する九州工業大学工学部卒業生が大学在籍中に受けた教育の習熟度あるいは修得した能力について、該当する項目に○をつけて下さい。

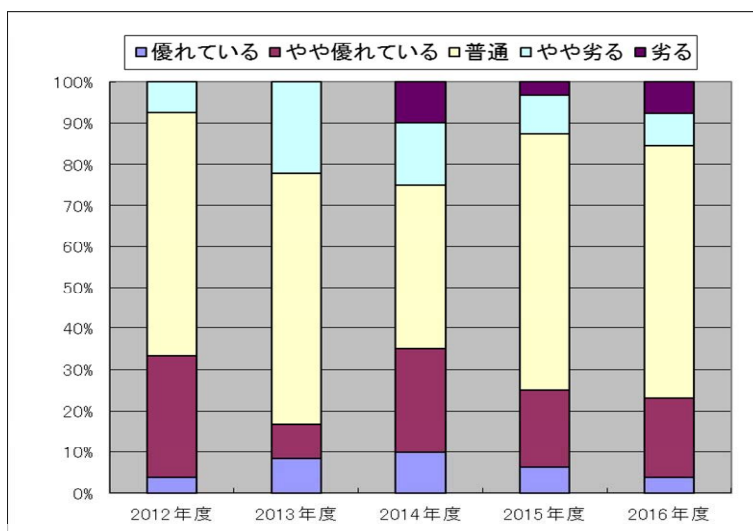
(1) 卒業生の教養(人文・社会等の一般教養)の習熟度

2012年度以降「優れている、やや優れている」が増加傾向にあり、2014年度、2015年度では60%を越えていたが、2016年度は40%近くに激減し、「普通」が大幅に増加している。この激減が一過性のものなのか今後注視する必要がある。



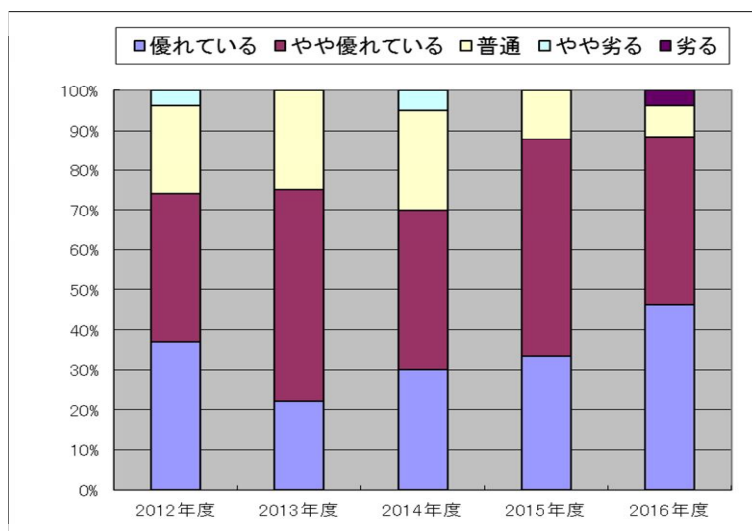
(2) 卒業生の語学(特に英語)の習熟度

「優れている、やや優れている」が2012年度以降、15%~35%の範囲で推移しており、ばらつきはあるものの高いレベルとはいえない。「やや劣る、劣る」が2012年度以降10%~25%程度の範囲で推移しているが、「劣る」が2014年度以降顕在化してきていることは注視すべきである。グローバル人材教育が求められる時代にあって、放置できない状況になりつつある。



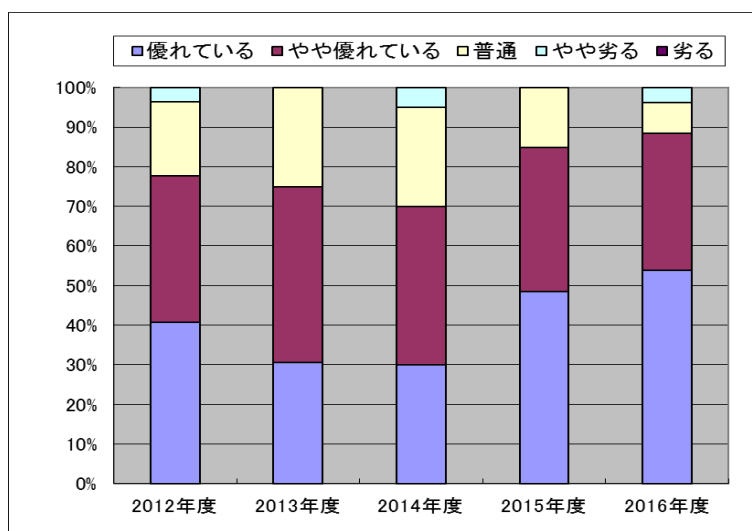
（３）卒業生の理数系科目（数学・物理・化学）の習熟度

「優れている、やや優れている」と回答した企業が 2012 年度から減少傾向にあったが、2015 年度、2016 年度共に持ち直し、90%に近づきつつある。また、「劣る」が 2016 年度に初めて現れている。



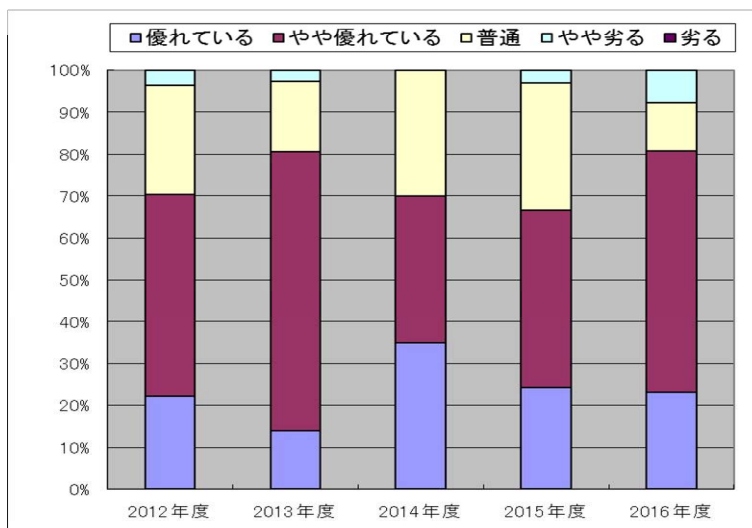
（４）卒業生の専門科目の習熟度

卒業生の専門教育レベルについては、「優れている、やや優れている」が年度ごとに一定しないが、70%～90%の比較的高いレベルで推移している。2016 年度は 90%近かったが、今後も引き続き注視する必要がある。



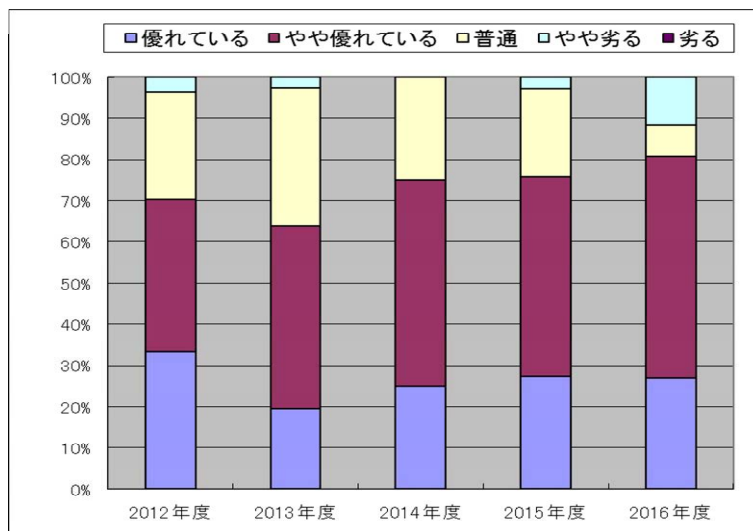
（５）卒業生の課題発見能力

「優れている、やや優れている」がここ 5 年において 70%～80%の範囲にあり、比較的高いレベルと言える。今後も注視する必要がある。



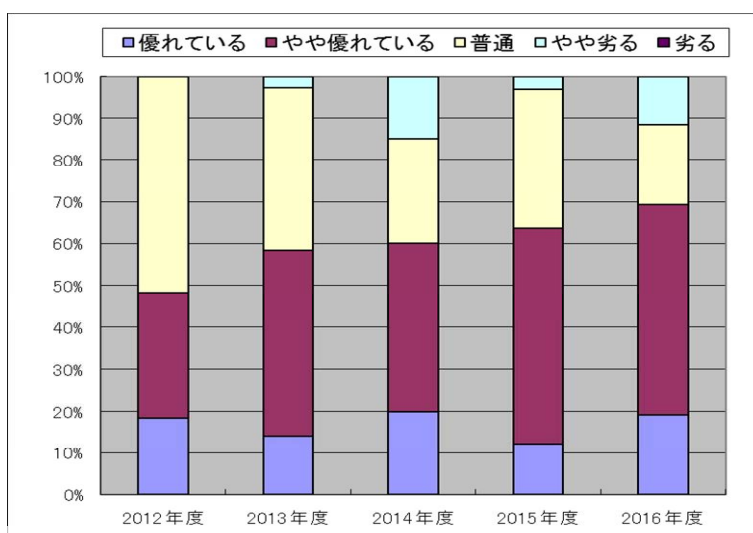
(6) 卒業生の課題探求・解決能力

「優れている、やや優れている」は比較的高い70%～80%程度で推移している。しかし年度ごとの変動もあり、引き続き注視しておく必要がある。



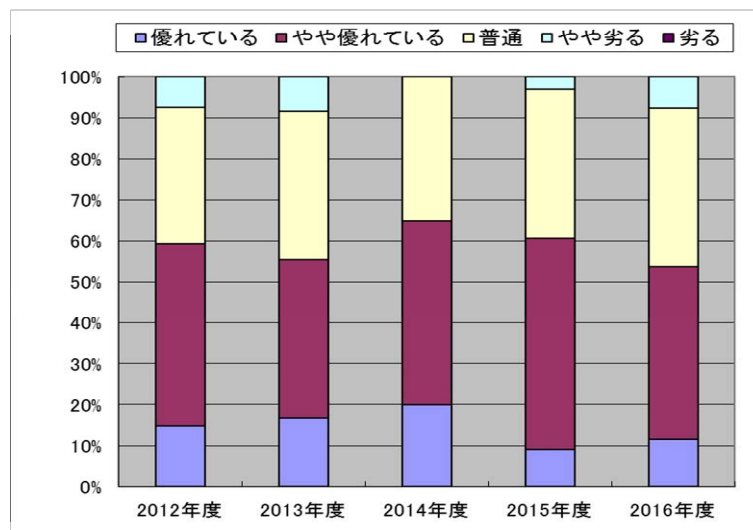
(7) 卒業生の創造的な構想力

「優れている、やや優れている」は2012年度以降年々増加してきており、2016年度は70%近くになっている。今後も推移を見守る必要がある。



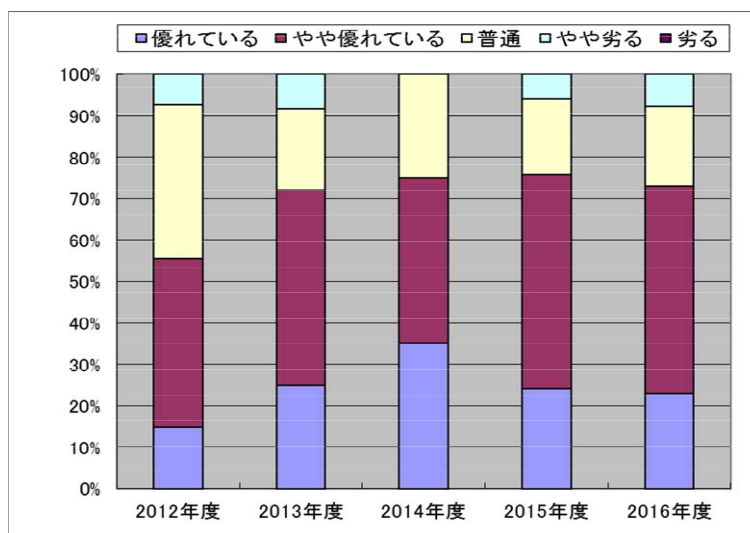
(8) 卒業生の表現力

2012年度以降「優れている、やや優れている」は50%を越えて推移しているが、2014年度以降は減少傾向にある。今後もこの推移を見守る必要がある。



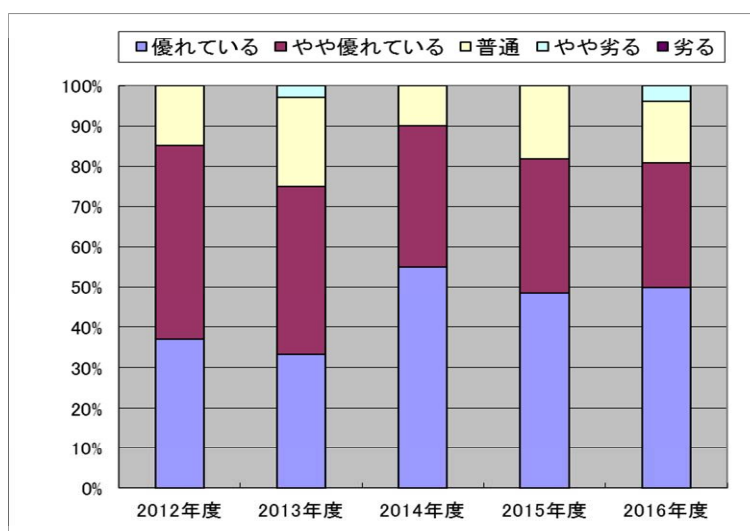
(9) 卒業生のコミュニケーション能力

「優れている、やや優れている、普通」は2012年度以降概ね90%以上を維持してきており、「やや優れている、優れている」の評価は2013年度以降は70%を越えている。企業からの評価が良い方向に変化していることを期待させる。



(10) 卒業生の仕事に取り組む熱意

2012年度以降「普通」以上の評価は90%後半を推移している。また、「優れている、やや優れている」は、2014年度以降80%以上となっており、比較的高いレベルと言える。全体として依然評価は高いと言えるが、今後の動向を注視したい。



2. 貴社・貴機関が九州工業大学 工学部 卒業生に望む事項（卒業生の資質等）がございましたらご記入ください。

指摘されている事柄をキーワードで列举すると、「コミュニケーション能力」、「リーダーシップ能力」、「積極性」、「英語力」を望まれているのが目立つ。「倫理的思考力」、「専門知識」、「課題解決能力」、「発信・伝達能力」等も望まれている。

- ・ 私共の業務においては工学部の専門知識を有していることが必須ではありませんが、電気、力学、物理など就業してから必要になります。就職後に必要な知識を研修で習得しますが、専門分野については大学で身につけておくこと、他の語学力、コミュニケーション能力なども同時に教養レベルは少なくとも必要ですので、一般教養は偏りなく身に付け専門はより深く学んで来て頂ければと思います。
- ・ 既に取り組まれているとお聞きしていますが、語学力及びコミュニケーション（プレゼンテーション）のレベルUPを期待します。Topクラスのレベルupのみならず、アベレージクラスもしくは、学生の平均のレベルが向上することで採用にもさらにつなげやすくなると考えます。
- ・ 1・2年生次に学ぶ基礎科目（英語・数学・物理・化学）が卒業すると忘れてしまうようです。基礎科目の知識は技術者にとって、課題を解決する上で、大切なものです。
- ・ 積極的に、ねばり強く対応できる人材が欲しい。

- ・ グローバル志向を高めていただけると今後更なるご活躍が期待できると思います。(語学教育、留学生との交流など)
- ・ 知識深いだけでなく、物事を前向きに捉えて進める資質
- ・ 新しい技術の習得等の挑戦する気持を持つことが大事だと思います。
- ・ 事業のグローバル化により、語学力や国際的なコミュニケーション力をさらに身につけていただきたいと思います。まずは、日本語でのコミュニケーションが上手く取れることが前提ですが、貴校卒業生については、問題なく、コミュニケーションは良好です。
- ・ コミュニケーション能力、課題発見能力、英語力の向上に励んで頂きたい。
- ・ 仕事への適応能力
- ・ チームの中で仕事を遂行する能力
- ・ 論理的思考に基づく問題解決能力
- ・ リーダーシップを発揮する能力
- ・ 語学力
- ・ 自分で考えながら、自律的に物事を進めることができる人
- ・ 集団統率力がある人
- ・ しっかりと自分の考えを持っていて発信できる人
- ・ 上司や先輩等、周囲の社員としっかりコミュニケーションが取れる人
- ・ 組織人として倫理観を持ち、セルフコントロールができる人
- ・ 積極性、コミュニケーション能力
- ・ 課題解決に向けた能力が欲しい。つまりは応用力のある学生育成望みます。
指示待ちの人が多くなってきた様に感じます。
- ・ 持っている高い能力を発揮して、より社会、地域、会社に貢献して欲しい。
例えば、課題発揮能力やコミュニケーション能力の発揮。
- ・ 自分から積極的に仕事に取り組める方
- ・ 失敗を恐れないチャレンジ精神をお持ちの方
- ・ 専門性や能力を求めることは当然のこと。困難に立ち向かう姿勢が欲しい。
- ・ 弊社に入社された卒業生から言えば非常に優秀で問題はありません。
- ・ 九州のみならず、全国・海外でも活躍できる人材に成長してほしいと思う。

3. 九州工業大学 工学部の教育に対して、ご意見・ご要望（企業が必要とする人材の専門分野、専門知識等）がございましたらご記入ください。

業務に応じた多岐に亘る専門知識についての教育の期待が強く、また、コミュニケーション能力、説明能力に秀でた人材の育成等の期待がある。

- ・ 原子力工学の専門知識 FEM解析の専門知識
- ・ 特定の専門分野を必要としている業種ではないため、一般教養に加え、学生が興味を持った事項を学んで頂ければ充分です。
- ・ 各分野の専門知識は他の大学より高く能力も発揮してくれている様に思います。さらに強みにするために、専門分野を相互に複合的に活用する様なシステム思考を発揮できると良いと考えます。
- ・ 貴校では基礎科目は1年で、専門科目が2、3年に集中しているようですが、卒業してからも基礎科目の知識を忘れないようにするため、基礎と専門がバランス良いようにすれば良いかと思います。

- ・ 素直に教えたことを遂行できる能力(自己主張のみしない)
- ・ 根張り強く最後まで成しとげる能力
- ・ 自動車メーカーですので、機械(力学基礎)、電気、電子、IT系の人材を希望します。
また、ダイバーシティの観点から、女性の採用を注力しています。(学科は不問！)
- ・ 造船業をもっと知って頂くように授業の一環として工場見学、夏期実習を受け入れたい。
- ・ 機械設計・電気設計知識
- ・ 溶接工学の教育を希望します。
- ・ 今後も、社会に貢献していく人材を育てていってください。
基礎的な能力を持ち、そのうえでユニークな視点を持つ人材が求められていくと考えます。
- ・ 有機化学の知識を持った学生さんがいらっしゃればご紹介頂きたく。
- ・ 構造力学

4. 全体としての傾向

2016 年度においては、「優れている、やや優れている」は、「仕事に取り組む熱意」「理数系」「専門」「課題発見能力」「課題探究解決能力」が 80%に達して高く、その次に「コミュニケーション能力」の評価の上昇が目立つ。70%台にその「コミュニケーション能力」、60%台に「独創的な構想力」、50%台に「表現力」、40%台に「教養」が続く。ここ数年「表現力」が減少傾向にある。

しかし、「語学」は依然「優れている、やや優れている」は少なく、20%台に留まっている。特に、ここ数年「優れている、やや優れている」が減少傾向にあり、今後の動向に注視したい。全体的に、「劣る」はごく僅かである。

全般において卒業生は企業から概ね高い評価を得ていると判断できる。特に、「仕事に取り組む熱意」「理数系教育」「専門教育」「課題発見能力教育」「課題探究解決能力教育」における評価が高いレベルを維持していることは目を引く。「語学」の評価は他の項目に比べてかなり低く、「優れている、やや優れている」が減少傾向にあることが気になる。

2. 4 教育達成度評価アンケート：雇用主 (2014年3月以前修了生)

※アンケート実施年月日 平成29年7月21日

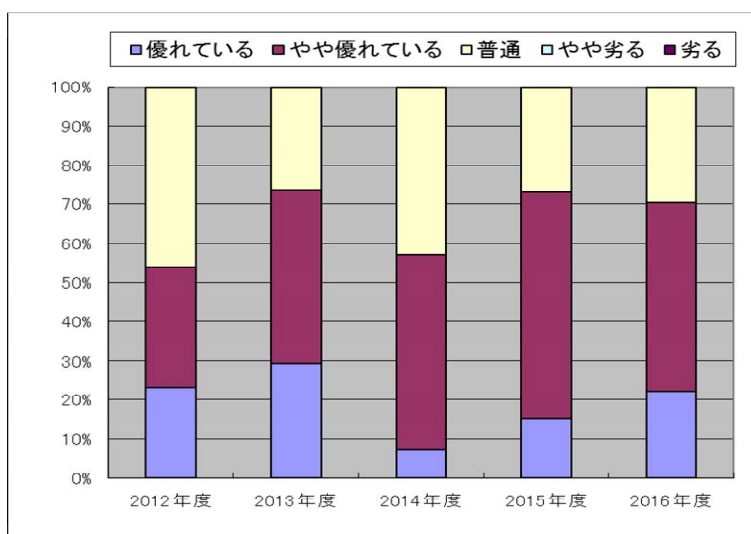
※アンケート回収率

配付枚数	回収枚数
114社	28名

1. 貴社に在籍する九州工業大学大学院工学府・工学研究科修了生が大学在籍中に受けた教育の習熟度あるいは修得した能力について、該当する項目に○をつけて下さい。

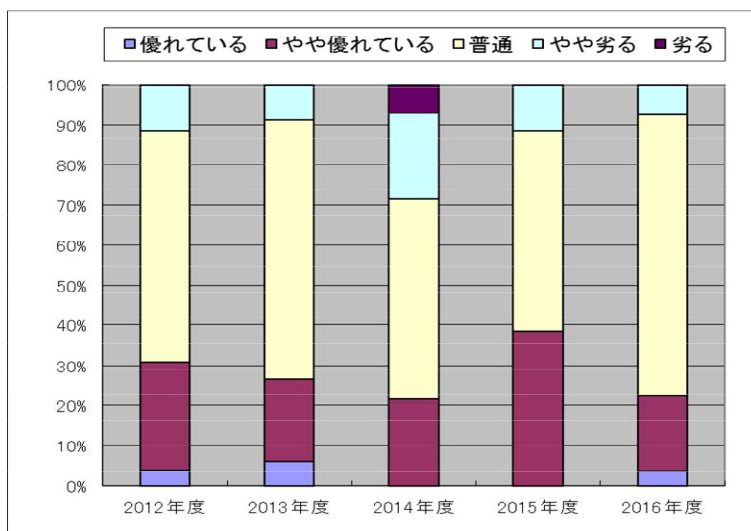
(1) 修了生の教養（人文・社会等の一般教養）の習熟度

「優れている、やや優れている」は2012年度以降ばらつきがあるものの50%～75%の範囲で推移している。2012年度、2014年度は60%を下回ったが、2015年度以降は70%以上になっている。今後の動向に注意を払う必要がある。



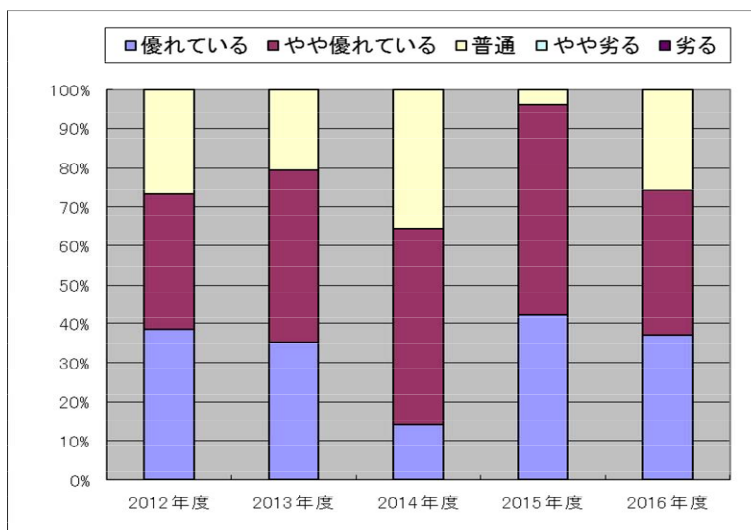
(2) 修了生の語学（特に英語）の習熟度

「優れている、やや優れている」が概ね20%～40%と低迷を続けている。企業からの評価は厳しく、現在の教育を再点検し、効果的な改善策を考える一方、今後の動向を注視する必要がある。



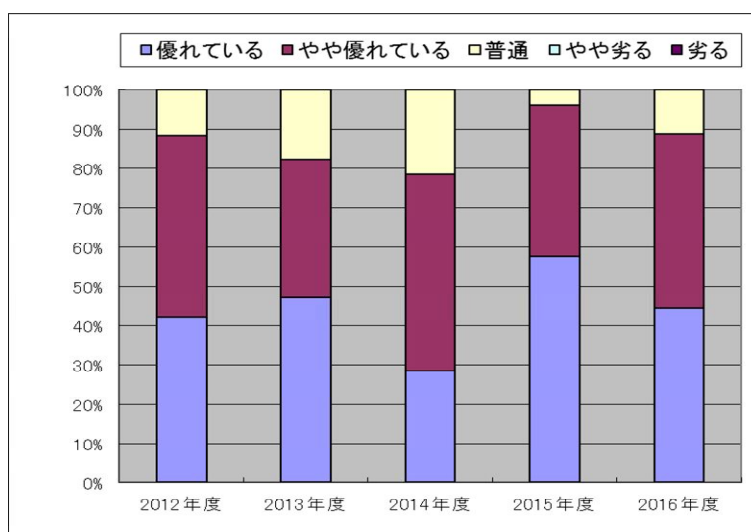
（３）修了生の理数系科目（数学・物理・化学）の習熟度

「優れている、やや優れている」は、2012年度以降概ね順調に推移している。ただ2014年度は10%以上の低下を見せていたが、2015年度には回復している。全体的に企業から高い評価を受けていると判断できるが、今後の動向に注視したい。



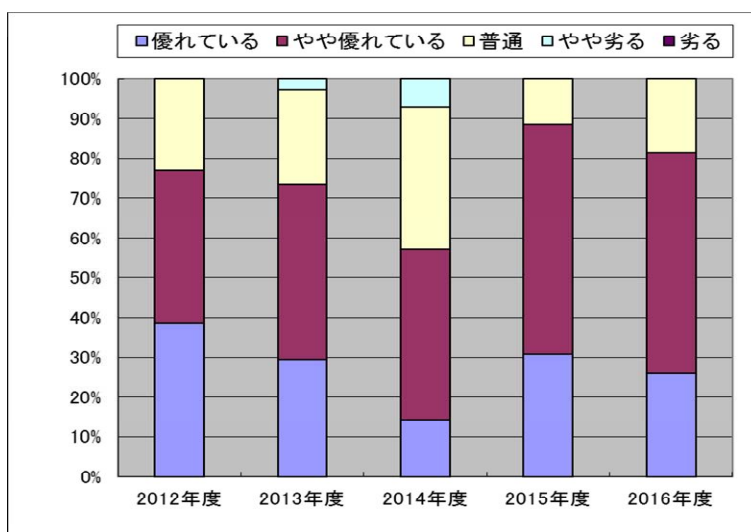
（４）修了生の専門科目の習熟度

「優れている、やや優れている」は、2012年度以降80%を超え、比較的高いレベルで推移している。2015年度、2016年度共に90%程度の高いレベルにある。この評価項目に関しては依然として企業からの評価は高い。



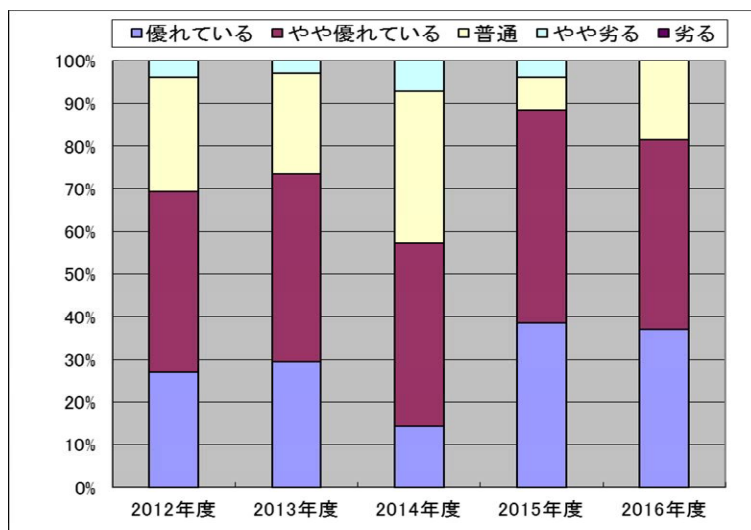
（５）修了生の課題発見能力

「優れている、やや優れている」は、2012年度～2014年度では減少傾向にあり、60%近くまで減少した。その後、回復傾向にあり、2015年度は90%程度、2016年度は80%程度と比較的高いレベルで推移している。2015年度～2016年度と比較的高いレベルにあるものの、今後の動向に注視したい。



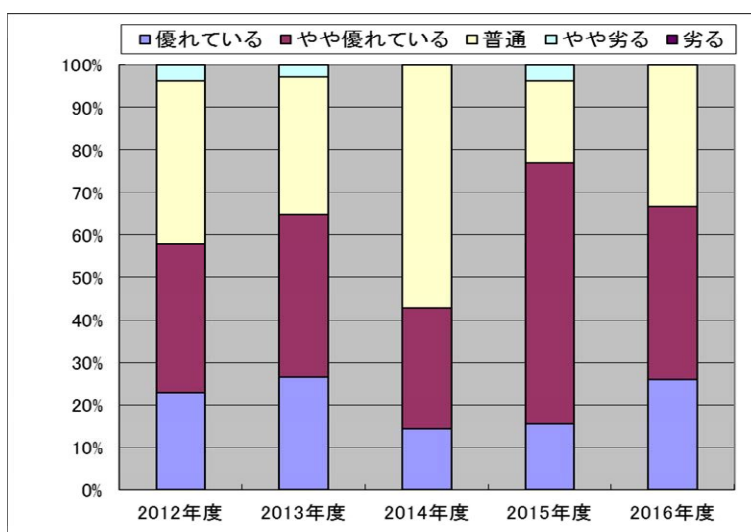
(6) 修了生の課題探求・解決能力

この数年、「優れている、やや優れている」は概ね60～90%の範囲で推移していたが、2014年度は60%を割り込んだ。2015年度以降は回復傾向にある。今後も推移を注視する必要がある。



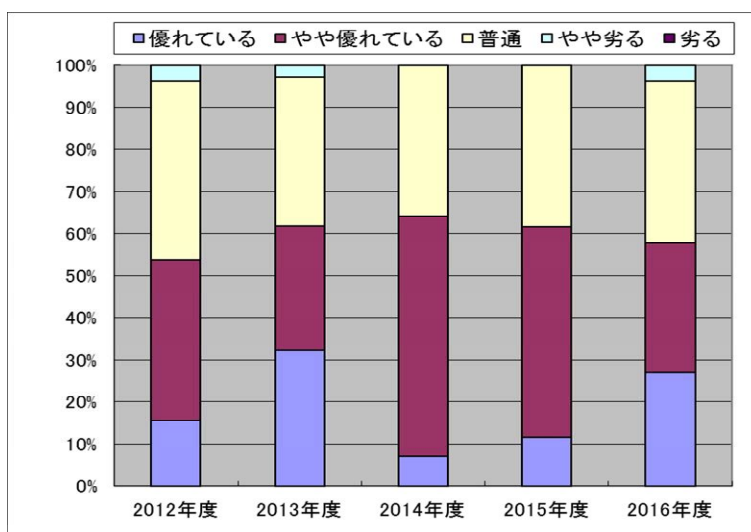
(7) 修了生の創造的な構想力

「優れている、やや優れている」が2012年度以降着実に向上して、2013年度は60%を上回ったが、2014年度は20%以上低下している。2015年度以降は回復傾向が見られるものの、見逃せない推移であり、今後の推移次第では、対策を考えなければならない。



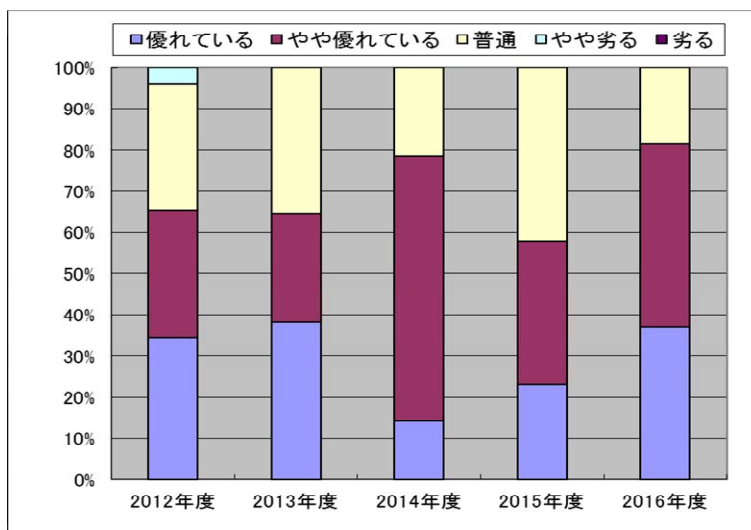
(8) 修了生の表現力

「優れている、やや優れている」は2016年度まで概ね50～65%の範囲で推移していたが、2013年度～2015年度では60%を越えている。一方、2014年度以降はやや減少傾向にあり、「やや劣る」は無いものの、楽観視できない教育項目である。



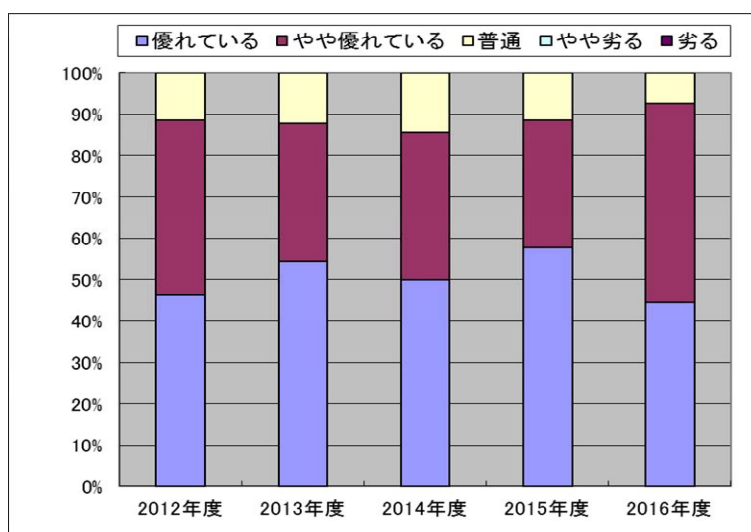
(9) 修了生のコミュニケーション能力

「優れている、やや優れている」が2012年度以降は60%～80%の範囲で推移している。2015年度は他の年度と比べて60%以下と低いレベルにあるが、一過性のものか注視する必要がある。2013年度以降は「やや劣る」が無く、企業の評価が上昇している項目である。今後は、「優れている」の評価を増やす対策を考える必要がある。



(10) 修了生の仕事に取り組む熱意

「優れている、やや優れている」は概ね90%の高いレベルを維持している。2012年度以降の「優れている」の評価が、50%前後を推移しており比較的高い評価を得ている。修了生は企業から高い評価を受けていると判断できる。



2. 貴社・貴機関が、九州工業大学 大学院工学研究科 修了生に望む事項（修了生の資質等）がございましたらご記入ください。

指摘されている事柄をキーワードで列挙すると、「コミュニケーション能力」、「積極性」、「創造力」、「リーダーシップ力」、「問題解決能力」、「英語力」等を期待されていることがわかる。

- ・ 弊社はグローバルに広く事業を展開しており、実際に海外で活躍する社員が増えているだけでなく、国内で勤務していても、海外との接点を持って業務を行うことが少なくありません。したがって、語学力特に英語においてより高いレベルが求められる傾向が強くなっております。
- ・ 失敗を恐れず何事にも積極的に取り組む姿勢を持っていただければ良いと思います。
- ・ 困難か困難から逃げず、物事に真面目に取り組む姿勢は、評価できるが、今ひとつ、創造力に乏しい傾向が強い。自由闊達な社風に合う人材であって欲しい。
- ・ 真面目でコツコツと業務遂行される方が多い。
- ・ 活発かつ探求心を持っていること。
- ・ 創造力豊かで熱意を持って行動できること。
- ・ グローバル志向を高めていただきたい。
- ・ 積極性があり、リーダーシップを持った社会人になっていただきたい。

- ・ 就職後に種々課題に直面する機会があります。こういった場合に、学生自身が大学に自由に相談できるようなコミュニケーション能力を向上させる教育を入れて頂けたらと思います。探究心を保有した積極性のある学生を期待します。
- ・ 今まで同様、明るく、元気よく、の資質を求めます。
- ・ エンジニアとして、原理・原則を考え、真因を追究する探究心。
- ・ リーダーシップをとれる学生を期待します。
- ・ 専門技術知識の習得
- ・ 「枠にとらわれない思考」「知的的好奇心」など、幅広い分野に対して関心を持っていただきたいと思います。
- ・ 専門業務への深い知識とその知識を発揮する能力
- ・ 自立性、視野の広さ
- ・ 課題に取り組む姿勢 探究心 専門分野への特化でなく幅広い知識
- ・ 英語力
- ・ コミュニケーション力(リーダーシップ経験等)
- ・ 自分の興味、関心が薄い分野についても、ある程度の基礎知識を備えていて欲しいと思います。

3. 九州工業大学 大学院工学研究科の教育に対して、ご意見・ご要望（企業が必要とする人材の専門分野、専門知識等）がございましたらご記入下さい。

指摘されている事柄をキーワードで列挙すると、「専門分野の基礎力」、「関連分野を含む総合的技術と能力」、「グローバル意識」、「リーダーシップ力」、「広い視野をもつ」、「外国語能力」等の育成を期待されていることがわかる。

- ・ 平素より弊社の採用活動にご支援を賜り、誠にありがとうございます。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。
- ・ 創造力を養う教育
- ・ グローバルな視点で物事を捉える力を養う教育
- ・ 専門知識、分野だけでなく、もっと社会に目を向けるような一般教養も学んでもらいたい。
- ・ 女性の採用に注力しています。学科は不問ですので、セミナー等で接触の機会を頂きたいと思います。
- ・ 貴大学からの採用者は個人の学力差が少なく育成側としても安心感があります。
- ・ 今後ともよろしくお願いいたします。
- ・ 土木の分野で、今まで通り専門的知識を持った学生を育ててほしい。
- ・ 材料知識やこれらを評価分析する技術を理論と合わせて教育して頂けたらと考えます。敏速に実践に対応できる人材になると思います。
- ・ 化学工学的要素を強化してほしいです。
- ・ 機械、電気における基本となる要素技術をしっかりと身に付けさせて欲しい。
- ・ 専門業務についての熱のある教育をお願いします。
- ・ 今後とも社会で活躍する優秀な学生を輩出下さい。
- ・ 様々な機関、企業との交流 異業種、異業界、異職種に就業した先輩との交流
- ・ いずれ中核を担う人材として、リーダー性についても御願ひしたいと思います。

4. 全体としての傾向

2016年度においては、「優れている、やや優れている」は、「仕事に取り組む熱意」が90%台とレベルが高く、80%台に「専門教育」「コミュニケーション能力」「課題発見能力」「課題探究解決能力」がそれに続く。そのあと、70%台に「理数系」「教養」が続く。「仕事に取り組む熱意」以下、「専門」「コミュニケーション能力」「課題発見能力」「課題探究解決能力」「コミュニケーション能力」が何れも80%を超えて高いレベルであることは喜ばしい。しかし、60%台に「独創的な構想力」、50%台に「表現力」があり、注視すべきである。「語学」は概ね20%～30%の範囲を推移しており低いレベルにあることは、注視が必要である。全般的には「劣る」、「やや劣る」の評価は少ない。

今の結果を鵜呑みにはできないが、全般的に修了生に対する企業から評価はある程度のレベルを示唆する結果になっている。しかし、「語学」「表現力」「独創的な構想力」における改善の必要性を意識すべきであろう。

2. 5 教育達成度評価アンケート：卒業生 (2014年3月以前卒業生)

本節(2.5)と次節(2.6)では、まだ、九州工業大学工学部及び大学院工学府(旧工学研究科)における教育効果が残っていると思われる入社後3年程度を経過した本学卒業生・修了生を対象に、彼らが大学時代に受けた教育レベルと満足度に対するアンケート調査を実施し、その結果をまとめています。

※アンケート実施年月日 平成29年7月21日

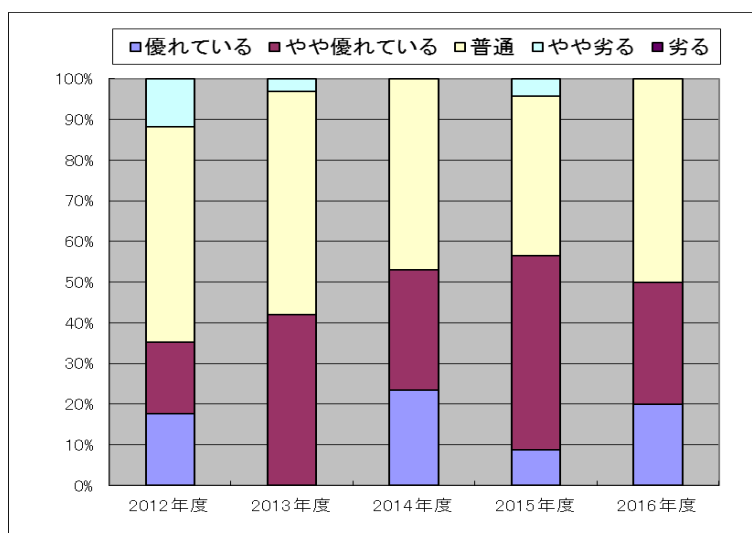
※アンケート回収率

配付枚数	回収枚数
87名	20名

1. 教育の達成度について、該当項目に○をつけてください。

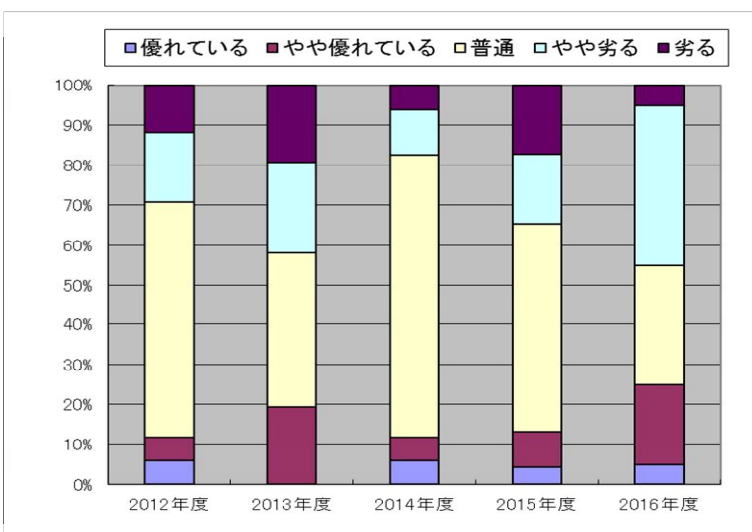
(1) あなたが受けた教養教育のレベル

前年度と比較をすると、「やや優れている」以上の評価が若干下がっている。しかしながら、「やや劣る」以下のネガティブな評価がゼロであり、全体的な評価はまずまずと言える。



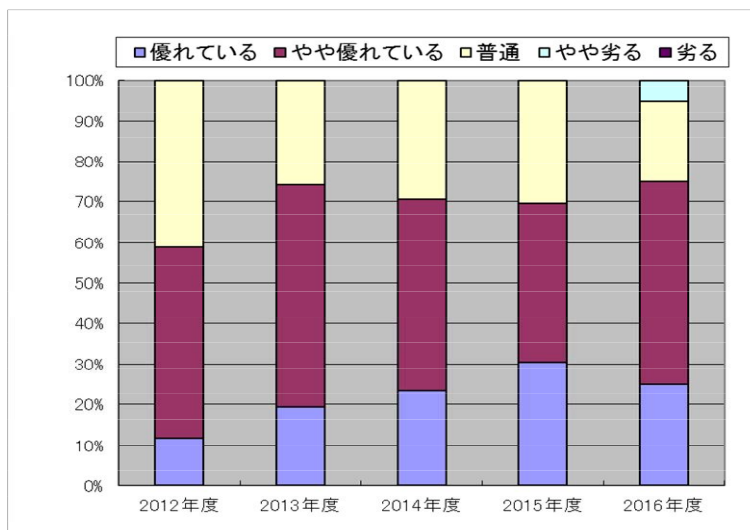
(2) あなたが受けた語学(とくに英語)教育のレベル

前年度と比べ、「やや優れている」以上の評価も「やや劣っている」以下の評価も増えている。その為、全体的な評価は難しいが、「やや劣っている」の評価が40%以上あり、これまで行われてきた対策ならびに、これから行われようとしている対応策を見ながら更なる改善策を引き続き考えていく必要がある。



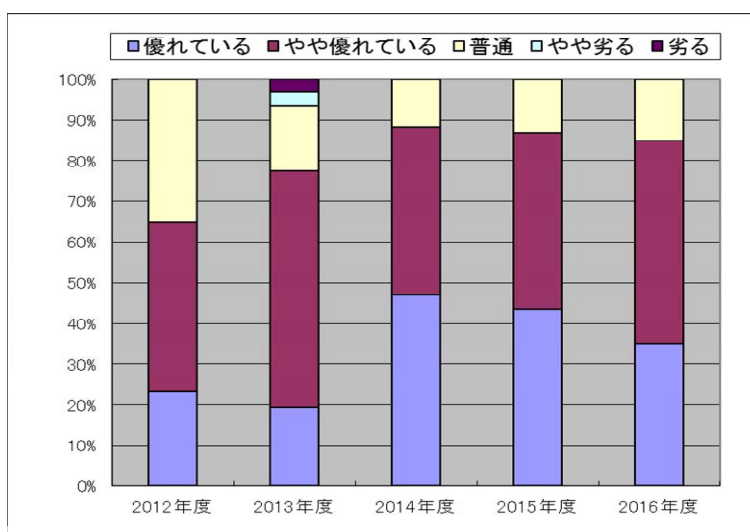
（３）あなたが受けた理数系教育のレベル

「やや優れている」以上の評価は70%あり、これは前年度と同程度である。「やや劣る」以下の否定的な評価が5%程度であり、教育内容がおおむね高く評価されていることが分かる。



（４）あなたが受けた専門教育のレベル

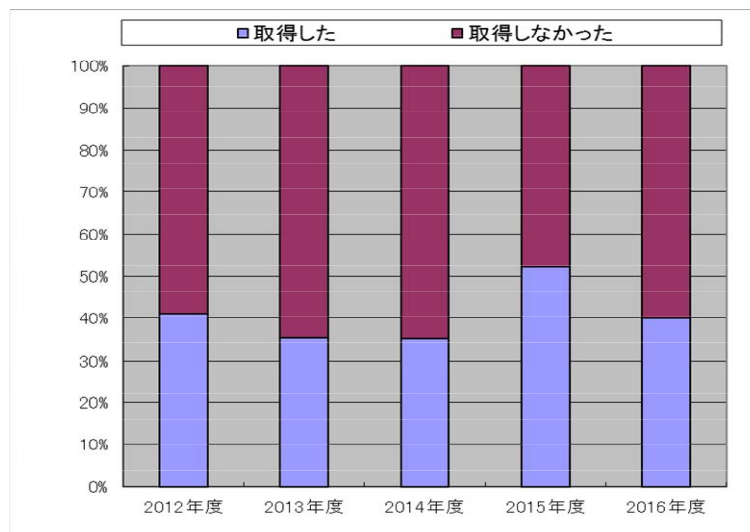
「優れている」の評価は前年度に比べて微減である。また「やや優れている」以上の評価も前年度に比べて微減であるものの、85%以上ある。「やや劣る」以下の否定的な評価はゼロである。このことから、専門教育の内容についてはほぼ期待に達しない満足できるものであることが読み取れる。



（５）あなたは入社後資格を取得しましたか？

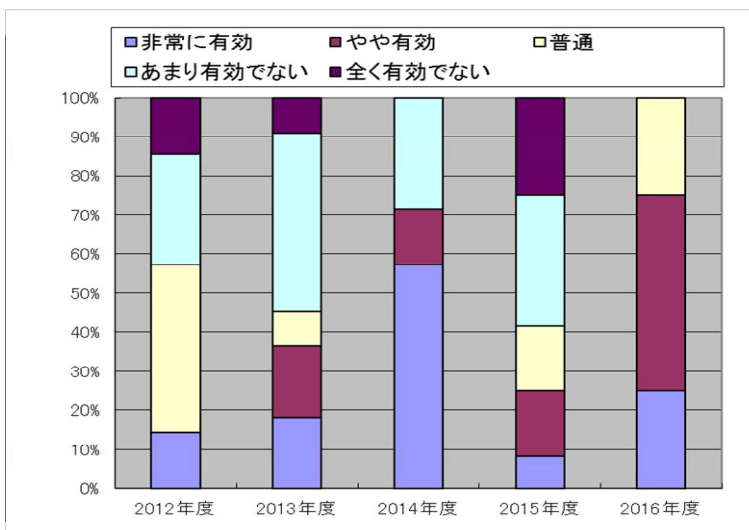
○入社後取得した資格（具体的に）
 危険物取扱者、
 応用情報処理技術者、医療情報技師
 基本情報技術者、技術士補
 第1種衛生管理者、品質管理検定
 溶接施工管理士

前年度より若干減ったものの、今年度も40%程度の卒業生が入社後に資格を取得しているのが確認できる。JABEEの認定など、資格取得に影響を与えるような大学全体の取り組みがどのような効果を生んでいるのか、引き続き調査を行うことは意味がある。



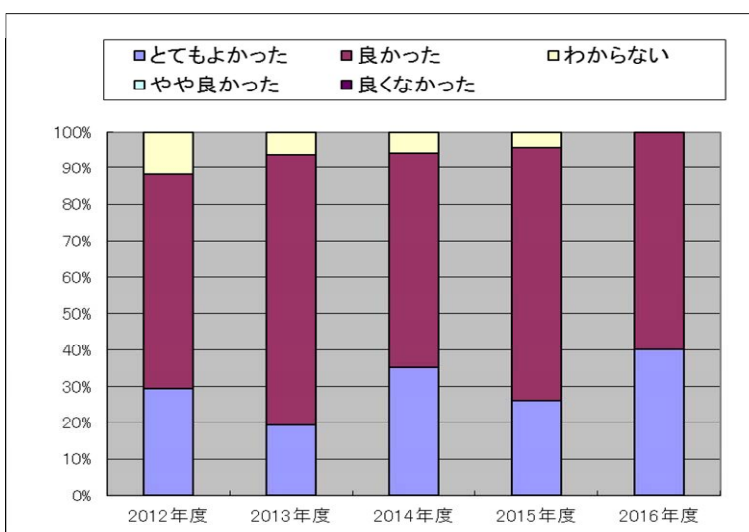
(6) 資格を取得した方にお尋ねします。
 本学の教育は資格取得に有効でしたか？

「やや有効である」以上のポジティブな評価が75%あり、非常に高評価である。前年度と比較し、非常に対照的な結果になっている。この質問項目に関しては、年度毎のバラツキも大きい。回答数（今年度は8名）が少ないことが原因と思われる。全体的なコメントは難しい。



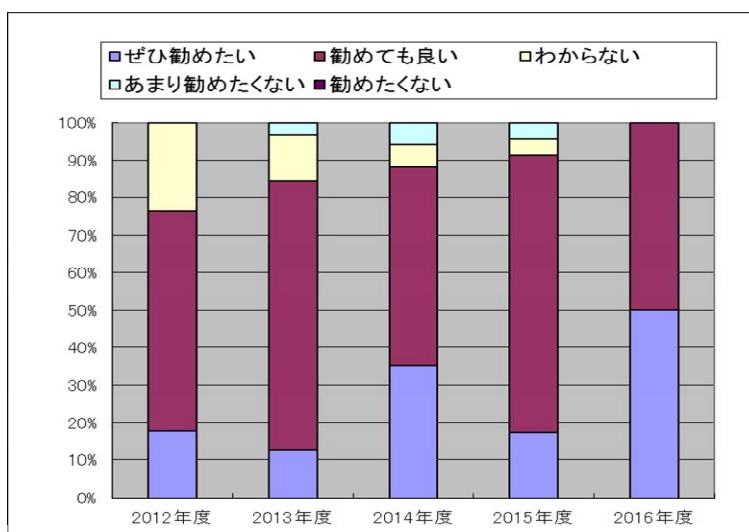
(7) あなたは、九州工業大学工学部を卒業してよかったと思いますか？

「とても良かった」が40%に達し、「良かった」以上のポジティブな評価が100%である。この結果は、高い満足度を示していると言えるだろう。全体として、卒業生がキャリア形成において、本学の学修内容を高く評価していることが分かる。



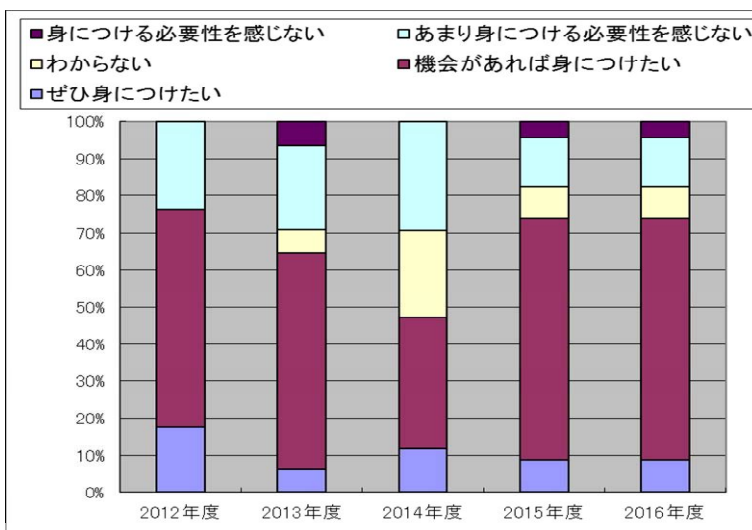
(8) あなたは、九州工業大学工学部を魅力ある学部として後輩・知人に勧めたいと思いますか？

「ぜひ勧めたい」が50%に達し、「勧めても良い」以上のポジティブな評価が100%である。過去の5年間の中で最高である。確実に評価は高まっていると言える。本学の歴史など、愛校心を育む教育も一部行われているが、このような取り組みとの関連は調査する必要がある。



(9) あなたは、更に高度な学力（修士、博士）を身につけたいと思いますか？

「機会があれば身につけたい」という評価が70%以上である。前年度と同様な評価である。現在、6年一貫教育のプランが進行中であり、大学院教育の必要性を認識してもらうよう、指導や周知において対応が必要であろう。



2. あなたが九州工業大学 工学部 に在学して良かった点がありましたらご記入下さい。

教育面では専門教育やキャリア教育が高く評価されており、それらの教育は就職時に、そして就職後の資格取得やキャリアアップに直接的に役立っている。教育内容と、教育と将来の進路を繋ぐ人的ネットワークの双方がバランスよく構築された教育機関として認識されている。

- ・ 業界の人達(自動車業界など)が講師をしていただく。講義は就職後の仕事のイメージができ、とてもよいと思いました。
- ・ 宇宙工学PBLのようなチームで進める授業がありとてもよい環境だったと思います。自分のスキルを生かしてチームで進める形は、会社での仕事に通じると感じます。
- ・ 専門(特に私は化学)の科目を学士で身につけられ、修士(研究室所属～)になってからは、自分の好きなテーマで時間制限なく、実験できるところ。
- ・ 単位取得難度の高い科目、例えば生産工学等の内容は卒業後もはっきりと知識として定着しており、そういった高難度の科目を履修できる環境であったことは良かった。技術業務は非常に領域が広いので、叩き込まれた基礎がとても活きている。
- ・ 九工大の高度な学問を学べたこと。それに伴い、多方向から物事を見る能力が培われた。
- ・ 個人的に好きな宇宙工学に触れることができた。
- ・ ものづくりの面白さ・大変さを学生のうちに体験できた。
- ・ 九州で働いていると卒業生がたくさんいる
- ・ 就職や、メンタルヘルスなどサポートの体制が充実していたと思います。
- ・ 多分野の研究室がある。
- ・ 研究室の設備が優れている。
- ・ 一定数の単位をとれば、資格を取得することができる。
- ・ 九州工業大学卒業の方が会社にいる。
- ・ 就職に強い。
- ・ 実験施設や教育を学ぶロケーションがとても充実していた。研究室の多さもとても良く自分が学びたい分野へ深掘りができた。食堂の広さも充実し、授業の都合上でお昼に食べられない時も温かいご飯が食べられて嬉しく思った。全体的に教育に関して学べる場所や物が多く、工学の基礎、応用を学ぶことができた。

- ・ 土木に関する(建築も)知識が幅広く得られた
- ・ OBの方が様々なところで活躍されているので、会社関係なく色々話を聞ける。
- ・ 就職活動においての卒業生、修了生の方々の支援
- ・ 専門教育の修学
- ・ 地元企業に対しての就職の際はとても強いと感じた。大学としては設備が整っている。就職支援もしっかりとされていてとても助かった。
- ・ 多くの人間と関わったこと。

3. あなたが九州工業大学 工学部 に在学して不満を感じた点、こう改善すべきだと感じた（例えばこういった技術（科目）を教えてほしかった）点がありましたらご記入ください。

実用的なスキル・学力を求めていることが分かる。これらは今後の教育改善の参考となるであろう。

- ・ もう少し座学で学んだことを実験等で確認する教育を増やしていただければ、工学に対する興味が上がると思います。

経済学等は企業に務めるからこそ必修にすべき。

- ・ 「社会」との繋がりが希薄であったと感じる。「自分が励んでいる勉学」と「仕事」をもっと結び付けられる機会があれば、と思う。（例えば実習のようなもの。インターンシップは私も含め、断られる学部生は多かった。）上記の経験があれば、社会に出た時、他学生と比べ好スタートが切れるのではと思う。
- ・ カードを貸すことによって、出席していないのに出席できてしまうシステム。
- ・ TOEICの点数UPに特化した単位があるといいと思う。

学部卒業で就職をし就職活動中に研究内容が語れないことは苦労しました。大学院卒に比べ、話せる内容があまり無いことは理解しているものの3年生の時に研究でなくても実験内容をもう少し深く学びたかった。

- ・ CADや図面の科目にもっと触れてほしかった。
- ・ ExcelやVBAなど、会社に入って実際に使う知識を教えてほしかった。
- ・ 実務で多用するので、Auto CADの科目を増やして欲しい。

英語教育にもう少し力を入れて欲しい。

- ・ 科目によって教授の当たり外れが大きい。分かりやすい教授には生徒も授業を受けにくる。分かりにくい教授が必修授業をもっている場合、翌年の再履修者の数が教室のキャパを超えてしまうのは問題だと思う。研究したい人間が多くて、学生に教えたい人間が少ないかと。授業に影響している。

4. 全体としての傾向

回答率は23%（87名中、20名回答）であった。今回の回答率は前年度の28%と比べ悪くなっている。データの信頼性としては十分なものとは言いがたいであろう。絶対数に関しても1人分が5.0%を占めるため、全体的な傾向を見ることに關しては適しているが、細かい数値を見ることはあまり意味がないように思われる。

全体的な傾向として、おおむね卒業生が本学の教育（特に、理数系教育・専門教育）・就職支援体制に満足しており、自身のキャリア形成に手ごたえを感じていることを示している。

学部教育においては、語学や一部の科目についてより一層の改善と充実が求められている。本学の提供するディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーと照らし合わせながら、全人教育も含んだ大学教育のあり方を考える必要があるだろう。

2. 6 教育達成度評価アンケート：修了生 (2014年3月以前修了生)

※アンケート実施年月日 平成29年7月21日

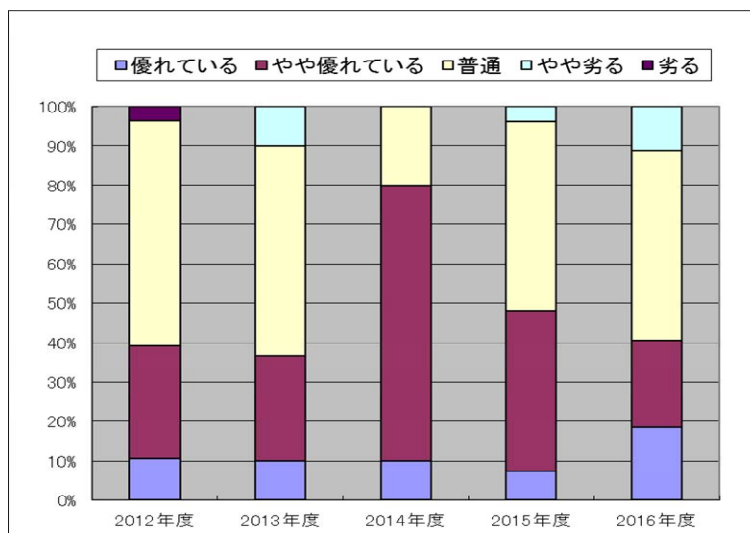
※アンケート回収率

配付枚数	回収枚数
148名	27名

1. 教育の達成度について、該当項目に○をつけてください。

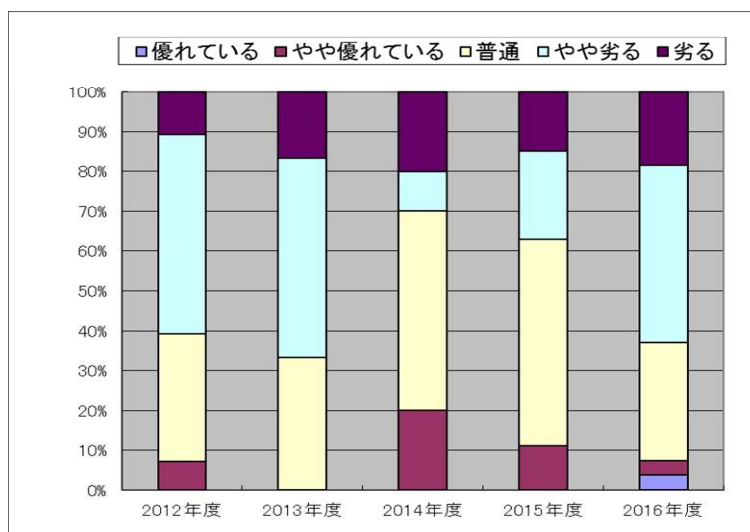
(1) あなたが受けた教養教育のレベル

「優れている」という評価が増える一方で、「やや劣る」という評価も増えていて、全体的なコメントは難しい。



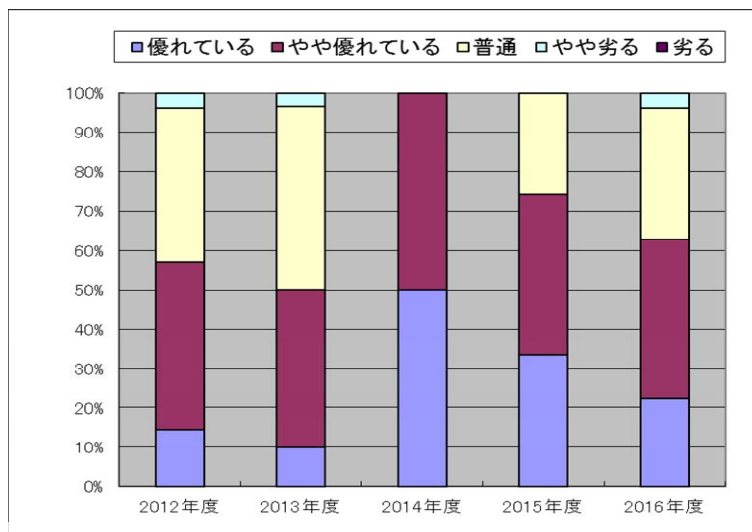
(2) あなたが受けた語学（特に英語）教育のレベル

前年度と比べ評価が悪くなってきて、3年前の評価と同程度になっている。何らかの改善策が必要と思われる。



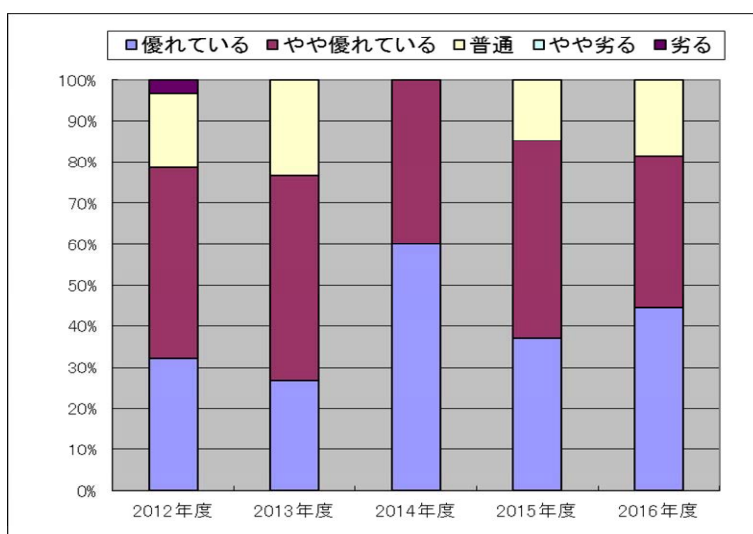
(3) あなたが受けた理数系教育のレベル

過去2年と比べ評価が悪くなってきて、4年前の評価と同程度になっている。何らかの改善策が必要と思われる。



(4) あなたが受けた専門教育のレベル

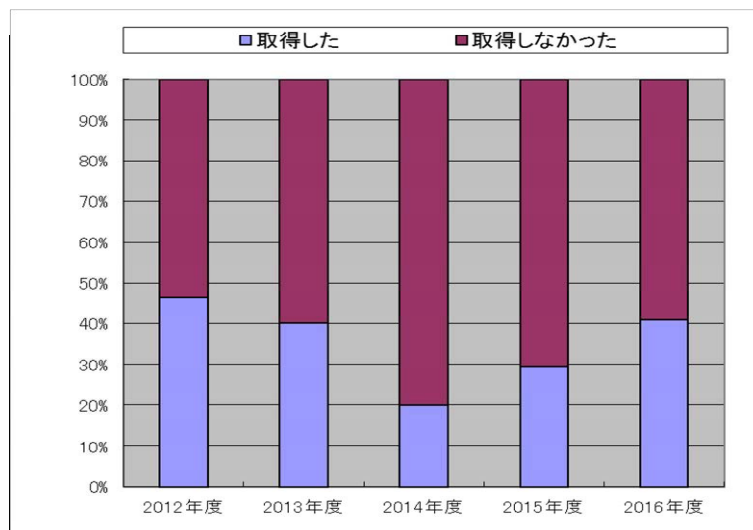
「やや優れている」以上の評価が80%を超えている。また否定的評価は0%である。このことから、ほぼ理想的な評価になっているといえる。回答者の少なかった2年前に比べ悪くなっているが、高水準を維持している。



(5) あなたは入社後資格を取得しましたか？

○入社後取得した資格（具体的に）

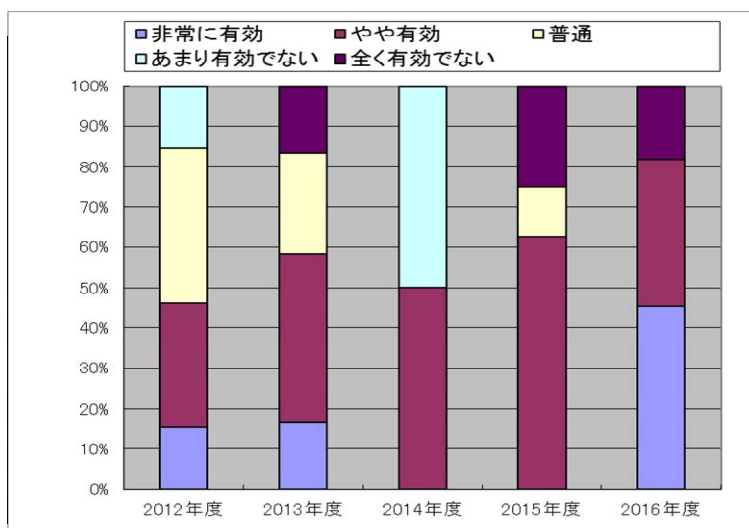
- ・ 技術士補（建設部門）
- ・ 危険物取扱者（甲種・乙種）
- ・ 高圧ガス製造保安責任者
- ・ 消防設備士、工業英検
- ・ 低圧電気取扱作業、品質管理検定
- ・ デジタル技術検定、QC検定
- ・ 設計技術者検定



40%の人が何らかの資格を取得している。

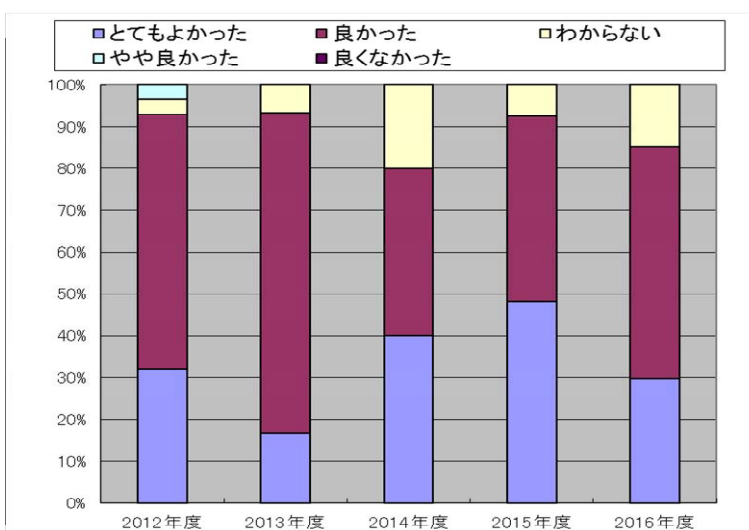
(6) 資格を取得した方にお尋ねします。
本学の教育は資格取得に有効でしたか？

年度毎のバラツキがある質問項目である。回答者が少ない（今年度は11名）ことがその要因であると思われる。数値のみで意味のある結論を導くのは難しいであろう。



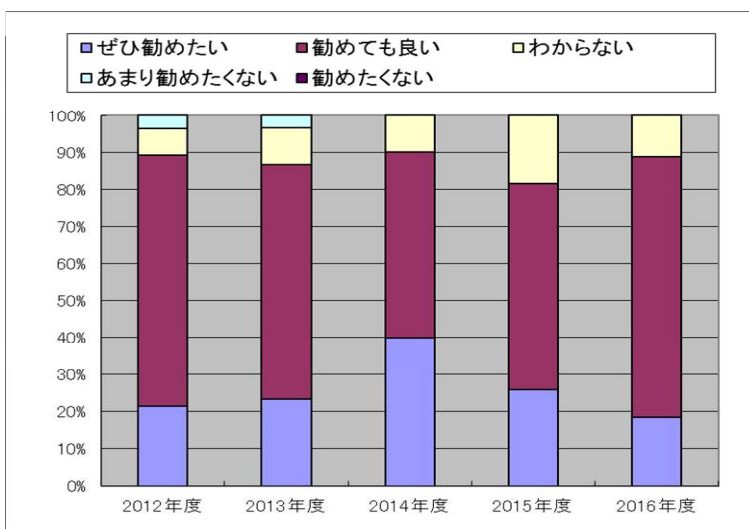
(7) あなたは、九州工業大学大学院工学研究科（博士前期又は後期課程）を修了してよかったと思いますか？

昨年度と比較すると評価は下がっている。しかしながら、「良かった」以上が85%を超えていること、および否定的な評価がないことを考えると、非常に高い評価を得たと言えるだろう。



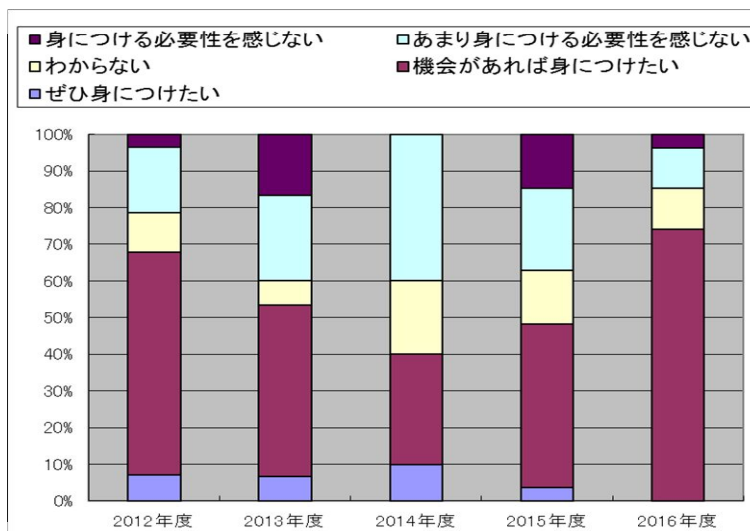
(8) あなたは、九州工業大学大学院工学研究科を魅力ある研究科として後輩に勧めたいと思いますか？

「勧めてもよい」以上の評価が90%弱あり、また否定的な評価はない。従って、高い評価を得たと言えるだろう。



(9) あなたは、更に高度な学力(博士)を身につけたいと思いますか？

「機会があれば身につけたい」という評価が70%以上あり、多くの修了生が博士後期課程進学について興味を持っていることが分かる。



2. あなたが、九州工業大学大学院工学研究科に在学して良かった点がありましたらご記入ください。

大学院における教育や研究について満足していることが挙げられており、それらが就職および就職後にも有効であることが実感されている。産学双方にまたがる人的ネットワークについても評価されている。今後もこのような長所を維持し、さらに発展できるような取り組みを続ける必要がある。

- ・ 多くの先生、先輩、後輩、友人と関わることが出来て、その中で多くのことを学ぶことができた。また、専門的なことを分かりやすく、丁寧に学ぶことができた。
- ・ 就職が良かった
- ・ 実験に使用する工具を、学内工場で製作する体験は、物を設計する力、製図力を使うため、良い体験となった。
- ・ 研究においてMATLAB上の車両モデルに対する制御コントローラ設計に携わることができたこと
- ・ 大学OBの方とのつながり
- ・ 最先端の研究に触れることができた。
- ・ 専門的な学業、研究に取り組める。
- ・ 教授、准教授のレベルが高い。
- ・ 会社に先輩、後輩(OB)が多く在席している。
- ・ 理数の基礎講座や専門学科講座は学生に自立性をもたせて学習させることを先生方が考えて下さっていたと思う。おかげで、自分で考える力が養われており、入社しても他の大学から入社した人たちにも負けていないと感じることが多かった。
- ・ 大学OBの方とのつながり
- ・ 最先端の研究に触れることができた。
- ・ サンテティエンヌに留学できたこと。
- ・ 院では学部よりも専門的な内容を学べるため、自分に適した職種等を見極める時間が得られる。また、学会発表等の機会も増えるため、幅広い知見が得られると共に学外の人脈作りにおいても有用と考える。
- ・ 就職活動での推薦の多さや、社会で活躍している先輩方が多数いる点

- ・ 学生フォーミュラをやっている、仕事で活用できる知識をつけることが出来た。学生フォーミュラの活動の幅の広さはとてもよかったと思っている。
- ・ 自発的な研究の進め方を尊重してもらえた点
- ・ 他学科、海外の学生と交流する機会を設けて頂き、多角的な視点とコミュニケーション能力の重要性に気付けた点
- ・ 実験で高電圧を体験できたこと(学部生に教えたこと)→電気の知識、危険性を学べたから。
- ・ 現在の仕事と関わりのある専門知識を学ぶことができた点
- ・ 興味のある科目について3年間専門的に学ぶことができた
- ・ 現在、業務として行っている内容は、大学院において専行していた研究内容と大きく異なっていますが、在学中に幅広く専門分野の基礎知識を学習していたため、困ることなく仕事を行うことができています。今後もその方針は継続していただければと思います。
- ・ 会社での担当テーマの進め方と研究室在籍時のテーマの進め方が似ているため、入社後すぐにテーマ推進することができた。
- ・ 専門(有機化学)の視点で意見ができる。
- ・ 教授や社外の方を通じて社会人の仕事等を学ぶことができたこと。就職活動の際、何かと有利だと感じたこと。
- ・ 学習に十分な時間を割いて、徹底した理解をするための指導がされている点
- ・ 研究施設が比較的充実している点
- ・ 研究を通して専門的知識はもちろん、伝える能力や論理的な思考を身につけることができたと思う。
- ・ 学部時代と比較すると就職活動時の情報量が多くなり、選択肢が増やせることができたと思う。
- ・ 就職活動時には九工大ブランドというものをあまり感じることはなかったが、入社後九工大OBの方等にお会いする機会が多くあった。そういった点でひいきにしてもらえた。また、教育の質が高いため、入社後ひどく苦勞を感じたことはない。

3. あなたが、九州工業大学大学院工学研究科に在学して不満を感じた点、こう改善すべきだと感じた(例えばこういった技術(科目)を教えてほしかった)点がありましたらご記入ください。

入社後に必要となる知識・技術・語学・人としての教育に関する要望が挙げられている。今後の大学院教育を考える上で、重要な指摘と思われる。

- ・ もう少し工学英語等にかかわるような科目を増やしてもいいかもしれない。また、より自由に研究できるような環境があってもおもしろいかもしれない。
- ・ 物質工学専攻でしたが、金属治全の科目が少なく、(反面、半導体系が多い印象)もう少し多くてもいいのではと感じた。そもそも治全系の研究室が少ないと思う。
- ・ 英語が苦手な学生が多かったため、もう少し英語に力を入れてほしかったです。
- ・ 授業科目に「舗装」関係があればよいと感じた。(インフラ、ゼネコン等で舗装に携わることがある)
- ・ 企業との共同研究等、もっと企業の方と接する機会があればよいと感じた。
- ・ より実践的な専門教育がもっとあって良いと思う。
- ・ 大学で学んだことを実際に活用してみる機会が欲しいと感じた。(コンクリートの供試体を作って破壊するのもよいが、実際にコンクリート構造物を製作する時の流れ等を実体験したい。座学だけではイメージが湧かないものもいくつか・・・)

- ・ 今はどうされているか分からないが、インターシップなどの社会経験を単位認定してみてもいいと思う。また、大学院時代にベンチャー企業特論のような起業に関する講座を受けたが、学生には自ら進んで、こういう社会経験を積める(＝大学の勉強では学べない。社会人を経験している人の話を聞く)授業を受けてほしいと思う。
- ・ 英語が苦手な学生が多かったため、もう少し英語に力を入れてほしかったです。
- ・ 受講しなければいけない講義数が多すぎる。各研究室での研究に割ける時間を多くとれるようにすべき。
- ・ 最近は特に品質に対する要求が厳しくなっており、社内でも品質工学に力を入れている。品質工学の学部等を有する大学がそもそも少ないため、選択教科等に品質工学を入れることで、特にメーカー等に就職した際は活かせる機会が増えると思う。
- ・ 専門的な知識は十分にあるが、それを「どう使うか」「なんのためにするのか」という部分が抜けていると感じる。ただ知るだけというスタンスが定着すると、仕事をする上でも大事な「なんのために」が身につかないと思っている。
- ・ 人としての教育は徹底すべき(話し方・伝え方、納期遵守、計画能力など)。学生の時から醸成できるかどうかは明暗を分けると思う。
- ・ 電気機器(変圧器や開閉装置など)について詳しい教育をしてほしいと感じた。→メーカーや電力会社に就職する学生が多いので、就職後に役立つと思う。
- ・ 英語の科目をもう少し学べる機会がほしかった。
- ・ 専門科目においての座学は非常に分かりやすく業務を遂行する上でも役に立っていますが、併せて実技科目(コンクリート打設、地質調査等)を増やした方がより理解が深まると思います。(現行の実験科目では不十分と感じました)
- ・ もう少し実践的な英語を習得しておきたかった。
- ・ より実務をみすえた内容にしてほしい。具体的には、会社で使用するようなソフトや外国語の勉強研究員などでない限り、そこまで役に立つ内容が多かったと思えなかった。
- ・ 英語科目に対してビジネス系で得立つ科目を加えてほしい。もしくは強化した方がよいと思う。
- ・ 研究するための費用がもう少し充実させられたらよい。
- ・ 土木の花形である橋梁工学が学べる欄があれば、よかったと思う。
- ・ 専門学科以外の教科を1科目必修とするか、受講許可(自由参加可)等としても良いと思う。実際に社会に出ると専門外の知識が必要な場合が多く、入社後勉強するにも勉強しやすいと思う。

4. 全体としての傾向

回答率は18%(148名中、27名回答)であり、昨年度とほぼ同じ数値である。データの数・割合ともに十分なものとは言いがたいであろう。1人分が3.7%を占めるため、全体的な傾向を見ることに關しては適しているが、細かい数値を見ることはあまり意味がないように思われる。

学部卒業生のアンケートとほぼ同じ傾向があり、多くの修了生が本学の教育(特に、専門教育)・就職支援体制に満足しており、自身のキャリア形成に手ごたえを感じていることを示している。

また、語学に対する要望が多いように思われる。学部の個別入学試験に英語科目がないことが大きく影響していると思われるが、何らかの有効な対策が必要であろう。

3 大学院工学研究院・工学府・工学部の管理運営

3. 1 大学院工学研究院・工学府・工学部の組織図

平成28年度の管理運営組織並びに意志決定体制を、図3. 1. 1及び図3. 1. 2に示す。

図3. 1. 1 組織図

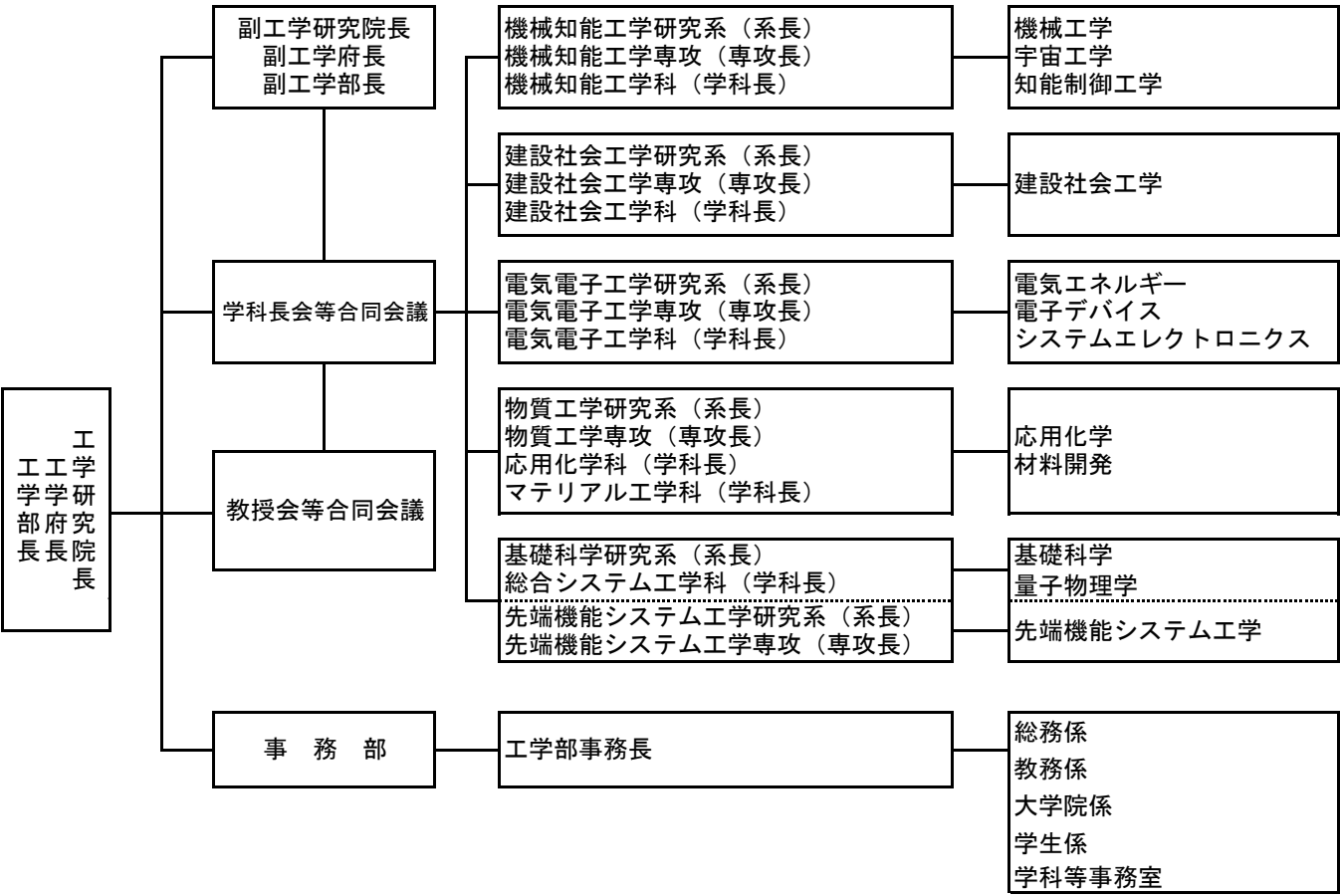
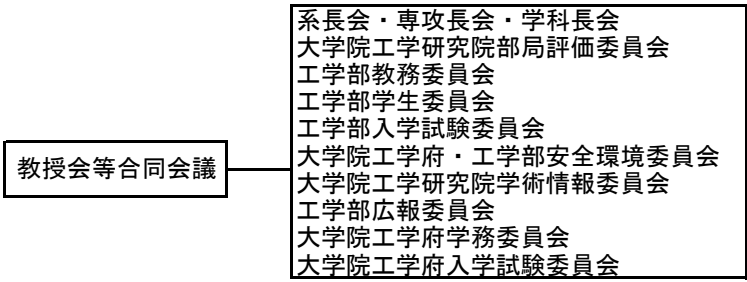


図3. 1. 2 各種委員会



3. 2 各種委員会活動の点検・評価

3. 2. 1 大学院工学研究院部局評価委員会

1. 今年度取り組んだ課題

- (1) 平成27年度卒業生、修了生アンケートの解析・まとめ
- (2) 平成27年度企業アンケートの実施と解析・まとめ
- (3) 平成28年度卒業生、修了生アンケートの実施
- (4) 「現状と課題」平成26年度版、平成27年度版の発行

2. 今年度採択した事項

- (1) 各種アンケートの結果をまとめ、「現状と課題」に掲載した。
- (2) 平成28年度卒業生・修了生アンケート内容を検討した。
- (3) 平成28年度企業アンケート内容および実施方法を検討した。

3. 残された課題または将来解決すべき事項

- (1) 各種アンケート結果の効果的な活用

現状を把握しその評価結果を分析・記録し続けることにより、継続的に改善を行っていくことは極めて重要なことである。そのために、大学における活動の実情のデータに加え、修了・卒業を控えた学生、修了・卒業した学生、修了生・卒業生を受け入れた企業に対するアンケートも実施し、その結果を分析している。これらの記録や分析結果は各種委員会や教員にフィードバックし、より大学の教育・研究の改善に繋げるべく利用される方法を考える必要がある。

- (2) 各種アンケートの内容変更と継続的な内容の検討

これまでの各種アンケートの結果分析を行い、さらに今後の大学評価と各種アンケートとの関連性を意識した上で、「修了・卒業を控えた学生」、「修了・卒業した学生」、「修了生・卒業生を受け入れた企業」に対するアンケートの内容を精査する必要がある。

4. 委員会の議論に使用された主な資料

- ・工学研究院部局評価委員会内規
- ・平成27年度第2回大学院工学研究院部局評価委員会議事録
- ・教育達成度評価アンケート実施のための情報提供依頼文書
- ・企業に対するアンケート（雇用主とその企業で就業する卒業生・修了生にあてたもの）
- ・「現状と課題」27年版作成スケジュール

5. 工学部の現状に関する意見または改善に関する提言

上記3. (1) (2) と同様。

6. 昨年度の改善に関する提言に対する改善状況と未改善及び新たな問題点

- (1) 各種アンケート内容の見直しの効果的な活用

卒業生、修了生、企業に対して実施しているアンケートは、過年度との比較が重要であるため、長年同一の内容のまま維持されてきたが、その内容を点検・精査すべき時に来ている。今年度の企業アンケートは昨年度の委員会で検討・改善された内容を反映しアンケート項目を一部変更して実施されたが、今後、大学評価の際のエビデンスとして使用されることも意識した精査・検討が必要である。第2期からの変化を見る上でも、アンケート内容の全面的な変更は好ましくないが、本学の状況を的確に把握するアンケート項目を検討すべきである。

3. 2. 2 工学部教務委員会

1. 今年度取り組んだ課題

●教育改革

- ・学修細則及び履修課程表の改正
- ・クォーター制度の実施
- ・グローバル・エンジニア養成コースの実施
- ・コアカリキュラムの策定について対応
- ・平成30年度改組に伴うディプロマポリシー・カリキュラムポリシーの検討

●中期計画・中期目標

- ・平成28年度中期計画・中期目標への対応

●予算

- ・工学部基礎共通実験実習経費の承認

●学修細則

- ・工学部学修細則の一部改正

●成績

- ・卒業査定、進級査定
- ・学生の除籍、学生異動への対応

●単位認定

- ・編入学学生の単位認定への対応
- ・外部機関での履修に伴う単位認定

●国際交流協定

- ・プトラ大学派遣学生への対応
- ・オールドドミニオン大学派遣学生への対応
- ・昌原大学校サマープログラム派遣学生への対応
- ・サウスイーストノルウェー大学派遣学生への対応
- ・ナシオナル・アウトノマ・デ・メキシコ大学派遣学生への対応
- ・サレント大学派遣学生への対応
- ・クラウスタール工科大学派遣学生への対応
- ・揚州大学派遣学生への対応
- ・スンミョン女子大学校、韓国交通大学校韓国電子技術研究院、ソウル大学校派遣学生への対応
- ・パリ高等機械工学院派遣学生への対応

●研究生等受け入れ

- ・日本人の研究生・特別聴講学生・科目等履修生の受入れへの対応
- ・外国人の研究生・特別聴講学生・短期訪問学生の受入れへの対応

●学年暦・行事予定など

- ・学年暦・主要行事予定表・時間割・授業調整期間・再授業学力再確認期間の設定
- ・クォーター末試験、学期末試験、学力再確認の実施
- ・成績評価の異議申し立てへの対応
- ・グローバルエンジニア養成コース説明会の実施

- ・コース分けへの対応
- ・推薦入試Ⅰ合格者の入学前教育・ガイダンスの実施
- ・指導教員の割り振り

●その他

- ・教務委員会で取り上げるべき課題等の整理・実施
- ・TOEFL 一斉受験への対応
- ・再入学申請について対応

2. 今年度採択した事項

●教育改革

- ・カリキュラム改正

工学系総合科目「工学倫理・安全工学」「工学と環境」を「工学倫理」「工学と環境」の8コマ1単位クォーター科目とし必修化、全学統一科目の海外派遣科目を新設、サービスラーニングを新設

各学科の物理学実験、化学実験（応用化学科を除く）を8コマ0.5単位化

工学系他分野科目を8コマ1単位のクォーター科目に変更

卒業要件単位を全学科124単位に統一、3年次進級要件70単位、4年次進級要件を108単位に変更

編入生に対して、4年次進級要件教養教育科目の要件単位を緩和

- ・クォーター制

学生及び教員にクォーター制アンケートを実施し、改善が必要な点等意見を集約

平成29年度時間割をクォーター別に表示するよう変更

- ・グローバルエンジニア養成コース

選抜方法の決定、履修者決定、履修取り下げ承認

大学院授業科目の特例履修でGE科目（GCE実践科目を除く）を履修できるよう改正

●中期計画・中期目標

- ・平成28年度中期計画・中期目標について

今年度の取り組み予定、課題等の確認を行った。項目を各教務委員に割振り、分担して実施。

- ・平成28年度中期目標・中期計画の暫定評価の実施
- ・平成28年度年度計画の最終評価の実施

●予算

- ・工学部基礎共通実験実習経費について

物理学実験、化学実験、情報教育の平成27年度決算及び平成28年度予算について承認

●学修細則

- ・工学部学修細則の一部改正

●成績

- ・成績評価の異議申し立て期間の決定
- ・卒業査定の承認
- ・進級査定の承認

●単位認定

- ・入学前の既修得単位の認定
- ・外国語能力試験の成績に基づく単位認定
- ・平成28年度編入学学生の単位認定
- ・編入学生への出身高専等で修得した科目の内容調査書の承認
- ・eラーニング高等教育連携に係る遠隔教育による単位認定

●国際交流協定

- ・プトラ大学派遣学生の単位認定
- ・オールドドミニオン大学派遣学生の単位認定
- ・昌原大学校サマープログラム派遣学生の単位認定
- ・サウスイーストノルウェー大学派遣学生の単位認定
- ・ナショナル・アウトノマ・デ・メキシコ大学派遣学生の単位認定
- ・サレント大学派遣学生の単位認定
- ・クラウスタール工科大学派遣学生の単位認定
- ・揚州大学派遣学生の単位認定
- ・スンミョン女子大学校、韓国交通大学校韓国電子技術研究院、ソウル大学校派遣学生の単位認定
- ・パリ高等機械工学院派遣学生の単位認定

●研究生受け入れ

- ・外国人研究生の受入れ承認
- ・外国人研究生の期間短縮承認
- ・外国人短期訪問学生の受入れ承認
- ・外国人特別聴講学生の受入れ承認
- ・外国人特別聴講学生の期間短縮承認
- ・九州職業能力開発大学校特別聴講学生の受入れ承認
- ・昌原大学校との短期プログラム実施及び特別聴講学生の受入れ承認
- ・科目等履修生の受入れ承認
- ・平成29年度工学部研究生等事務手続き要領の承認

●学年暦・行事予定など

- ・平成28年度前期授業調整期間の設定、後期授業調整期間、再授業学力再確認期間の設定
- ・平成28年度クォーター末、前期末試験、学力再確認の実施
- ・推薦入試I合格者の入学前教育の実施
- ・平成29年度学年暦の設定
- ・平成28年度コース分けスケジュールの決定
- ・平成29年度1月以降主要行事予定表の決定
- ・福岡県立ひびき高校との高大連携に係る公開授業の承認
- ・平成29年度時間割の作成
- ・推薦入試I合格者ガイダンスの実施
- ・成績評価の異議申し立てへの対応
- ・平成29年度オリエンテーションスケジュールの決定

- ・平成29年度入学生の指導教員の割り振り
- ・新入生研修に伴う休講措置の決定
- ・平成29年4月以降の行事予定の決定
- ・平成29年度前期授業調整期間の設定
- その他
 - ・TOEFL 一斉受験
 - ・学生向け研究倫理・不正防止教育を実施

3. 残された課題、又は将来解決すべき事項

教育の評価方法

●教育改革

- ・卒業単位124に合わせたコアカリキュラムの設定
- ・基礎科目の理解度の向上
- ・改訂した物理実験、化学実験についての実施と評価（PDCA）
- ・29年度より大きく変更された人文科目、語学科目、GE科目に関する実施と評価（PDCA）
- ・工学部教育は主に工学研究院と教養教育院の教員になされており、互いの情報共有と改善の実施

①グローバル・コンピテンシー（GCE）養成教育プログラムの策定及び実施

- ・海外研修の周知および、海外派遣科目の対象となる海外研修の事前承認、提出書類のフォーマット作成と周知
- ・海外研修の情報共有（大学院実施も含め）と予算確保

②6年一貫教育制度（GEコース）の実施

- ・ブレ研究（研究室早期配属）の問題把握と単位付与について
- ・大学院進学者のうち60%がGEコースとの数値目標と、現状のGEコース進学者基準（概ね大学院推薦程度）とのミスマッチについての対応（大学院定員が希望者数と十分マッチングしていないことも解決が必要）

③クォーター制度の実施と問題把握

- ・クォーター制導入に伴う試験日程の過密化とその対応を含んだ学年歴の作成
- ・クォーター制を用いる多様な授業開講の実施。
- ・クォーター制の現状と把握
- ・セメスター制がやむを得ない授業（実験など）を認めてのクォーター制の意義
- ・GCEによる学生派遣のためのカリキュラム編成（3か月間空ける努力）の妥当性の確認

④再試験の廃止への対応

- ・学力再確認制度として残した今後の方針（継続か、廃止か）を継続審議する。

●学修細則の一部改正について

- ・GPAの計算方法について世界の動向を調査。その後、本学のGPA計算手法を検討する必要がある（リテイク制度など）。
- ・成績の多様化に関する検討（総得点・GPAの問題把握とGPTに関しての検討）

●平成29年度編入学学生の単位認定

編入学学生の単位認定について、80単位の限度に足りない学生がみられる。本学の授業科目に対応しない科目を高専等で受講している学生への対応（読み替え科目の設置）

また、1，2年次の必修科目が認定されなかった場合、編入してからの時間割が重複し編入生の負担が大きくなることの問題に対しては、時間割の改善や他学科科目の取得の制限について緩和

●新しい教育手法についての検討

①アクティブ・ラーニング

- ・高次アクティブラーニングの定義がなされたことにより、対応科目の設置、改善
- ・これまで培ってきたPBL科目の継続と改善
- ・エンジニアリング・デザイン教育：異分野の人と協働作業できる具体的な取り組みの実践。

②ICT活用科目への対応

- ・Moodle利用の啓蒙と他の手法を学習教育センターとともに意見交換し、学生の自主的な学習を促す具体的な方法についての検討

●学修自己評価システム等

学修自己評価システムの改善と利用率向上（学習教育センターとともに）

●海外派遣の促進

各教室で実施しているプログラムについて情報交換するとともに、学生派遣に必要な経費獲得についても情報交換するなど、実施を推進するための方策を検討する。

4. 委員会の議論に使われた資料

- (1) 教務委員会資料等
- (2) 教育企画室会議資料等

5. 現状に関する意見または改善に関する提言

教務に関する取り組みとして、海外派遣、PBLの成果や学生のTOEIC点数、GPA履歴、ルーブリック評価など既に多くの成果があり、それらを集約するシステムを構築し、中期計画の報告資料作成に活かす具体的な方法を検討頂きたい。

大学教育、また学部教育の母体、責任が曖昧である。教育担当執行部と各部局の教育実施母体（教務委員会）の意思疎通が十分ではないと感じる。

クォーター導入、教養教育院の設置、GEコース、GCE教育と改革が目白押しである。その導入。設置の意義と、それにより引き起こされた、よい点、悪い点を真摯に把握する必要
部局の教育実施母体から、教育担当執行部へ風通しの良い関係、システムの構築
学部教育における教養教育院の重要性の認識と垣根を持たない関係構築

6. 昨年度の改善に関する提言に対する、改善状況と未改善および新たな問題点

GCE教育改革だけが、全面に出て、それだけが九工大の教育とみられがちとなっている。九工大100

年の教育の歴史、遺産もまた活用すべき。

GCE また、GE コースの名称が踊り、現状と目標が乖離している。教務委員会で十分に把握し、各学科教務委員に連絡する必要。

改革の学生TAおよび非常勤講師については既に多くを削減しており、さらなる削減については教育の質低下につながる恐れがある。

教務委員会と教育企画室、学習教育センターの棲み分け。学部教育はどこが行うのか（工学研究院と教養教育院）の母体がどこであるのか。

3. 2. 3 工学部学生委員会

1. 今年度取り組んだ課題

- (1) 新入生研修やオリエンテーションにおける学生への注意喚起と資料の検討・更新
- (2) 不正行為防止対策についての検討と実施
- (3) 駐車場ゲートを不正入構した団体に対する処分
- (4) 学生の懲戒についての検討
- (5) 鳳龍奨学賞の制度の見直し
- (6) 工学部奨学賞の見直し
- (7) 鳳龍奨学賞を補完する工学部奨学賞の実施
- (8) 日本学生支援機構奨学生の選考
- (9) 国費外国人留学生の奨学金支給期間延長の推薦
- (10) 九州工業大学基金による大学院博士後期課程事業の検討
- (11) 学寮運営規則の一部改正案の検討
- (12) 学寮（明専寮）運営委員会への委員長の参画
- (13) 工大祭日程に係る部局意見の検討
- (14) 工大祭への対応（企画段階でのアドバイスと実施時の巡回）
- (15) サークルヒアリングの実施と課外活動団体への物品援助に係る団体選定の確認
- (16) 車椅子用スロープのアプローチ表示と新たな駐輪場設置及び駐輪禁止の周知についての検討
- (17) 障害学生支援実務者育成研修会にて情報収集と共有
- (18) 保健センターとの定期的意見交換

2. 今年度採択した事項

- (1) 定期試験にあたり、不正行為がいかに恥ずべき行為であるか等の事項を列举した学生向け警告文を検討・更新し、掲示板及びWeb上で周知するとともに、学生がダウンロードする試験時間割PDFファイルの冒頭にも学生向け警告文を付加し、周知の徹底を図った。さらに、教員向けに「不正行為に対する留意事項（試験直前用）（試験前講義用）」のスライドも更新し、授業担当教員からの周知についても依頼をした。また、中間試験における試験監督補助員の派遣について、非常勤講師を含めた授業担当教員への周知を担当部署に依頼した。
- (2) 駐車場ゲートを不正入構した団体に対する処分案を策定した。
- (3) 飲酒に関わる不祥事を起こした団体および個人に対する懲戒処分案を策定した。
- (4) 試験における不正3件（5名）と学外における不祥事1件に対する学生の懲戒処分案を策定した。
- (5) 鳳龍奨学賞及び工学部奨学賞の見直しを行い、それぞれについて、同一学生の重複受賞は不可とした。また、鳳龍奨学賞「努力賞」と「工学部優秀賞（3年次）」の重複受賞はこれまで通り可とし、鳳龍奨学賞「優秀賞（3年次）」と「工学部奨励賞」の重複受賞については不可とすることにした。
- (6) 工学部奨学賞を実施し、59名の学生を表彰した。
- (7) 九州工業大学基金による大学院博士後期課程事業について、議論を行い工学部の意見を集約した。
- (8) 課外活動団体の代表者に対して、自転車のマナーや飲酒について、盗撮等の犯罪行為について等学生生活上の注意喚起を行った。

3. 残された課題、又は将来解決すべき事項

- (1) 学生のマナーアップ（駐輪、喫煙、飲酒等）に対する具体的な取り組み。
- (2) 抜本的な不正行為防止策の検討。
- (3) 発達障害、メンタル不調、引きこもり、自殺など学生を取り巻く今日的課題に対する、工学部内外の各部署との連携による、情報を共有する仕組みづくりに関する継続した取り組み。

4. 委員会の議論に使われた資料

- ・九州工業大学における障害を理由とする差別の解消を推進するための職員対応要領に関する規程
- ・障害学生支援実務者育成研修会報告書

5. 工学部・工学府の現状に関する意見、又は改善に関する提言

不断の注意喚起と教職員の協力にも関わらず、残念なことに試験における不正行為と学外における不祥事が発生した。試験における不正行為や不祥事については、今後も、新入生研修や年度初めの2・3年生向けオリエンテーション等の場で注意喚起を促し、厳正な処分が下されることを周知するとともに、試験における不正行為については、非常勤講師も含め教員側に対しても試験開始前アナウンスを行うことを徹底してもらう必要がある。

また自転車の迷惑駐輪や喫煙マナーも、変わらず問題となっている。学生への注意喚起をしながら、駐輪禁止を学生に知らせる表示方法等についても議論し対応しているが、検討課題も残っている。

さらに今日的な課題である学生の発達障害、メンタル不調、引きこもり、自殺などに関し、各部署が連携し情報を共有する仕組みづくりについて継続して検討していく必要がある。

6. 昨年度の改善に関する提言に対する改善状況と未改善及び新たな問題点

- ・試験において不正行為が今年度は3件発生しており引き続き、防止策の検討を行い、有効な対策を採る必要がある。
- ・今年度、飲酒に関わる不祥事により団体および個人が懲戒処分となった。また、過去に懲戒処分を受けた学生が学外において不祥事を起こし懲戒退学処分となった。引き続き学生への注意喚起を行っていくとともに、その方法や内容の改良に努める必要がある。
- ・総合教育棟入口における迷惑駐輪については、早急な対策が必要である。

3. 2. 4 工学部入学試験委員会

1. 今年度、本委員会が取り組んだ課題

- (1) 平成29年度工学部編入学試験実施について
- (2) 平成29年度工学部推薦入試Ⅰ実施について
- (3) 平成29年度工学部推薦入試Ⅱ実施について
- (4) 平成29年度工学部帰国子女入試実施について
- (5) 平成29年度私費外国人留学生入試実施について
- (6) 平成29年度個別学力検査実施について
- (7) 改組後のアドミッション・ポリシーの検討
- (8) 新たなAO型入試の導入について

2. 今年度、本委員会が採択した事項

通常の選考・審査、募集要項の作成については例年どおり実施した。ここでは、新たに実施した事項についてのみ記す。

- (1) 昨年度検討し、導入が決まったWeb出願システムを平成29年度推薦入試Ⅰから利用し、出願受付処理を行った。(編入学試験は、平成30年度入試より導入する。)
- (2) Web出願システムの導入に伴い、募集要項の印刷・配布は廃止し、ホームページ掲載にて公表することとした。
- (3) 平成30年度改組に伴う、新たなアドミッション・ポリシーについて検討し、決定した。
- (4) 平成30年度学部改組により類別で受け入れることとなったため、募集人員、選抜方法、入試教科・科目を確認し、決定した。
- (5) AO入試Ⅱの導入について検討し、平成31年度入試から導入することとなった。なお、今後、具体的な選考方法などについて検討することとしている。

3. 残された課題、又は将来解決すべき事項

- (1) 入試倍率の分析と改善策

平成29年度入試では、平成28年度に比べ推薦入試Ⅰ受験者数は増加傾向にあったが、一般入試の受験者数は減少傾向であった。入試倍率に関する分析を今後も継続して行い、改善策、例えば、学生定員の見直しなどを検討することが必要である。

- (2) 入試戦略を担当する部署との連携

入試改革に伴う、新たな入試の実施について入試委員会へ提案されているが、実現可能で効果的な入試となるよう調整していくことが極めて重要である。このためには、入試区分と入学後の学修状況に関する調査を学科単位で行うなどして、詳細に分析していくことが必要である。

- (3) モンゴルツイニングプログラムによる3年次編入生の受入方針

平成30年度からの機械・建築・土木分野の3年次編入生受入について検討を行ってきた。現状では、定員管理の問題があり、受入可能数は6月に実施される第3年次編入学試験修了後に決定することとしており、状況によっては募集を行わないこともあるとしている。しかしながら、国際貢献の観点に立てば、定員とは別枠で毎年少人数を受け入れることも考えられる。今後、大学執行部においてこのような柔軟な受入方針について検討していくことが望まれる。

4. 委員会の議論に使われた資料

- (1) 平成29年度入学者選抜要項
- (2) 平成29年度工学部推薦入試学生募集要項
- (3) 平成29年度帰国子女入試学生募集要項
- (4) 平成29年度一般入試学生募集要項
- (5) 平成29年度私費外国人留学生入試募集要項
- (6) 平成29年度第3年次編入学学生募集要項

5. 工学部の現状に関する意見、又は改善に関する提言

上記3で記述した。

6. 昨年度の改善に関する提言に対する改善状況と未改善及び新たな問題点

前年度の提言に関して、調査分析を行い、進むべき方向性を示した。

3. 2. 5 大学院工学府・工学部安全環境委員会

1. 今年度取り組んだ課題

- (1) 研究室単位の「安全衛生教育」、「安全衛生ミーティング」の実施および実施結果の評価
- (2) 学部2・3年生安全衛生教育」の実施および実施結果の確認
- (3) 「実験・実習における安全の手引き」の改訂、及びダイジェスト版の改訂
- (4) 安全衛生教育資料の共有

2. 今年度採択した事項

- (1) 安全教育等実施要項について、文言等の加除修正を行った。
- (2) 「実験・実習における安全の手引き」を各担当者に依頼して改訂した。

3. 残された課題、又は将来解決すべき事項

- (1) 昨年度からの課題の「研究室安全衛生教育」、「研究室安全衛生ミーティング」について、必ず全員参加を原則としているが、参加できない学生については、別日を設けて実施することなど柔軟な対応が求められる。
- (2) 「安全衛生教育」、「安全衛生ミーティング」報告書で挙げられた「本部への要望等」に対する回答を情報共有して各学科にフィードバックする体制を作る必要がある。
- (3) 安全衛生ミーティング報告書で得られたヒヤリハットの事例が参照できるように、安全衛生室と打ち合わせた。安全衛生室のホームページ改定の際に、事例のデータベースを参照できるようにする必要がある。

4. 委員会の議論に使われた資料

- (1) 安全教育等実施要項
- (2) 工学部平成28年度版「実験・実習における安全の手引」

5. 工学部・工学研究府の現状に関する意見、又は改善に関する提言

上記3. と同様。

6. 昨年度の改善に関する提言に対する改善状況と未改善及び新たな問題点

- (1) 一般的な安全衛生教育資料として、1年生の入学時に行う安全衛生教育の資料を安全環境委員で共有し、学科ごとに必要事項を追記の上、学部2・3年生安全衛生教育などで利用できるようにした。

3. 2. 6 大学院工学研究院学術情報委員会

1. 今年度、委員会が取り組んだ課題

- (1) 本委員会組織に関わる検討
 - A. 正副委員長の選出と本委員会の業務等確認
 - B. 情報基盤企画室運営会議への委員の参加
 - C. 情報セキュリティポリシー策定専門部会への委員の参加
 - D. 情報セキュリティポリシー実施WGへの委員の参加
 - E. 「ソフトウェア使用許諾権の更新」政府調達における仕様策定委員会への委員の参加
 - F. 電子ジャーナル検討WGへの委員の参加
- (2) 違法行為防止、及びセキュリティ向上についての検討と対処
 - A. 新入生オリエンテーション及び学部2年・3年生向けオリエンテーションでの情報モラルとネットワークセキュリティ教育の実施
 - B. 平成28年度情報モラル向上週間の企画と実施(年2回)
- (3) 全学運用ソフトウェアの工学部での運用方法の検討と実施
 - A. マイクロソフト教育機関向けライセンスプログラムの運用に関する工学研究院の基本方針策定
 - B. ウィルス対策ソフトウェアの運用に関する工学研究院の基本方針策定
- (4) 附属図書館に関する検討
 - A. 平成28年度工学部学生用図書購入予算額配分の審議
 - B. 図書館情報リテラシー(中級)の卒業研究への組織的参画について
 - C. 平成29年度電子ジャーナル等の購読について

2. 今年度、委員会が採択した事項

- (1) 本委員会組織に関わる検討
 - A. 正副委員長の選出と本委員会の業務等確認(第1回)
正副委員長を選出し、副委員長が全学委員会へオブザーバー参加することを確認した。
また本委員会における業務等をまとめ、確認した。
 - B. 情報基盤企画室運営会議への委員の参加
委員長が情報基盤機構運営会議に参加することを確認した。
 - C. 情報セキュリティポリシー策定専門部会への委員の参加
委員長が情報セキュリティポリシー策定専門部会に参加することを確認した。
 - D. 情報セキュリティポリシー実施WGへの委員の参加
委員長が情報セキュリティポリシー実施WGに参加することを確認した。
 - E. 「ソフトウェア使用許諾権の更新」政府調達における仕様策定委員会への委員の参加
委員長が「ソフトウェア使用許諾権の更新」政府調達における仕様策定委員会に参加することを確認した。
- (2) 違法行為防止、及びセキュリティ向上についての検討と対処
 - A. 新入生オリエンテーション及び学部2年・3年生向けオリエンテーションでの情報モラルとネットワークセキュリティ教育の実施
 - B. 平成28年度情報モラル向上週間の企画と実施(年2回)
前期は平成24年度に策定した、情報モラル向上週間の運用方法に従い、各学科で「情報倫理デジタルビデオ小品集5」のビデオ映像の閲覧を行った。後期は「情報倫理デジタルビデオ小品集5」のビデオ映像の閲覧を行った。
- (3) 全学運用情報化関連ソフトウェアの工学部での運用方法の検討と実施
 - A. マイクロソフト教育機関向けライセンスプログラムの運用に関する工学研究院の基本方針策定
・平成28年度のMicrosoft社製ソフトウェアのライセンス管理について情報基盤室に依頼/
各学科毎の依頼にするかの検討を行った。
 - B. ウィルス対策ソフトウェアの運用に関する工学研究院の基本方針策定
平成28年度のライセンス契約の確認を行った。
- (5) 附属図書館に関する検討
 - A. 工学部学生用図書購入予算額配分
従来通り各系に予算を按分することを了承し、選書を実施した。
 - B. 図書館情報リテラシー(中級)の卒業研究への組織的参画について

卒業研究の一環として組織的に実施することに関して、実施方法や時期などを確認した。

C. 平成29年度電子ジャーナル等の購読について

購読電子ジャーナル削減要請に伴い、各学科で必要な電子ジャーナルのアンケート調査を行い、工学研究院としての優先順位付けを行った。

3. 残された課題、又は将来解決すべき事項

以下の事項について、引続き主体的に取り組んでいく必要がある。

(1) 購読電子ジャーナルの選択

本年度でエルゼビアのパッケージ契約が終了するため、来年度はエルゼビアの更新または購読中止をすべきか慎重に検討する必要がある。

(2) 情報セキュリティポリシーの周知徹底

(3) 情報モラル向上のための啓蒙活動

(4) ソフトウェアライセンス管理の徹底とCA申請システムの改善

CA申請システムの認証機能が独自で開発されているため、全学教育用統合IDとの連携が今後望まれる。

4. 委員会の議論に使われた資料

- ・平成28年学術情報委員会資料（全学委員会資料）
- ・平成28年度大学院工学研究院学術情報委員会委員名簿
- ・大学院工学研究院学術情報委員会内規
- ・大学院工学研究院学術情報委員会委員長ローテーション表
- ・平成27年度大学院工学研究院学術情報委員会報告書「昨年度の活動」
- ・マイクロソフト教育機関向けライセンスプログラムの運用に関する工学研究院の基本方針
- ・ウィルス対策ソフトウェアの運用に関する工学研究院の基本方針
- ・平成28年度 工学部学生用図書購入予算額配分（案）
- ・電子ジャーナル選定のための基礎資料（アクセス数、価格等）
- ・図書館情報リテラシー（中級）の卒業研究への組織的参画について（依頼）
- ・「オーダーメイド講習会」の開催について

5. 工学研究院の現状に関する意見、又は改善に関する提言

上記3. と同様。

6. 昨年度の改善に関する提言に対する改善状況と未改善及び新たな問題点

情報モラル向上のための啓蒙活動については、今後も継続して実施していく必要がある。

3. 2. 7 工学部広報委員会

1. 今年度、貴委員会が取り組んだ課題

工学部広報委員会は学部学生募集活動の実施母体である全学の学部学生募集専門部会（以下「募集部会」という。）を通して情報工学部と連携を取りながら、全学的に統一性のある学生募集活動の充実に努めた。また、工学研究院広報室（以下「広報室」という。）と密接に連携して、質の高い学生募集活動の充実に努めた。これらの活動のため、本委員会は、各学科各1名および広報室室長から構成されており、また、委員長、副委員長および広報室長は募集部会の構成員となっている。あわせて、本委員会の委員は広報室の構成員も兼務している。このような組織の下、おもに以下の定例的な課題について検討を行い実施した。

- (a) オープンキャンパス
- (b) 高校訪問（大学説明会）
- (c) 進学説明会
- (d) 本学主催入試説明会
- (e) 高校からの工学部訪問への対処
- (f) 大学案内の編集補助
- (g) その他

2. 今年度、貴委員会が採択した事項

前項目の各課題に対応するため下記事項を採択し実施した。

- (a) オープンキャンパス
 - (1) H28年度のオープンキャンパスは、8月5日（金）と6日（土）に開催し、それぞれ1505名（前年度1133名）、1435名（前年度1298名）の参加者があり盛況のうちに終了した。最近の傾向として参加者が増加（H26年度2140名、H27年度2431名、H28年度2940名）している。
 - (2) 見学内容は、今年度も自由見学と学科ツアーの2本立てとし、学科ツアーについては、見学希望以外の学科にも参加者に興味をもってもらうことを目的として、表1に示す組合せで実施した。また、自由見学は、複数学科への見学を促すため、例年と同様にスタンプラリーを実施した。

表1 学科ツアーの組合せと参加人数(かっこは前年度)

	A コース	B コース	C コース
8月5日	機械知能 総合システム	建設社会 応用化学	電気電子 マテリアル
午前	175名(178名)	153名(77名)	111名(57名)
午後	83名(20名)	57名(27名)	45名(13名)
8月6日	機械知能 マテリアル	建設社会 総合システム	電気電子 応用化学
午前	200名(163名)	132名(118名)	105名(141名)
午後	71名(33名)	82名(32名)	64名(17名)

- (3) 例年と同様に、参加者からの相談に対応する各種相談コーナーも設置した。一昨年度および昨年度はインタラクティブ学習棟 MILAiS に設置したが、参加者の動線から外れていたため、今年度は鳳龍会館に変更した。設置した相談コーナーは、教員による「学科相談コーナー」、広報室員による「入試相談コーナー」、女子学生による「女子学生相談コーナー」の3つである。なお、「女子学生相談コーナー」への相談者は117名（昨年度81名）であり、アンケート回答者116名中113名から「この相談会は参考になった」との回答を得た。
- (4) 各学科の説明においては、昨年度と同様に説明者の服装、態度に関して配慮をお願いすると共に、平易な説明を心がけていただけるよう依頼した。
- (5) 期間中にボランティアで誘導に協力していただく生協学生委員に対して、昨年度と同様に服装、

態度に関して配慮をお願いした。

- (6) 平成 30 年度改組を考慮して、H29 年度選抜要項は高校 3 年生にのみ配布し、また、高校 1、2 年生に対しては改組予定資料を配布した。
- (7) 平成 29 年度オープンキャンパスの開催日程について検討し、学年暦に入れていただくように教務委員会に依頼した。
- (b) 高校訪問（大学説明会）
募集部会にて「高校訪問（大学説明会）実施に関する事務処理申し合わせ」に基づき決定された高校及び予備校を広報委員等が分担して訪問し、生徒向けの説明会を実施した。
説明には全学共通のスライドを用い、事前にその内容を検討した。また、昨年度の高校訪問報告書のまともを参照し質問への対応に活用した。
- (c) 進学説明会
募集部会にて「企業主催による進学説明会への参加の基本方針」に基づき決定された進学説明会に広報委員等が分担して参加し、ブース訪問者へ説明、対応を行った。
- (d) 本学主催入試説明会
本学主催の入試説明会に出席し、スライドを用いて工学部に関する説明を行い質問へ対応した。
- (e) 高校からの工学部訪問
理数教育支援センターで受付けている大学訪問に対して大学説明を実施した。
- (f) 大学案内の編集補助
平成 30 年度改組に合わせた大幅改訂、特に、宇宙システム工学科に関する内容について対応した。
- (g) その他
全学広報戦略会議からの依頼で「夢ナビ」及び「夢ナビライブ」に対応する教員の追加、ベネッセのマナビジョンへの掲載原稿の対応等を行った。

3. 残された課題、又は将来解決すべき事項

充実したオープンキャンパス、高校訪問等を目標に活動を行ってきた。今後も、同内容の活動を着実に遂行していくことが重要であると考えられる。なお、オープンキャンパスについては、クォーター制導入による前期末試験期間中の実施に伴い、準備・運営への協力学生の確保が困難となっており、今後の対策を検討する必要がある。

4. 委員会の議論に使われた資料

募集部会資料、大学案内、オープンキャンパスアンケートおよび調査結果。

5. 工学部・工学研究科の現状に関する意見、又は改善に関する提言

特になし

6. 昨年度の改善に関する提言に対する改善状況と未改善及び新たな問題点

オープンキャンパス学科ツアーの参加者は、例年、午前中に集中する傾向が続いていたが、午後の方が比較的ゆっくり見学できることをホームページなどで案内した結果、今年度は午後のツアーに分散できたと考えられる。なお、参加者の増加が継続しており、今後実施内容の見直しも視野に入れておく必要があると考えられる。

3. 2. 8 大学院工学府学務委員会

1. 審議事項

(1) 授業関係・教育関係

イ. 申請の審議, 承認

以下の申請について, 審議, 承認した。

- ・外国人研究生の受入れ
- ・外国人研究生の受入れ期間変更
- ・外国人特別研究学生の受入れ
- ・外国人特別研究学生の受入れ期間延長
- ・外国人特別聴講学生の受入れ
- ・外国人短期訪問学生の受入れ
- ・国費外国人留学生（研究留学生）の受入れ
- ・学生の派遣
- ・派遣学生の単位認定
- ・ダブルディグリー学生の単位認定
- ・他研究科授業科目の履修申請
- ・他学府授業科目の履修申請
- ・他大学院授業科目の履修申請
- ・他大学院にて修得した授業科目の単位認定
- ・社会人修学支援講座の聴講生受入れ
- ・博士後期課程の長期履修申請
- ・博士後期課程指導教員グループについて

ロ. 教育企画室会議からの検討依頼事項についての主な審議

- ・グローバル・コンピテンシーを涵養するための教養教育について、教養教育院への要望をまとめ、工学府執行部を経由して教育企画室へ提出した。
- ・GE コース実施に向けて、学部・大学院を跨ぐ履修について審議した。特例履修を認める大学院授業科目に「入門科目」「GE 科目（実践実習系科目を除く）」「GE 養成科目」とし、対象学生に求めるGPAについては3.0以上とした。
- ・中期計画・中期目標における用語の定義として、ICT（情報通信技術）活用科目、高次アクティブラーニング、大学院産学連携教育プログラムについて議論し、工学府意見として教育企画室に提出した。
- ・全学のカリキュラムポリシー、ディプロマポリシーについて意見集約し、工学府意見を教育企画室へ提出した。
- ・「卒業論文・修士論文の取扱いについて」は原則非公開とできる対応を教育企画室へ要望した。
- ・大学院シラバスの英語化を実施した。

ハ. 工学府社会人修学支援講座実施要項の改正及び募集要項冊子の見直しについて

平成29年度の工学府社会人修学支援講座開講科目について検討を行い、科目の見直しによる廃止、新設について審議し承認した。社会人修学支援講座は重要な位置づけとして、冊子体も発行することとした。

二. 融合科目の運用等について

各領域から提出された融合科目の内容について委員会で審議し承認した。周知する期間を考慮した早めの連絡とクォーター間で講演数のばらつきを少なくするよう確認があった。社会人学生対象の「工学融合科目Ⅵ及びⅦ」に限り、指導教員へ事前相談して、講演会の代わりにWEB講義の受講も認めることを決定した。受講証明書については無料の場合や講義受講料に含まれている場合は提出することが望ましいが、別途有料で取得するのであれば、他のエビデンス（WEB講義受講時のログイン画面、受講中のPC画面と講義内容など）で受講証明する。

ホ. 平成29年度工学府学年暦について

平成29年度の学年暦の3キャンパス統一が教育企画室決定で見送られ、工学部・工学府のみを統一した学年暦（案）が承認された。

へ．博士前期課程の副指導教員について

博士前期課程の副指導教員は「工学府のDマル合教員またはMマル合教員」となっているが、今後は他の大学院との連携や教員交流等が増える可能性があることから、教育上有益と認められる場合には、工学研究院以外の教員も副指導教員となれるよう、文言の一部改正の提案があり、審議を行った結果、原案のとおり承認された。

ト．平成29年度大学院工学府研究生・科目等履修生・聴講生の募集要項について

募集要項の内容を審議し、外国人留学生の場合は様々なケースがあり、要項の受付期間では間に合わないことがあるため、「研究生募集要項」の「受付期間及び受付時間」欄の但し書きについて、大学院係へ早めに相談することがわかるよう変更することで決定した。

2．将来解決すべき事項

(1) 工学府改組

大学院博士前期課程の1専攻化が平成31年度へ延期となった。改組に伴って、学生に不利益が生じないよう、平成31年度の大学院工学府のカリキュラムを検討する。

(2) 教育改革の実施

GEコース対応の教育改革が継続審議である。特に「大学院国際協働演習」が海外からの学生を受け入れた際の活動を本学学生に認める単位とする方向を検討する。

GEコースの具体的な学生配属などを推薦入試の運用も見据えながら、入試委員会と情報意見交換をしながら検討する。

中期計画にある「大学院産学連携教育プログラム」では、ProST、グリーンイノベーションリーダー育成コース、ストックデザインマネジメントコースが戸畑キャンパスでは対象となりうるが、KPI達成のための詳細な検討が必要である。特にProSTについては戸畑キャンパス全体への展開が課題となっている。

(3) 学位の教授会での承認手続きについて

戸畑キャンパスにおいて、博士（工学）の授与が教授会での投票審議事項となっている。専門の細分化が進んでおり、審議が形骸化している上、既に他キャンパスでは投票を行っていない実情を踏まえ、本手続きを継続するかどうか要検討事項である。

(4) 授業アンケート回収率、自己学修評価システムの改善

アンケートの実施、自己学修評価システムについては、学生の入力率が低迷している。電気電子工学科と機械知能工学科（機械工学コース、宇宙工学コース）で先行して改善に取り組む。

(5) 学年暦の全学統一

平成29年度に全学統一する予定だった学年暦が延期となった。2月末での成績報告、進級査定を考慮して第4Q末を飯塚キャンパス学年暦と併せるには、年末年始の休暇を短縮する、授業予備日を土日に設定するなど前向きな検討が必須である。

(6) 修士論文の著作権取扱いについて

博士論文に準じた著作権の取り扱いを参考に修士論文の著作権も整備する必要がある。卒業論文を扱う教務委員会とも連携して審議する。

(7) GPAについて

学生が積極的に多くのことを学修できるような制度設計について意見交換が必要である。

(8) 第3期中期目標の対応

平成28年度から始まっている第3期中期目標・中期計画について検討実施していく。

(9) 日本学生支援機構奨学生選考方法に関する申し合わせの見直し

同順位の場合の対応を検討する。

3. 2. 9 大学院工学府入学試験委員会

1. 今年度取り組んだ課題

- (1) 副委員長、出願資格認定委員会委員の選出について
- (2) 平成29年度工学府入学試験日程について
- (3) 平成28年10月入学大学院工学府博士課程入学試験の出願資格認定について
- (4) 平成28年10月入学大学院工学府博士後期課程入学試験（外国人留学生特別選抜）面接免除候補者の選考について
- (5) 博士前期課程一般選抜志願者への試験分野共通の受験案内について
- (6) 九州工業大学大学院工学府博士前期課程入学試験（一般選抜推薦型）合格候補者の選考について
- (7) 九州工業大学大学院工学府博士課程入学試験（第1回外国人留学生特別選抜）合格候補者の選考について
- (8) 九州工業大学大学院工学府博士課程国際共同教育学生選抜実施要項に基づく入学試験合格候補者の選考について
- (9) 九州工業大学大学院工学府博士前期課程入学試験（第1回）合格候補者の選考について
- (10) 九州工業大学大学院工学府博士後期課程入学試験（第1回）合格候補者の選考について
- (11) 平成29年度大学院工学府博士前期課程一般選抜（第2回募集）の実施について
- (12) 平成29年度工学府入学試験（第2回）実施日程（案）について
- (13) 平成30年度大学院入学試験日程（案）について
- (14) 平成30年度募集要項について
- (15) 九州工業大学大学院工学府社会人プログラムリーフレットについて
- (16) 平成28年度（2016年度）大学、短期大学及び高等専門学校における障害のある学生の修学支援に関する実態調査について
- (17) 平成29年度大学院工学府博士後期課程入学試験（第2回）の出願資格認定について
- (18) 平成29年度大学院工学府博士前期課程入学試験（第2回）の事前審査について
- (19) 平成29年度大学院工学府博士後期課程入学試験（第2回外国人留学生特別選抜）面接免除候補者の選考について
- (20) 九州工業大学大学院工学府博士課程入学試験（第2回外国人留学生特別選抜）合格候補者の選考について
- (21) 九州工業大学大学院工学府博士前期課程入学試験（第2回）合格候補者の選考について
- (22) 九州工業大学大学院工学府博士後期課程入学試験（第2回）合格候補者の選考について

2. 今年度採択した事項

- (1) 第2回試験の実施時期の変更について

例年3月上旬に実施している第2回一般選抜試験及び社会人特別選抜試験について、工学府長からの博士前期課程改組（当初予定平成30年度）対応による実施時期の検討依頼を受け、検討を重ねた結果、改組の承認時期及び入学定員増を考慮し、入学生の早期確保と他部局への影響に配慮し、第2回外国人留学生特別選抜試験の日程も含めて、平成29年度に実施する第2回試験（平成30年度入学者対象）については、試験的に12月中に実施し、合格発表まで行うことを取り決めた。

- (2) 「他大学院入試日程」の動向調査について

就職・採用活動時期の後ろ倒しを受けて、夏の大学院入試日程を前倒したことに伴い、昨年度に引き続き、他大学院入試日程の動向調査を実施した。

(3) 「本学部4年生」の動向調査について

就職・採用活動時期の後ろ倒しを受けて、夏の大学院入試日程を前倒したことに伴い、昨年度に引き続き、学部4年生の動向調査を行った。

(4) 学生募集要項の作成について

博士前期課程出願資格の追加や、第2回試験実施時期の変更に対応しつつ、次年度の募集要項の作成を行った。

(5) 社会人プログラムリーフレットの作成について

2017年度版「社会人プログラムリーフレット」の作成を行った。

3. 残された課題、又は将来解決すべき事項

(1) GE養成コースと大学院入試

- ・現在博士前期課程においては一般型での合格者が多数を占めるが、GE養成コースの内部進学生が増えるにあたって、推薦型へ比重を移すなどの検討が必要。

(2) 学生動向調査

- ・学部生の動向調査については、就職・採用時期の後ろ倒しの問題とは別に、継続実施しデータ分析を行う必要性有。

(3) 平成31年度改組対応

- ・WEBページでの改組予告の時期及び内容の検討。
- ・学生への周知方法。
- ・平成29年度秋頃までに、工学専攻及び新しい試験分野に係るアドミッションポリシーの策定，教員紹介（工学府の概要），試験科目等の決定など。
- ・募集要項の大幅な見直し（特に博士前期課程一般選抜の募集定員の記載方法など）。
- ・その他改組に係る事項の検討。・必要に応じて、スコアの蓄積による換算表の見直し。

(4) 大学院入試におけるTOEICとTOEFLの換算方法の見直し

- ・スコアの蓄積による換算表の見直し。

4. 委員会の議論に使用された資料

(1) 「中期目標・中期計画」

(2) 平成29年度九州工業大学大学院工学府博士前期課程学生募集要項（案）

(3) 平成29年度九州工業大学大学院工学府博士後期課程学生募集要項（案）

(4) 他大学入試日程動向調査

(5) 学生動向調査収集データ

(6) 九州工業大学大学院工学府入学試験委員会内規

5. 工学府の現状に関する意見または改善に関する提言

入学定員数管理の厳格化と就職環境の変化に伴い、優秀な本学学生が他大学への転出数増大が懸念されている。志願者の動向を調査し、平成31年度以降の改組に合わせて、入試時期の再検討、特に第2

回実施分の検討（前倒し実施を引継ぐ行うかどうか）が必要である。

6. 昨年度の改善に関する提言に対する、改善状況と未改善及び新たな問題点

平成28年度も学生の受験動向を注視してきたが、平成29年度は第2回入試が前倒しで実施されることもあり、引き続き、学生の受験動向・進路動向に注意する必要がある。また、平成31年度の大学院改組（予定）の関係もあり、平成30年度入試の形態が大きく変更することが想定されるため、平成29年度に実施形態を決定する必要があると考えられる。

3. 3 教員組織

3. 3. 1 教員の配置

① 大学院工学研究院

表 3. 3. 1 大学院工学研究院教員現員一覧

(平成28年4月1日現在)

系	講座名	教 授		准教授		講 師		助 教		合計
		現員	氏名	現員	氏名	現員	氏名	現員	氏名	現員
機械知能工学研究系	機械工学部門	7	梅景 俊彦 坪井 伸幸 鶴田 隆治 野田 尚昭 水垣 善夫 宮崎 康次 森 直樹	5	河部 徹 吉川 浩一 黒島 義人 清水 浩貴 長山 暁子	0		3	谷川 洋文 田丸 雄摩 矢吹 智英	15
	宇宙工学部門	5	赤星 保浩 橘 武史 平木 講儒 松田 健次 米本 浩一			0		2	西川 宏志 藤川 貴弘	7
	知能制御工学部門	4	大屋 勝敬 金 亨燮 黒木 秀一 坂本 哲三	3	相良 慎一 カン・ジユン 西田 健	0		2	新田 益大 松尾 一矢	9
	小計	16		8		0		7		31
建設社会工学研究系		7	佐久間 治 陳 沛山 永瀬 英生 廣岡 明彦 松田 一俊 山口 栄輝 吉武 哲信	8	穴井 謙 伊東 啓太郎 鬼束 幸樹 合田 寛基 重枝 未玲 寺町 賢一 徳田 光弘 日比野 誠	0				15
	小計	7		8		0		0		15
電気電子工学研究系	電気エネルギー部門	3	白土 竜一 匹田 政幸 三谷 康範	4	大塚 信也 小迫 雅裕 豊田 和弘 渡邊 政幸	0		1	今給黎 明大	8
	電子デバイス部門	3	和泉 亮 大村 一郎 松本 聡	1	松平 和之	0		3	佐竹 昭泰 鶴巻 浩 渡邊 晃彦	7
	システムエレクトロニクス部門	4	池永 全志 芹川 聖一 中藤 良久 水波 徹	6	市坪 信一 河野 英昭 張 力峰 中司 賢一 水町 光徳 山脇 彰	0		2	野林 大起 楊 世淵	12
	小計	10		11		0		6		27

物質工学研究系	応用化学部門	7	横野 照尚 北村 充 清水 陽一 竹中 繁織 柘植 顕彦 中戸 晃之 山村 方人	6	荒木 孝司 植田 和茂 岡内 辰夫 佐藤 しのぶ 坪田 敏樹 村上 直也	0		6	上村 直 下岡 弘和 高瀬 聡子 馬渡 佳秀 毛利 恵美子 森口 哲次	19
	材料開発部門	4	秋山 哲也 石丸 学 恵良 秀則 松本 要	6	高須 登実男 北村 貴典 徳永 辰也 堀部 陽一 山口 富子 横山 賢一	0		2	伊藤 秀行 堀出 朋哉	12
	小計	11		12		0		8		31
基礎科学研究系	数理科学部門	2	酒井 浩 鈴木 智成	8	浅海 賢一 井上 創造 木村 広 野田 尚廣 花沢 明俊 藤田 敏治 三浦 元喜 若狭 徹	0		0		10
	量子物理学部門	4	鎌田 裕之 出口 博之 中尾 基 美藤 正樹	3	小田 勝 中村 和磨 渡辺 真仁	0		0		7
	小計	6		11		0		0		17
先端機能システム工学研究系		5	奥山 圭一 小森 望充 鈴木 芳文 趙 孟佑 本田 崇	6	岩田 稔 大門 秀朗 坂井 伸朗 孫 勇 竹澤 昌晃 脇迫 仁	0		2	花澤 雄太 増井 博一	13
	小計	5		6		0		2		13
合計		55		56		0		23		134

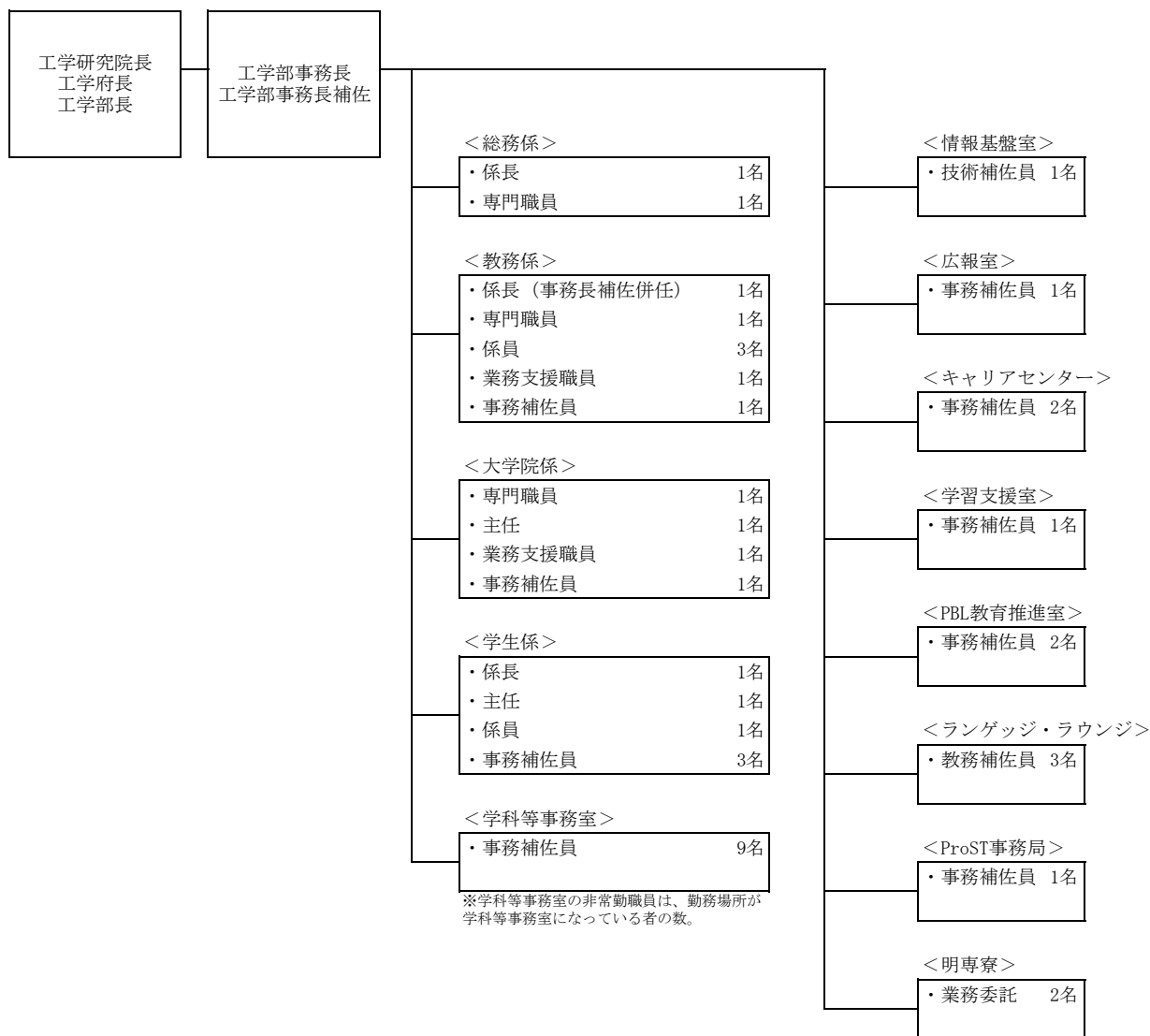
② 大学院工学府

表 3. 3. 2 大学院工学府連携講座（定員外）

専攻名	教 授		准教授		講 師		助 教		合計
	現員	氏名	現員	氏名	現員	氏名	現員	氏名	現員
先端機能システム工学専攻	1	山田 明	1	西 敏郎	0		0		2
合計	1		1		0		0		2

3. 4 事務組織

図3. 4. 1 事務組織図（平成28年4月1日現在）



4 大学院工学研究院・工学府・工学部の財政

4. 1 運営費交付金配分状況

表4.1.1 運営費交付金配分額、学部運営費、教室配分額年次変化（単位：千円）

区分・年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
運営費交付金配分額	510,350	495,681	469,877	440,723	429,610
学部運営費	226,491	210,999	205,180	229,280	231,696
（うち光熱水費保留分）	(119,483)	(103,869)	(101,137)	(110,627)	(104,267)
各学科等配分額	283,859	284,682	264,697	211,443	197,914

（＊）平成21年度より光熱水費の全額を部局で管理することとなったため、額が例年よりも大きくなっている。

表4.1.2 平成28年度費目別配分額（単位：千円）

費 目	配分額	比率（％）
研究経費	50,250	11.70%
教育経費	120,848	28.13%
業績等配分経費	21,207	4.94%
事項指定経費	5,609	1.31%
学部運営費	127,429	29.66%
光熱水費	104,267	24.27%
その他	0	0.00%
合 計	429,610	100%

表4.1.3 過去5年間の学科等別積算校費配分額の推移（単位：千円）

年度・科目／系		機械知能工学 研究系	建設社会工学 研究系	電気電子工学 研究系	物質工学研究 系	基礎科学系	人間科学系	先端機能システム 工学研究系	その他
平成 24 年度	研究経費	12,800	6,400	13,200	13,580	7,180	5,600	5,600	0
	教育経費	43,961	17,909	33,315	31,589	480	2,370	25,232	25
	業績等配分経費	6,930	3,258	8,013	8,814	2,456	1627	2,459	0
	その他	1,368	0	0	355	0	0	4,435	251,394
平成 25 年度	研究経費	12,000	6,400	12,800	13,576	7,976	6,400	5,600	0
	教育経費	43,793	16,833	32,419	32,743	400	3,648	26,391	0
	業績等配分経費	6,712	3,116	6,990	8,670	2,605	1,544	2,671	0
	その他	1,080	0	622	355	0	0	4,435	235,902
平成 26 年度	研究経費	11,780	6,460	11,780	12,920	7,220	6,460	5,700	0
	教育経費	41,212	16,412	30,982	31,860	360	3,386	26,647	0
	業績等配分経費	6,908	3,287	6,726	7,604	2,890	1,895	2,627	0
	その他	943	0	1086	310	0	0	3,874	218,548
平成 27 年度	研究経費	10,260	5,814	10,260	11,286	6,840	4,446	5,130	0
	教育経費	34,290	14,317	27,764	28,641	0	1,560	22,646	0
	業績等配分経費	5,354	2,073	5,365	4,941	1,627	1,177	1,750	0
	その他	896	0	1032	294	0	0	3,680	229,280
平成 28 年度	研究経費	10,050	5,025	9,045	10,385	5,695	5,360	4,690	0
	教育経費	32,364	12,517	26,012	26,113	0	1,920	21,922	0
	業績等配分経費	5,071	2,097	4,550	4,844	1,688	1,059	1,898	0
	その他	851	0	981	280	0	0	3,497	231,696

4 大学院工学研究院・工学府・工学部の財政

4. 2 科学研究費助成事業の採択状況

表4.2.1 科学研究費助成事業採択状況（単位：千円）

種目/年度	平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
特別推進研究	—	—	0	0	—	—	—	—	—	—
特定領域研究	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
特別研究促進費	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
新学術領域研究	2	3,200	2	6,700	2	6,800	0	0	1	900
基盤研究（S）	1	39,500	1	32,600	2	83,800	2	55,400	1	24,600
基盤研究（A）（海外）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基盤研究（A）（一般）	2	20,900	2	22,500	1	9,700	1	3,500	0	0
基盤研究（B）（一般）	9	35,100	7	35,600	8	29,400	13	66,000	13	46,400
基盤研究（C）（一般）	40	48,700	43	49,900	48	62,000	51	57,700	48	54,900
挑戦的萌芽研究	12	12,950	13	17,100	10	13,300	12	15,600	13	13,000
若手研究（A）	2	8,200	1	3,300	0	0	0	0	0	0
若手研究（B）	9	12,700	8	10,100	9	9,800	8	8,100	9	12,800
研究活動スタート支援	3	4,800	1	1,000	—	—	1	1,000	0	0
奨励研究	1	600	1	600	1	600	0	0	0	0
研究成果公開促進費	—	—	1	600	1	1,100	—	—	0	0
特別研究員奨励費	1	900	5	4,600	5	4,600	2	1,700	1	1,100
計	82	187,550	85	184,600	87	221,100	90	209,000	86	153,700

※金額は、直接経費のみ。（転出を含み、転入を除く）

表4.2.2 平成28年度科学研究費助成事業学科等別申請、採択状況

（採択件数の上段は継続課題で内数）

事項/系	機械知能 工学研究 系	建設社会 工学研究 系	電気電子 工学研究 系	物質工学 研究系	基礎科学 研究系	先端機能 システム 工学研究 系	人間科学 研究系	工学部 技術部	合 計
申請件数	29	13	23	25	11	7	0	1	109
採択件数	10	3	11	15	11	6	0	0	56
	8	5	2	8	5	2	0	0	30

※申請件数・採択件数ともに、非常勤研究員を含む。

また、申請・採択件数には、奨励研究費及び特別研究員奨励費を含まない。

4. 3 外部資金導入状況

表4.3.1 寄附金受け入れ状況（奨学寄附金）（単位：千円）

学科等/年度	平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
機械知能工学研究系	17	13,328	11	6,340	18	12,290	12	7,710	8	6,220
建設社会工学研究系	14	7,325	15	21,480	18	20,360	19	9,394	17	8,895
電気電子工学研究系	17	8,210	16	10,590	15	11,390	10	5,390	17	12,550
物質工学研究系	20	14,880	19	19,587	17	12,280	19	15,820	18	42,910
基礎科学研究系	2	1,500	2	1,029	0	0	2	1,130	2	1,200
先端機能システム工学研究系	4	2,100	4	1,000	3	1,650	3	3,200	1	500
人間科学系	0	0	0	0	0	0	1	67	-	-
工学研究院長	0	0	0	0	0	0	0	0	1	100
合計	74	47,343	67	60,026	71	57,970	66	42,711	64	72,375

表4.3.2 共同研究受け入れ状況（単位：千円）

学科等/年度	平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
機械知能工学研究系	21	22,002 (19,002)	21	18,084 (18,084)	20	29,964 (29,964)	20	27,461 (22,743)	35	27,569 (22,088)
建設社会工学研究系	9	8,395 (7,400)	7	10,645 (10,645)	14	16,536 (16,536)	13	18,165 (8,542)	10	11,602 (10,090)
電気電子工学研究系	37	42,446 (41,351)	34	34,536 (34,536)	32	67,558 (67,558)	36	138,021 (79,603)	35	117,332 (73,141)
物質工学研究系	34	41,290 (41,290)	25	37,552 (37,552)	32	49,876 (49,876)	29	35,948 (35,948)	31	49,610 (48,868)
基礎科学研究系	3	2,200 (2,200)	3	4,948 (4,948)	2	1,000 (1,000)	1	500 (500)	5	7,273 (6,985)
先端機能システム工学研究系	11	47,013 (46,017)	13	37,380 (37,380)	14	23,455 (23,455)	19	32,036 (16,980)	25	112,023 (14,687)
人間科学系	0		0		0		0	0 (0)	-	- -
合計	115	163,346 (157,260)	103	143,145 (143,145)	114	188,389 (188,389)	118	252,131 (164,316)	141	325,409 (175,859)

※下段の（ ）数字は民間負担分の歳入金額で内数。

※複数年契約を含む。

表4.3.3 受託研究受け入れ状況（単位：千円）

学科等/年度	平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
機械知能工学研究系	9	12,961	10	27,902	15	135,949	14	114,918	12	68,755
建設社会工学研究系	6	19,888	7	35,931	5	21,030	3	31,147	4	24,986
電気電子工学研究系	21	33,727	22	38,199	29	68,827	19	67,113	19	68,578
物質工学研究系	22	130,101	18	94,334	22	83,539	16	82,592	12	79,816
基礎科学研究系	1	1,150	3	9,041	3	10,840	2	5,791	3	4,625
先端機能システム工学研究系	6	5,361	5	12,181	2	18,040	2	20,524	4	15,794
人間科学系	1	0	1	150	0	0	0	0	-	-
合計	66	203,188	66	217,738	76	338,225	56	322,085	54	262,554

※複数年契約を含む。

※注意事項

- ・ 束ね契約もありますが、申請を1件としています。
- ・ 知的クラスターは1テーマを1件とし、代表者の所属で分けています。
- ・ 受託事業は含まれていません。

表4.3.4 寄附講座受け入れ状況（単位：千円）

名称	所属学科	寄附者	年度別受け入れ金額					教員組織
			平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
電力系統制御工学	電気電子工学科	九州電力㈱	25,000	18,000	18,000	-	-	H26年度で終了

4. 3. 5 寄附金の利息

大学院工学研究院・工学府・工学部では、寄附金の利息を共通経費として運用している。

表4. 3. 5に平成28年度の使用内訳を示す。

表4. 3. 5 平成28年度寄附金共通経費使用報告

(単位:円)

受入額		使用額	
事項	金額	事項	金額
前年度繰越	5,725,632	学生と教員との懇談会 会議費	1,959
		次年度繰越	5,723,673
計	5,725,632	計	5,725,632

5 大学院工学研究院・工学府・工学部と社会のつながり

5. 1 地域貢献活動

5. 1. 1 大学公開

大学公開事業の一環として実施している高校生のためのオープンキャンパス（学内見学会）の実施状況を表 5. 1. 1 に示す。

年度	参加者数（名）		
	大学全体	学部別	
平成 2 4 年度	3, 005	（工）	1, 989
		（情）	1, 016
平成 2 5 年度	3, 426	（工）	2, 140
		（情）	1, 286
平成 2 6 年度	2, 782	（工）	1, 396
		（情）	1, 386
平成 2 7 年度	3, 847	（工）	2, 431
		（情）	1, 416
平成 2 8 年度	4, 566	（工）	2, 940
		（情）	1, 626

（工学部は台風接近に伴い 2 日目を中止）

5. 1. 2 公開講座等

表5.1.2 公開講座等実施状況

(単位：名)

年度	講座名	対象	参加者数
平成24年度	「日食・金星太陽面通過 観察説明会」	指導者（小中高等学校の先生、市民福祉センター、公共施設の担当者）	30
	第56回ジュニア・サイエンス・スクール「正多角形をたたんで作る不思議な模様」	小学生～一般の方	72
	缶サット甲子園2012九州大会	高校生	
	サイエンスフェア&サイエンスコンテストfor 高校生	高校生	
	第57回ジュニア・サイエンス・スクール「見て、触れて楽しもう！北九州工学体験工房」	小学生（5年生以上）、中学生	32
	サマーサイエンスフェスタin北九州2012	一般とSSH指定校の高校生	2000
	福岡県教育委員会主催先端科学技術体験合宿	中学生	44
	福岡県教育センター主催キャリアアップ講座	高校教員	15
	読売新聞企画 社会見学受入れ	小学生	30
	SAFnet世界一行きたい科学広場IN北九州2012	一般	ブース出展
	北九州市立戸畑図書館 夏休み特別企画「科学であそぼう」	小学生	
	第58回ジュニア・サイエンス・スクール「ロボット学習と顕微鏡作り」	小学4～6年生	16
	北九州市立児童文化科学館「わくわくサイエンスキッズ」	一般	ブース出展
	第59回ジュニア・サイエンス・スクール「電子回路ものづくり体験」	小学5年生～中学生	19
	第60回ジュニア・サイエンス・スクール「DNAを調べよう」	小学生4年生～中学生	23
	第61回ジュニア・サイエンス・スクール「宇宙ってどんなところ？」	小学校4年生以上～中学生まで	28
	福岡県高等学校北九州筑豊地区化学部会研修会	高校教員	10
	第62回ジュニア・サイエンス・スクール「コロコロ装置を作ろう」	小学校4年生以上～高校生まで	40
	第63回ジュニア・サイエンス・スクール「折り紙ユニットで作る不思議な立体（中級）」	小学校4年生以上～一般の方	62
平成25年度	第64回ジュニア・サイエンス・スクール「折り紙ユニットでつくる不思議な立体（初級）」	小学生～一般の方	47
	第65回ジュニア・サイエンス・スクール「JSSin環境ミュージアム」	小学生～一般の方	約250
	第66回ジュニア・サイエンス・スクール「顕微鏡で植物のからだを調べてみよう」	小学生	69
	第67回ジュニア・サイエンス・スクール「見て触れて楽しもう！北九州工学体験工房」	小学生（5年生以上）、中学生	34
	第68回ジュニア・サイエンス・スクール「宇宙ってどんなところ？2」	小学4年生～中学生	20

	第69回ジュニア・サイエンス・スクール「コロコロ装置をつくろう！」	小学4年生～高校生	29
	第70回ジュニア・サイエンス・スクール「オリジナルクリスマスリースを作ろう」	小学生	15
	第71回ジュニア・サイエンス・スクール「三角形の内角の和は本当に180度なのかな？」（飯塚キャンパスにて開催）	小学5年生～中学生	19
	第72回ジュニア・サイエンス・スクール「正多角形を切って作るふしぎな模様」	小学生～一般の方	52
	特別編ジュニア・サイエンス・スクール「生ごみがおいしい野菜にへんしん？～土のちからをまなぶ～」	あやめが丘学童クラブの児童・先生	113
	理数教育支援センター セミナー2013	一般	79
	秋田県立大学 平成25年度夏休み科学教室 にブース出展「折り紙ユニットで作るふしぎな立体」	小学3年生～中学3年生	約30
	読売新聞企画 社会見学受入れ「宇宙ってどんなところ？」	小学生	30
	世界一行きたい科学広場 IN 北九州 2013 にブース出展「光の絵画を作ろう！」	一般	
	北九州市立戸畑図書館 夏休み特別企画「科学であそぼう！！宇宙の寒さを体験しよう！」	小学生	60
	北九州市環境ミュージアム 科学教室「光で遊ぼう！」	小学生以上	
	一般社団法人 電子情報通信学会 子供の科学教室「ものづくり体験 ～センサーを用いた電子工作教室～」	小学5.6年生	15
	北九州市立児童文化科学館 わくわくサイエンスキッズ にブース出展「光の絵画を作ろう！」	一般	
	北九州市エアターミナル株式会社共催「Mobile Space Laboratory ～いつでも どこでも プラネタリウム～」	一般	196
	オットモ★プラネタリウム	一般	60
	「若田光一宇宙飛行士とのリアルタイム交信 ～宇宙につなぐれ！きみの夢～」サブ会場	一般	141
	イノベーションフォーラム2013 連携イベント「Mobile Space Laboratory ～いつでも どこでも プラネタリウム～」	一般	
	サマーサイエンスフェスタin北九州2013	一般とSSH指定校の高校生	2150
	IKEA神戸でプラネタリウムを楽しもう！	一般	150
	福岡県教育委員会主催先端科学技術体験合宿 講座3「色と色素について調べてみよう」 講座4「センサや電子回路でものづくりを体験しよう」 福岡県高等学校北九州筑豊地区化学部会研修会	中学生 高校教員	20 11
平成26年度	第73回ジュニア・サイエンス・スクール「JSSin環境ミュージアム」	小学生～一般	90
	第74回ジュニア・サイエンス・スクール「DNAを調べよう！」	小学4年生～中学生	40
	第75回ジュニア・サイエンス・スクール「折り紙ユニットで作るふしぎな立体（中級）」	小学4年生～一般	60
	第76回ジュニア・サイエンス・スクール「見て触れて楽しもう！北九州工学体験工房」	小学5年生～中学生	46
	第77回ジュニア・サイエンス・スクール「宇宙ってどれくらい寒いのか？」	小学4年生～中学生	23

	第78回ジュニア・サイエンス・スクール「微生物の力で生ごみを土に変えよう」	小学4年生～中学生とその保護者	15
	第79回ジュニア・サイエンス・スクール「コロコロ装置を作ろう！」	小学4年生～高校生	35
	第80回ジュニア・サイエンス・スクール「折り紙ユニットでつくるふしぎな立体（初級）」	小学生～一般	39
	第81回ジュニア・サイエンス・スクール「凧作り体験」	小学生	11
	JR九州 イベント『アミュ庭』	一般	のべ237
	世界一行きたい科学広場in北九州2014	一般	約100
	北九州市エアターミナル株式会社共催「Mobile Space Laboratory ～いつでも どこでも プラネタリウム～」	一般	のべ90
	わくわくサイエンスキッズ 「折り紙ユニットで立体を作ってみよう」	一般	70
	アンビシャス体験フェスティバル 「超小型衛星「鳳龍4号の模型」を作ろう！」	一般	80
	KITAKYUSHU MONOCAFE 2014「Mobile Space Laboratory ～いつでも どこでも プラネタリウム～」	一般	195
	九州コドモ工業大学「Mobile Space Laboratory ～いつでも どこでも プラネタリウム～」	一般	127
	サマーサイエンスフェスタ in 北九州 2014	一般とSSH指定校の高校生	2,268
	福岡県高等学校化学部会研修会	高校教員	39
平成27年度	第82回ジュニア・サイエンス・スクール「JSS in 環境ミュージアム」	小学生～一般	約48
	第83回ジュニア・サイエンス・スクール「糸でえがく星型模様」	小学4年生～中学生	9
	第84回ジュニア・サイエンス・スクール「DNAを調べよう！」	小学4年生～中学生	22
	第85回ジュニア・サイエンス・スクール「見て触れて楽しもう！北九州工学体験工房」	小学5年生～中学生	33
	第86回ジュニア・サイエンス・スクール「ペットボトルロケットを作ってみよう！飛ばしてみよう！」	小学4年生～中学生	14
	第87回「微生物の力で生ごみを土に変えよう」	小学4年生～中学生	28
	第88回ジュニア・サイエンス・スクール「コロコロ装置をつくろう！」	小学4年生～高校生	29
	第89回ジュニア・サイエンス・スクール「折り紙ユニットで作るふしぎな立体（中級）」	小学4年生～一般	26
	JR九州 イベント『JR博多シティ学校』	一般	160
	北九州エアターミナル株式会社共催「Mobile-Space-Laboratory ～いつでも どこでも プラネタリウム～」	一般	のべ182
	世界一行きたい科学広場 IN 北九州 2015 にブース出展	一般	4,128 (イベント全体)
	公益財団法人・国際科学技術財団主催「第260回 やさしい科学技術セミナー」	一般	22
	KIGSイノベーションフォーラム「ロボット時代の創造」	一般	586

平成28年度	立体折紙教室「正多面体の世界3～折り紙ユニットで立体を作ってみよう～」	一般	17
	サマーサイエンスフェスタ in 北九州 2015	一般とSSH指定校の高校生	725
	福岡県高等学校化学部会研修会	高校教員	51
	第90回ジュニア・サイエンス・スクール「見て触れて楽しもう！北九州工学体験工房」	小学4年生～高校生	30
	第91回ジュニア・サイエンス・スクール「クリップモーターカーの工作」	小学4年生～6年生	22
	第92回ジュニア・サイエンス・スクール「WorldSpaceWeek」	一般	136
	第93回ジュニア・サイエンス・スクール「糸でえがく星型模様」	小学4年生～中学生	11
	第94回ジュニア・サイエンス・スクール「DNA を調べよう・雨粒の標本を作ろう」	小学4年生～中学生	21
	第95回ジュニア・サイエンス・スクール「折り紙ユニットで作るふしぎな立体（初級）」	小学生以上	84
	立体折紙教室「正多面体の世界1～正方ユニットによる多面体づくり」	一般	15
	立体折紙教室「正多面体の世界3～折り紙ユニットで立体を作ってみよう～」	一般	14
	糸島市福吉公民館ワークショップ「正多面体のはなし～折り紙でいろいろな立体をつくろう～」	一般	25
	立体折紙教室「正多面体の世界1～正方ユニットによる多面体づくり～」	一般	17
	関西で宇宙を楽しむ学術イベント「宇宙HACK！」プラネタリウム体験「うめきたの空から宙へ」	一般	
	高大連携課題研究発表会	一般とSSH指定校の高校生	725
	福岡県高等学校化学部会研修会	高校教員	50

5. 1. 3 北九州市民カレッジへの協力

本学は、福岡・北九州地域リカレント教育推進協議会主催のリカレント教育の実施大学の一つになっていたが、その後継事業として、平成17年度から北九州市民カレッジが始まった。これらの事業にこの5年間に協力したセミナーの実施状況を表5. 1. 3に示す。

表5.1.3 北九州市民カレッジ（リカレント教育）協力セミナー実施状況（単位：名）

年 度	セミナー名	参加者数	備 考
平成24年度	人類文明を切り拓く材料開発の過去・現在・未来	10	市民カレッジ
平成25年度	未来を切り拓く先端機能システム	10	市民カレッジ
平成26年度	未来を切り開く電気電子工学	13	市民カレッジ
平成27年度	計測制御技術の最前線	9	市民カレッジ
平成28年度	あらゆる科学技術を支える“化学”が生み出す新世界	16	市民カレッジ

5. 1. 4 出前講義

表5.1.4 出前講義

近年、社会的問題となっている、いわゆる青少年の「科学離れ」「理工系離れ」対策の一環として、小・中・高等学校の生徒を対象に本学の教官が小・中・高等学校に出向き、理工系分野の学問の最前線の話題や魅力等について分かり易く講義をする。

年度	講義名	実施件数	対象者
平成24年度	もてる男の顔認証ーバイオセキュリティの世界ー	10	小学・中学・高校・高専・予備校
	情報工学のもたらす新世界探訪ー情報工学の可能性は∞ー	6	小学・中学・高校・高専・予備校
	技術者ってかっこよくって、わるくない！ーアニメや映画にみる技術者の姿ー	7	小学・中学・高校・高専・予備校
	テレビはなぜ見える！ーテレビの基本原理と電波のふしぎー	4	小学・中学・高校・予備校・一般
	切っても切れない情報社会ースマートフォンから予防医療までー	2	中学・高校・高専・予備校
	見えないことと、その支援方法	2	中学・高校・高専・予備校
	データを科学する：判断や認識に潜む危うさを見抜くー血液型で性格判断できるってホント？認識って実は何？ー	1	高校・高専・予備校
	人間の見るしぐみをしらべてロボットの見るしぐみをつくってますー脳の視覚のしぐみをコンピューターで実現ー	7	小学・中学・高校・高専・予備校
	迷路とマイクロマウスー人工知能ってなにー	2	小学・中学・高校
	機械情報工学って何？ー身近な機械情報工学、医療・ロボット開発で活躍する情報工学技術ー	6	高校・高専・予備校
	世界初！蝶ロボットの開発ー何故、蝶は飛ぶことができるのか？ー	4	高校・高専
	見えない“流れ”を視る！ー何故、ボールは変化する？何故、昆虫は飛ぶことができる？ー	3	高校・高専
	ロボットから学ぶ人間の不思議ー人の感覚を探るー	3	中学・高校・高専
	生物の動きを真似たマイクロマシンと磁場ー先端医療デバイスからアミューズメントロボットまでー	3	高校・高専
	人のためのロボット	1	高校・高専
	ニューラルネットのロボットへの応用ー脳をまねてロボットを動かすはなしー	1	高校
	超精密の不思議ー身の回りの超精密ー	2	小学・中学・高校・高専
	携帯電話もゲームもパソコンも自動車も集積回路（IC）がぎっしりーICってなに？半導体ってなに？ー	3	中学・高校・高専・予備校
	自動車の出来るまでーものづくりの現場を見てみようー	5	高校・高専・予備校
	シャボン玉から知る複合材料の科学	1	高校
	最先端のハイテクを支える錯塩の科学に触れよう！ー制がん剤から新幹線までー	2	中学・高校・高専・予備校
	世界最強！日本磁石研究最前線ー世界を変えた強力磁石。レアメタル問題を救えるか？ー	4	中学・高校・高専・予備校
	不思議な金属ー金属から学ぶ材料のいろいろー	2	高校・保護者
	超伝導体による浮上実験ー超伝導体と磁石はどう違うか？ー	10	小学・中学・高校・高専・予備校
	電気のいろいろな作り方ー身近なもので電気をつくろうー	3	小学

	お日様パワーは地球を救う！ー電気から学ぶ資源とエネルギーー	3	高校・高専
	共に考えよう、地球温暖化とエネルギーのことー自然エネルギーの利用の話を中心にー	2	小学・中学・高校・予備校
	エコポ・ワークショップ！植木鉢から学ぶ身近な自然と日本の文化ー自分でデザインした植木鉢をつくって植物を育てようー	2	小学・中学・高校・高専・予備校
	地盤災害はどうして起こる？	2	小学・中学・高校
	総合的学問「建築」への招待	3	高校
	生ゴミからプラスチックと肥料をつくるーリサイクルを考えようー	1	小学・中学
	生ゴミからプラスチックと肥料をつくるーびせいぶつの不思議な世界ー	1	小学
	パンデミックシミュレーションー新型インフルエンザや口蹄疫流行の予測ー	1	中学・高校・高専
	生物の創り出すナノ世界を覗き見るー生物を理解するための情報工学と物理ー	1	小学・中学・高校・高専・予備校
	医薬品の安全で効率的な体内取り込み技術ー生物に学ぶドラッグデリバリーシステムー	1	高校・高専・予備校
	3Dデザインで体の健康を科学しますー血管、がん、肌、毛髪、歯骨までー	3	中学・高校・高専・予備校
	驚きのマイクロ波化学ー電子レンジでグリーンイノベーションー	2	小学・中学・高校・高専・予備校
	科学を装ったニセモノの世界ーニセ科学にだまされるな！ー	2	中学・高校・高専・予備校予備校
	生命の起源と進化を考えるー卵が先か、ニワトリが先かー	2	中学・高校・高専・予備校
	宇宙とは何か？時間とは何か？人間とは何か？	1	高校・高専・予備校
	相対性理論と4次元時空間ーアインシュタインが目指したものー	1	高校・高専・予備校
	数学と物理のコラボが導く新しい理系眼ー数学を通して見た高校と大学の接続ー	1	高校・高専・予備校
	管楽器はどうして鳴るかーなぜ音は出るの？ー	1	中学・高校・高専・予備校
	工学部ってどんなところ？	3	高校・予備校
	理系（技術系）人材養成のためのプロジェクト学習についてー企業で求められる人材とは？ー	2	中学・高校・高専・予備校
平成25年度	もてる男の顔認証ーバイオセキュリティの世界ー	9	小学・中学・高校・高専・予備校
	自分で作るフライトシミュレーター運動方程式に従って飛行機を操縦しようー	2	高校・高専・予備校
	情報工学のもたらす新世界探訪ー情報工学の可能性は∞ー	4	小学・中学・高校・高専・予備校
	技術者ってかっこよくって、わるくない！ーアニメや映画にみる技術者の姿ー	11	小学・中学・高校・高専・予備校
	切っても切れない情報社会ースマートフォンから予防医療までー	1	中学・高校・高専・予備校・一般
	自分がやりたいことをみつけるための方法ーラベル思考法を体験してみようー	1	中学・高校・高専・予備校
	データを科学する：判断や認識に潜む危うさを見抜くー血液型で性格判断できるってホント？認識って実は何？ー	2	中学・高校・高専・予備校
	人間の見るしくみをしらべてロボットの見るしくみをつくってますー脳の視覚のしくみをコンピューターで実現ー	9	小学・中学・高校・高専・予備校
	迷路とマイクロマウスー人工知能ってなにー	1	小学・中学・高校
	機械情報工学って何？ー身近な機械情報工学、医療・ロボット開発で活躍する情報工学技術ー	7	高校・高専・予備校

ロボットから学ぶ人間の不思議ー人の感覚を探るー	2	中学・高校・高専
ロボットとプログラミング	2	中学・高校・高専・予備校
生物の動きを真似たマイクロマシンと磁場ー先端医療デバイスからアミューズメントロボットまでー	6	高校・高専
人のためのロボット	2	高校・高専
ニューラルネットのロボットへの応用ー脳をまねてロボットを動かすはなしー	1	高校
未来に挑戦 超精密加工技術ー電子機器、グリーンデバイス、医療への適用ー	2	小学・中学・高校・高専・予備校
携帯電話もゲームもパソコンも自動車も集積回路（IC）がぎっしりーICってなに？半導体ってなに？ー	4	中学・高校・高専・予備校
自動車の出来るまでーものづくりの現場を見てみようー	4	高校・高専・予備校
金属の強さとやわらかさ	1	高校
金属の不思議な性質についてー形状記憶現象の観察ー	2	高校
医療に役立つ材料ーバイオマテリアルー	3	高校
最先端のハイテクを支える錯塩の科学に触れよう！ー制がん剤から新幹線までー	1	中学・高校・高専・予備校
スマートな先端材料ー医療からボーイング787までー	3	高校
世界最強！日本磁石研究最前線ー世界を変えた強力磁石。レアメタル問題を救えるか？ー	4	中学・高校・高専・予備校
超伝導体による浮上実験ー超伝導体と磁石はどう違うか？ー	7	小学・中学・高校・高専・予備校
電気のいろいろな作り方ー身近なもので電気をつくろうー	3	小学
共に学ぼう、地球温暖化とエネルギーのことー自然エネルギーの利用の話を中心にー	2	小学・中学・高校・予備校
エネルギーを操る革新的なマテリアルたちー太陽電池，超伝導，革新的エネルギー・マテリアルー	1	中学・高校・高専・予備校
マテリアルの資源とリサイクルー持続型循環社会をめざしてー	1	高校・予備校
エコボ・ワークショップ！植木鉢から学ぶ身近な自然と日本の文化ー自分でデザインした植木鉢をつくって植物を育てようー	2	小学・中学・高校・高専・予備校
魚のすみやすい川づくり	1	中学・高校
地盤災害はどうして起こる？	1	小学・中学・高校
長～い橋が風で揺れる！？ー揺れを小さくする技術とは？ー	2	中学・高校・高専・予備校
総合的学問「建築」への招待	1	高校
生物の創り出すナノ世界を覗き見るー生物を理解するための情報工学と物理ー	1	小学・中学・高校・高専・予備校
体の健康を観察と計算予測で魅せます。ー血管、がん、肌、毛髪、歯骨、肝臓までー	2	高校・高専・予備校
私たちの生活に欠かせない遺伝子の利用ー遺伝子組み換え作物とiPS細胞	2	小学・中学・高校・高専・予備校・一般
科学を装ったニセモノの世界ーニセ科学にだまされるな！ー	1	中学・高校・高専・予備校・一般
生命の起源と進化を考えるー卵が先か、ニワトリが先かー	1	中学・高校・高専・予備校・一般
材料の元になる元素はどこからやってきたの？宇宙・星の一生から地球へー元素の旅ー	2	中学・高校・高専・予備校
宇宙とは何か？時間とは何か？人間とは何か？	1	高校・高専・予備校

平成26年度	クイズでわかる現代物理の不思議な世界 ー時間とは？光とは？物質とは？原発は？宇宙は？ー	1	高校・高専・予備校
	正多面体のはなしー折り紙でいろいろな立体をつくろうー	2	小学・中学・高校・高専・予備校
	公式暗記に振り回されず、いつも「なぜ」という疑問をもつ習慣をもてば、数学は必ず易しくて面白い得意な科目に化ける	3	中学・高校・高専・予備校
	管楽器はどうして鳴るかーなぜ音は出るの？ー	1	中学・高校・高専・予備校
	工学部ってどんなところ？	4	高校・予備校
	理系（技術系）人材養成のためのプロジェクト学習について ー企業で求められる人材とは？ー	1	中学・高校・高専・予備校
	もてる男の顔認証ーバイオセキュリティの世界ー	13	小学・中学・高校・高専・予備校
	情報工学のもたらす新世界探訪ー情報工学部の可能性は∞ー	15	小学・中学・高校・高専・予備校
	技術者ってかっこよくって、わるくないーアニメや映画にみる技術者の姿ー	10	小学・中学・高校・高専・予備校
	話せないことと、その支援方法	1	小学・中学・高校・高専・予備校
	どうして、いろいろ感じたり、動いたり出来るの？ ー感覚・行動と脳の関係ー	1	高校・高専
	データを科学する：判断や認識に潜む危うさを見抜く ー血液型で性格判断できるってホント？認識って実は何？ー	1	中学・高校・高専・予備校
	人間の見るしきみをしらべてロボットの見るしきみをつくってますー脳の視覚のしきみをコンピューターで実現ー	5	小学・中学・高校・高専・予備校
	機械情報工学って何？ ー身近な機械情報工学、医療・ロボット開発で活躍する情報工学技術ー	1	中学・高校・高専・予備校
	「鉄&鉄子」の楽しみー身近な電車の中の先端技術ー	1	高校・高専
	蝶の飛翔メカニズムと世界初！蝶ロボットの開発 ー蝶が作る不思議な渦！何故、蝶は飛ぶことができるのか？ー	3	高校・高専・予備校
	見えない“流れ”を視る！ ー何故、ボールは変化する？何故、昆虫は飛ぶことができる？ー	3	高校・高専・予備校
	ロボットから学ぶ人間の不思議 ー人の感覚を探るー	3	中学・高校・高専
	人型レスキューロボットコンテストとプロジェクト型学習	2	中学・高校・高専・予備校
	生物の動きを真似たマイクロマシンと磁場 ー先端医療デバイスからアミューズメントロボットまでー	3	高校・高専
	人のためのロボット	3	高校・高専
	ニューラルネットのロボットへの応用 ー脳をまねてロボットを動かすはなしー	1	高校
	未来に挑戦 マイクロ加工技術 ー電子機器、グリーンデバイス、医療への適用ー	4	小学・中学・高校・高専・予備校
	携帯電話もゲームもパソコンも自動車も集積回路（IC）がぎっしり ーICってなに？半導体ってなに？ー	1	中学・高校・高専・予備校
	自動車の出来るまで ーものづくりの現場を見てみようー	11	高校・高専・予備校
	日本刀に学ぶマテリアル工学	1	小学・中学・高校・予備校
	医療に役立つ材料ーバイオマテリアルー	2	高校・高専
	身のまわりで活躍する先端材料 ー医療からボーイング787までー	2	高校・高専
	高性能なものづくりを支える新材料 ーサイエンスとエンジニアリングー	1	高校・予備校
	電子で見る原子の世界 ー電子顕微鏡による材料の診断ー	1	中学・高校・高専・予備校
	材料の内部をのぞいてみよう ーナノやミクロの世界でみるマテリアルー	1	高校・高専・予備校

	世界最強！日本磁石研究最前線 ー世界を変えた強力磁石。レアメタル危機を救え！ー	3	中学・高校・高専・予備校
	超伝導体による浮上実験ー超伝導体と磁石はどう違うか？ー	19	小学・中学・高校・高専・予備校
	電気のいろいろな作り方ー身近なもので電気をつくろうー	3	小学生
	再生可能エネルギー利用の今とこれから ー地球環境の視点からー	4	小学・中学・高校・予備校
	エネルギーを操る革新的なマテリアルたち ー太陽電池，超伝導，革新的エネルギー・マテリアルー	1	中学・高校・高専・予備校
	マテリアルの資源とリサイクル ー持続型循環社会をめざしてー	1	高校・予備校
	魚のすみやすい川づくり	1	中学・高校
	長〜い橋が風で揺れる！？ー揺れを小さくする技術とは？ー	2	中学・高校・高専・予備校
	総合的学問「建築」への招待	2	高校
	データ科学でキケンを予測するーインフルエンザなどの感染流行や洪水などの自然災害を予測して危険から身を守るー	1	中学・高校・高専・予備校
	災害で死なない心構え ー東日本大震災の教訓ー	2	小学・中学・高校・高専・予備校・一般
	生物の創り出すナノ世界を覗き見る ー生物を理解するための情報工学と物理ー	3	小学・中学・高校・高専・予備校
	体の健康を観察と工学計算で魅せます。 ー血管、がん、肌、毛髪、歯骨、肝臓までー	1	高校・高専・予備校
	マイクロ波化学が化学を変える ー電子レンジでグリーンイノベーションー	1	小学・中学・高校・高専・予備校
	科学を装ったニセモノの世界 ー疑似科学にだまされるな！ー	3	中学・高校・高専・予備校
	選択式クイズで簡単にわかる現代物理の不思議な世界 ー時間とは？光とは？物質とは？原発は？宇宙は？ー	1	高校・高専・予備校
	正多面体のはなしー折り紙でいろいろな立体をつくろうー	2	小学・中学・高校・高専・予備校
	数学好きになる簡単な公式ー難しい公式や易しい公式を覚えるとき、いつも「なぜ」という疑問をもつ習慣を付けること。すると不思議なことに数学は必ず易しくて面白い得意な科目に大化けする	4	中学・高校・高専・予備校
	工学部ってどんなところ？	2	高校・予備校
	レゴ®シリアスブレイク™を用いた自分探し入門 ーレゴ®・ブロック？遊び？ー	1	小学・中学・高校・高専・予備校
平成27年度	もてる男の顔認証 ーバイオセキュリティの世界ー	8	小学・中学・高校・高専・予備校・一般
	思考するコンピュータの実現に向けて	1	高校・高専
	情報工学のもたらす世界探訪 ー情報工学部の可能性は∞ー	7	小学・中学・高校・高専・予備校
	情報工学のもたらす世界探訪 ーコンピュータと人工知能ー	4	高校・高専
	技術者ってかっこよくって、わるくない ーアニメや映画にみる技術者の姿ー	8	小学・中学・高校・高専・予備校
	話せないことと、その支援方法	1	小学・中学・高校・高専・一般
	画像の引き算技術で見つかる悪性腫瘍 ーセカンドオピニオンで見落としを減らす！ー	1	高校・高専・予備校
	どうして、いろいろ感じたり、動いたり出来るの？ ー感覚・行動と脳の関係ー	1	高校・高専
	数学は貴方達を守ってくれる!! ー情報セキュリティと数学ー	2	高校・高専
	人間の見るしるしをしらべてロボットの見るしるしをつくってますー脳の視覚のしるしをコンピューターで実現ー	5	小学・中学・高校・高専・予備校・一般

迷路とマイクロマウス ー人工知能ってなにー	1	小学・中学・高校
「鉄&鉄子」の楽しみ ー身近な電車の中の先端技術ー	1	高校・高専
マイクロロボットの不思議 ー消化管内走行カプセルー	1	高校・高専
蝶の飛翔メカニズムと世界初！蝶ロボットの開発 ー蝶が作る不思議な渦！何故、蝶は飛ぶことができるのか？ー	2	高校・高専・予備校
見えない“流れ”を視る！ ー何故、ボールは変化する？何故、昆虫は飛ぶことができる？ー	5	高校・高専・予備校
人型レスキューロボットコンテストとプロジェクト型学習	5	中学・高校・高専・予備校
生物の動きを真似たマイクロマシンと磁場 ー先端医療デバイスからアミューズメントロボットまでー	7	高校・高専・予備校
人のためのロボット	3	高校・高専
ニューラルネットのロボットへの応用 ー脳をまねてロボットを動かすはなしー	3	高校
誰でも簡単！ブロックロボット製作 ー簡単にロボットを作ってみたくないですか？ー	11	小学・中学・高校・高専・
未来に挑戦 マイクロ加工技術 ー電子機器、グリーンデバイス、医療への適用ー	1	小学・中学・高校・高専・予備校
スマホもゲームもパソコンも自動車も集積回路（IC）がぎっしり ーICってなに？半導体ってなに？ー	3	中学・高校・高専
日本刀に学ぶマテリアル工学	1	小学・中学・高校・予備校
医療に役立つ材料～バイオマテリアル～	1	高校・高専
最先端のハイテクを支える錯塩の科学に触れよう！ ー制がん剤から新幹線までー	2	中学・高校・高専・予備校
高品質・高性能なもののづくりを支える新材料 ーサイエンスとエンジニアリングー	1	高校・高専・予備校
ものづくりで世界に羽ばたく ー分子の世界からヒトの身体までー	2	高校・高専・予備校
世界最強！日本磁石研究最前線 ー世界を変えた強力磁石。レアメタル危機を救え！ー	1	中学・高校・高専・予備校
超伝導体による浮上実験 ー超伝導体と磁石はどう違うか？ー	16	小学・中学・高校・高専・予備校
電気のいろいろな作り方 ー身近なもので電気をつくろうー	2	小学
再生可能エネルギー利用の今とこれから ー地球環境の視点からー	4	小学・中学・高校・予備校
マテリアルの資源とリサイクル ー持続型循環社会をめざしてー	1	高校・予備校
エコボ・ワークショップ！植木鉢から学ぶ身近な自然と日本の文化 ー自分でデザインした植木鉢をつくって植物を育てようー	1	小学・中学・高校・高専・予備校・一般
魚のすみやすい川づくり	1	中学・高校
長～い橋が風で揺れる！？ ー揺れを小さくする技術とは？ー	1	高校・高専
災害で死なない心構え ー東日本大震災の教訓ー	3	小学・中学・高校・高専・予備校・一般
生物の創るナノ世界 ー顕微鏡と情報工学が魅せる世界ー	1	小学・中学・高校・高専・予備校
観察と物理計算で明かす体の不思議 ー皆さんの血流、がん増殖、肌の代謝、再生医療までー	4	中学・高校・高専・予備校・一般
電子レンジで化学する？！ ー電磁波エネルギー利用のグリーンテクノロジーー	1	小学・中学・高校・高専・予備校

平成28年度	宇宙とは何か？時間とは何か？人間とは何か？	2	高校・高専・予備校
	相対性理論と4次元時空間－アインシュタインが目指したもの－	1	高校・高専・予備校
	選択クイズで簡単にわかる現代物理の不思議な世界 －時間とは？光とは？物質とは？原発は？宇宙は？－	6	中学・高校・高専・予備校・一般
	正多面体のはなし －折り紙でいろいろな立体をつくろう－	1	小学・中学・高校・高専・予備校
	数学好きになる簡単な公式－難しい公式や易しい公式を覚えるとき、いつも「なぜ」という疑問をもつ習慣を付けること。すると不思議なことに数学は必ず易しくて面白い得意な科目に大化けする－数学を生涯の良き友とする極意の秘伝－	3	中学・高校・高専・予備校
	工学部ってどんなところ？	2	高校・予備校
	レゴ®シリアスプレイ™を用いた自分探し入門 －レゴ®・ブロック？遊び？－	2	小学・中学・高校・高専・予備校
	もてる男の顔認証 －バイオセキュリティの世界－	13	小学・中学・高校・高専・予備校・一般
	数学は貴方達を守ってくれる!! －情報セキュリティと数学－	1	高校・高専
	思考するコンピュータの実現に向けて	3	高校・高専
	迷路とマイクロマウス －人工知能ってなに－	2	小学・中学・高校
	情報工学のもたらす世界探訪 －コンピュータと人工知能－	5	高校・高専
	情報工学のもたらす世界探訪 －情報工学部の可能性は∞－	10	小学・中学・高校・高専・予備校
	技術者ってかっこよくって、わるくない －アニメや映画にみる技術者の姿－	5	小学・中学・高校・高専・予備校
	マイクロロボットの不思議 －消化管内走行カプセル－	1	高校・高専
	蝶の飛翔メカニズムと世界初！蝶ロボットの開発 －蝶が作る不思議な渦！何故、蝶は飛ぶことができるのか？－	1	高校・高専・予備校
	見えない“流れ”を視る！ －何故、ボールは変化する？何故、昆虫は飛ぶことができる？－	1	高校・高専・予備校
	ロボットから学ぶ人間の不思議 －人の感覚を探る－	2	中学・高校・高専
	人型レスキューロボットコンテストとプロジェクト型学習	2	中学・高校・高専・予備校
	人のためのロボット	2	高校・高専
	ロボットたちと遊ぼう！	10	小学・中学
	誰でも簡単！ブロックロボット製作 －簡単にロボットを作ってみたくないですか？－	10	小学・中学・高校・高専
	スマホもゲームもパソコンも自動車も集積回路（IC）がぎっしり －ICってなに？半導体ってなに？－	2	中学・高校・高専
	化学と機械の境界から見たものづくり －技術者の抱える課題とは－	1	高校・高専
	ものづくりで世界に羽ばたく －分子の世界からヒトの身体まで－	1	高校・高専・予備校
	フォーミュラカーを自作してレース（全日本学生フォーミュラ大会）に出場！ －学生フォーミュラチームはバーチャルカンパニー－	1	高校・高専・予備校
	化学におけるセレンディピティー －あなたも目指せノーベル賞－	2	高校・高専
	高品質・高性能なものづくりを支える新材料 －サイエンスとエンジニアリング－	2	高校・高専・予備校
	世界最強！日本磁石研究最前線 －電気・ハイブリッド自動車実用化の切り札！－	1	中学・高校・高専・予備校

超伝導体による浮上実験 ー超伝導体と磁石はどう違うか？ー	11	小学・中学・高校・高専・予備校
電気のいろいろな作り方 ー身近なもので電気をつくろうー	1	小学
再生可能エネルギー利用の今とこれから ー地球環境の視点からー	2	小学・中学・高校・予備校
電池の科学 ー古代バグダット電池から先進の燃料電池までー	2	中学・高校・高専
エネルギーを操る革新的なマテリアルたち ー太陽電池、超伝導、革新的エネルギー・マテリアルー	1	中学・高校・高専・予備校
マテリアルの資源とリサイクル ー持続型循環社会をめざしてー	1	高校
“竹”のチカラ ーやっかい物に秘められたすごい力ー	1	小学・中学・高校・高専
長～い橋が風で揺れる！？ ー揺れを小さくする技術とは？ー	1	高校・高専
総合的学問「建築」への招待	1	高校
東日本大震災の教訓 ー災害時に自分と家族を守る方法ー	1	小学・中学・高校・高専・予備校・一般
観察と計算予測で明かす体の不思議 ー皆さんの血流、がん増殖、肌の代謝、再生医療までー	2	中学・高校・高専・予備校・一般
医療に役立つ材料 ーバイオマテリアルー	5	高校・高専・一般
どうして、いろいろ感じたり、動いたり出来るの？ ー感覚・行動と脳の関係ー	2	高校・高専
人間の見るしくみをしらべてロボットの見るしくみをつくってます ー脳の視覚のしくみをコンピューターで実現ー	3	中学・高校・高専・予備校・一般
身の回りのバイオテクノロジー ー酵素パワーの真実ー	2	中学・高校・高専
微生物の世界に潜む泥棒さんを探せ！ ー細菌間相互作用を紐解き工学に活かすー	2	中学・高校・高専・予備校
電子レンジで化学する？！ ー電磁波エネルギー利用のグリーンテクノロジーー	1	小学・中学・高校・高専・予備校
スーパーボールを作ろう ー水に溶けるプラスチックー	3	小学
働く有機分子たち	1	中学・高校
選択クイズで簡単にわかる現代物理の不思議な世界 ー身近な家電から映画の世界や宇宙までー	2	中学・高校・高専・予備校・一般
材料の元になる元素はどこからやってきたの？ ー宇宙・星の一生から地球へー ー元素の旅ー	1	中学・高校・高専・予備校
大学生による深宇宙の探査 ー超小型深宇宙探査機「しんえん2」ー	3	高校・高専・予備校
正多面体のはなし ー折り紙でいろいろな立体をつくろうー	1	小学・中学・高校・高専・予備校
数学好きになる簡単な公式ー公式は丸暗記せず、いつも「なぜ」という疑問をもつ習慣をつけること。必ず新方式入試で求められる考える力が身につくー ー数学を生涯の良き友とする極意の秘伝ー	3	中学・高校・高専・予備校
面白い整数の世界を訪ねてみよう ー巡回する整数ー	2	高校・高専
福澤諭吉（ふくざわゆきち）さんから学ぼう ー福澤諭吉の生涯と文明論ー	1	中学・高校・高専・予備校
工学部ってどんなところ？	3	高校・予備校

大学見学時の模擬授業含む

5. 1. 5 情報公開

大学院工学研究院・工学府・工学部の情報公開の実施状況を表 5. 1. 5 に示す。

表 5. 1. 5 各種情報公開の現状

現在公開（公表） している情報等	編集方針	年間発行回数、 発行時期	公開・情報提供先	編集組織の名称
大学院工学研究院・工学府・工学部自己点検・評価報告書	大学院工学研究院・工学府・工学部とその関連部局における自己点検・評価を行い、その結果を公表する。	1 回 2018 年 3 月	大学公式ホームページ 上で、学内外へ公開	大学院工学研究院 部局評価委員会

5.2 学生の国際交流

表5. 2. 1 外国人留学生(国籍別・課程別・費用別)在学状況一覧表

◎外国人留学生在学状況 平成28年5月1日現在

(単位：人)

国 籍			中国	韓国	マレーシア	インドネシア	ベトナム	フランス	タイ	オーストラリア	台湾	インド	パングラデシュ	ブラジル	シリア	イラン	スリランカ	エジプト	モンゴル	フィリピン	ナイジェリア	マダガスカル	パレスチナ	モロッコ	ウクライナ	ルーマニア	ペルー	メキシコ	トルコ	カナダ	ポルトガル	アルジェリア	コロンビア	ガーナ	日本	ミャンマー	コスタリカ	アメリカ	合計		
所属・課程・費用別等																																									
工学部 ・ 工学研究科	課程別	博士後期課程	9	2	1	2		1	1			2						3	3	1	3				2	1		2	1			1							35		
		博士前期課程	25	2		1	4	1	1		1		3				1					1		1	1			1					1	3	1	1	1		50		
	内 訳	学 部 生	7	2	1		1																																11		
		研究生/聴講生/短期	10	5				5			2								2																			1	25		
	費用別	国 費	4			2							1						2	2	1					2	1		1	1			1	1			1	1		21	
		本国政府派遣																									2											0			
	内 訳	私 費	47	11	2	1	5	7	2		3	2	2				1	3	1		4		1	1				1	1					3	1			1	100		
		JASSO																																					0		
	国 籍		小 計	51	11	2	3	5	7	2	0	3	2	3	0	0	0	1	5	3	1	4	0	1	1	2	1	1	2	1	0	0	1	1	3	1	1	1	1	1	121
	情報工学部・情報工学府	課程別	博士後期課程	5			6	2		5		1	1	1																										21	
博士前期課程			7	2	3	5			1			1										1																	20		
内 訳		学 部 生	1	3	5	1			1																															11	
		研究生/聴講生/短期	1		4		7	1	2	1	1	1																										18			
費用別		国 費				1	1		1																														3		
		本国政府派遣																																					0		
内 訳		私 費	14	5	12	11	6	1	7	1	2	3	1										1																64		
		JASSO					2		1																													3			
国 籍		小 計	14	5	12	12	9	1	9	1	2	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	70	
生命体工学研究科		課程別	博士後期課程	10	3	7	3	1		1			14				1	1					2							1	1	1								47	
	博士前期課程		14			1	1	1		1		2				1			1										1										25		
	内 訳	研究生/聴講生							1			1																											2		
		国 費			2	1			2			3									2			1															13		
	費用別	本国政府派遣	1																																				1		
		私 費	23	3	6	3	2		1		1	14				2	1						1						1	1									60		
	内 訳	JASSO																																					0		
国 籍		小 計	24	3	8	4	2	0	3	0	1	17	0	0	2	1	0	1	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	74	
合 計	課程別	博士後期課程	24	5	8	11	3	1	7	0	1	17	1	0	1	1	0	3	3	2	3	0	2	0	2	1	0	2	2	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	103	
		博士前期課程	46	4	4	7	5	1	3	0	2	3	3	0	1	0	1	1	0	1	1	1	1	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	3	1	1	1	0	95		
	内 訳	学 部 生	8	5	6	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22		
		研究生/聴講生	11	5	4	0	7	6	3	1	3	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	45	
	費用別	国 費	4	0	2	4	1	0	3	0	0	3	1	0	0	0	0	2	2	3	0	0	1	0	2	1	0	1	1	1	1	1	1	0	0	1	1	0	37		
		本国政府派遣	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1			
	内 訳	私 費	84	19	20	15	13	8	10	1	6	19	3	0	2	1	1	4	1	0	4	1	2	1	0	0	1	1	1	1	0	0	3	1	0	0	0	1	224		
		JASSO	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3		
	国 籍		合 計	89	19	22	19	16	8	14	1	6	22	4	0	2	1	1	6	3	3	4	1	3	1	2	1	1	2	2	2	1	1	1	3	1	1	1	1	265	

※ JASSOは、独立行政法人日本学生支援機構による大交流計画奨学金・留学生交流支援制度(短期受入れ)・SSプログラムによって在籍する者

※ 研究生/聴講生は、協定校等からの特別聴講(研究)学生を含む

表5. 2. 2 外国人留学生（学科別・専攻別）在学状況一覧

(平成28年5月1日現在) (単位：人)

所 属 区 分	機 械 知 能 工 学 科			建 設 社 会 工 学 科			電 気 電 子 工 学 科			応 用 化 学 科		総 合 シ ス テ ム 工 学 科	合 計
	機 械 知 能 工 学 専 攻			建 設 社 会 工 学 専 攻			電 気 電 子 工 学 専 攻			マテリアル工学科 物質工学専攻		先端機能システム工学専攻	
	機 械 工 学 コ ー ス	宇 宙 工 学 コ ー ス	知 能 制 御 工 学 コ ー ス	建 築 学 コ ー ス	地 域 環 境 デ ザ イ ン コ ー ス	都 市 再 生 デ ザ イ ン コ ー ス	シ ス テ ム エ レ ク ト ロ ニ ク ス コ ー ス	電 気 エ ネ ル ギ ー 学 コ ー ス	電 子 デ バ イ ス コ ー ス	応 用 化 学 コ ー ス (学 科)	マ テ リ ア ル 工 学 コ ー ス (学 科)		
博 士 後 期 課 程	5	5	0	2			1	8	1	4	0	9	35
博 士 前 期 課 程	8	2	4	7			2	1	0	3	4	18	49
学 部 生 2 年 生 以 上	3	1	2	1			0	0	0	1	1	0	9
学 部 生 1 年 生	2			0			0			0	0	0	2
研 究 生 ・ 聴 講 生	4			2			1			1	2	1	11
短 期 留 学 生	7			3			0			2	1	1	14
合 計	43			15			14			11	8	29	120

表5.2.3 学生の海外派遣

年度	国名	交流協定校	派遣内容	派遣学生数（単位：人）					備考
				工学部	工学府	情報工学部	情報工学府	生命体工学研究科	
24	韓国	韓国交通大学校	相互交流	13		1			
		昌原大学校	相互交流	8					
	オーストラリア	ウーロンゴン大学	語学研修			1			
		シドニー工科大学	交流協定			3			
	フランス	ロレーヌ大学	交流協定		1				
		サンテティエンヌ国立高等鉱山学院	短期留学		5				
	タイ	ADAMAS (THAILAND) CO., LTD.	インターンシップ			1			
		タマサート大学シリンドホーン国際工学部	語学研修			1			
		キングモンクット工科大学	語学研修			1			
			短期留学			4	2		
			語学研修			1			
	台湾	台湾科技大学	短期留学				2		
			短期留学			3	1		
			短期留学			6	1		
	トルコ	Gebze Institute of Technology	短期留学					1	
	インド	Nihon Technology Private Limited	インターンシップ			1			
	中国	デンソーソフトウェア上海 有限会社	インターンシップ				1		
	マレーシア	三井住友銀行	インターンシップ					1	
	アメリカ	ポートランド州立大学	語学研修			1			
		オールドドミニオン大学	語学研修	10					
		クラークソン大学	短期研修			2	1		
		ポートランド州立大学	語学研修			3			
	イギリス	サリー大学	語学研修		7		5		
		ニューカッスル大学	語学研修			2			
		イーストアングリア大学	語学研修			3			
	ニュージーランド	Massey University	短期留学					1	
		オークランド工科大学	語学研修			3			
	カナダ	ビクトリア大学	語学研修			5			
		ブリティッシュコロンビア大学	語学研修			3			
25	フランス	航空宇宙高等学院	交流協定		1				
		サンテティエンヌ国立高等鉱山学院	短期派遣		5				
	ノルウェー	テレマーク大学	短期派遣	2					
	ドイツ	クラウスタール工科大学	短期派遣	3					
		ルール大学ボーフム	短期派遣					1	
	韓国	昌原大学校	短期派遣	8					
		韓国交通大学校	相互交流	14					
		ハンバット大学	交流協定				3		
	アメリカ	オールドドミニオン大学	語学研修	10					
		テキサス大学エルパソ校	交流協定		1				
		ポートランド州立大学	語学研修			2			
		クラークソン大学	交流協定			2	1		
			短期派遣			2	2		
		カリフォルニア大学	短期派遣					1	
		Trial Engineering Inc.	インターンシップ			1			
	イギリス	サリー大学	語学研修		7		2	3	
		イーストアングリア大学	語学研修			3			
	タイ	キングモンクット工科大学	語学研修			2			
			短期派遣			2	2		
	マレーシア	プトラ大学	語学研修			4			
			交流協定					1	
			短期派遣	8				5	
		M S S C	短期派遣	5		5			
			国際シンポジウム		16		1	37	
			国際インターンシップ		10			21	

表5.2.3 学生の海外派遣

年度	国名	交流協定校	派遣内容	派遣学生数（単位：人）					備考
				工学部	工学府	情報工学部	情報工学府	生命体工学研究科	
25	マレーシア	UMW TOYOTA MOTOR SDN. BHD	インターンシップ		1		1		
		マレーシア工科大学	語学研修			1			
			交流協定				1		
	ベトナム	F P T 大学	語学研修			1			
	ニュージーランド	クライストチャーチポリテクニク	語学研修			3			
		オークランド工科大学	語学研修			2			
	オーストラリア	ウーロンゴン大学	語学研修			5			
		アデレード大学	語学研修			1			
		モナシュ大学	語学研修			3			
		シドニー工科大学	短期派遣					1	
	カナダ	ビクトリア大学	語学研修			4			
		ブリティッシュコロンビア大学	語学研修			1			
26	台湾	台湾科技大学	短期派遣			3	8		
		台湾中央研究院	短期派遣	7					
	中国	陽明大学	短期派遣					2	
	韓国	スンミョン女子大学	短期派遣	4	5				
		釜山大学校	短期派遣	3	2		3		
		昌原大学校	相互交流	11					
			短期派遣		4				
		ハンバット大学校	短期派遣				3		
		韓国交通大学校	相互交流	14					
	中国	香港科技大学	短期派遣		2				
		揚州大学	短期派遣	2	2				
		アジア太平洋航空宇宙技術国際シンポジウム2014	短期派遣		1				
		大連理工大学	短期派遣					1	
	台湾	中央研究院	短期派遣	1	3				
		台湾科技大学	短期派遣	3	12				
		国立陽明大学	短期派遣					2	
	ベトナム	F P T 大学	語学研修			2			
		FPT company	短期派遣			1	5		
		ベトナム科学技術アカデミー	短期派遣					2	
	タイ	キングモンクット工科大学	短期派遣	14	1	1	9		
			語学研修			3			
			交流協定			1			
	マレーシア	マレーシアブトラ大学	短期派遣	27	9	6		45	
			語学研修			4			
			交流協定			3			
		イオンマレーシア	インターンシップ	1	2		2		
		トヨタ	インターンシップ			1		1	
		トヨタ車体	インターンシップ	2			1	1	
		ミネベア	インターンシップ	2					
		J E T R O	インターンシップ				1		
		キヤノン	インターンシップ	1		1			
		トップサーモ製造	インターンシップ	1					
		王子製紙	インターンシップ	2					
		パナソニック	インターンシップ			3			
		マレーシア工科大学	語学研修			2			
			短期派遣				1		
	シンガポール	シンガポール国立大学	短期派遣					1	
	インドネシア	バンドン工科大学	語学研修			2			
			短期派遣					1	
	インド	ラマン研究所	短期派遣					1	
	アルメニア・カザフスタン	アルメニア生物技術センター 抗感染症製薬研究所	ビザ特留学 J A P A N				1		
	U A E	ドバイ	短期派遣		4				

表 5. 2. 3 学生の海外派遣

年度	国名	交流協定校	派遣内容	派遣学生数（単位：人）					備考
				工学部	工学府	情報工学部	情報工学府	生命体工学研究科	
26	トルコ	イスタンブール工科大学	短期派遣					1	
		ゲブセ工科大学	短期派遣					1	
	イギリス	ケンブリッジ大学	インターンシップ		1				
		I N T O ロンドン	語学研修			3			
	イギリス	イーストアングリア大学	語学研修			1			
		ヘリオット・ワット大学	短期派遣				1		
		サリー大学	語学研修		10		1	1	
	フランス	パリ 高等機械工学院	短期派遣		2				
		サンテティエンヌ国立高等鉱山学院	短期派遣		5				
		航空宇宙高等学院	短期派遣		1				
		EFREI	短期派遣			1	1		
	ドイツ	クラウスタール工科大学	短期派遣	1	4				
		ゲーテ大学	短期派遣		1				
		ルール大学	短期派遣					1	
	イタリア	サレント大学	短期派遣		4				
	スペイン	株式会社バロンQ	短期派遣					1	
	オーストリア	グラーツ大学	短期派遣					1	
	デンマーク	デンマーク工科大学	短期派遣		1				
	ノルウェー	テレマーク大学	短期派遣	3	2				
	アメリカ	JAMCO（ボーイング社）	インターンシップ	3	1	1			
		テキサス大学エルパス校	短期派遣	17	3				
		カリフォルニア州立大学	インターンシップ		7				
		テネシー大学	インターンシップ		2				
		ポートランド州立大学	語学研修			1			
		クラークソン大学	技術交流			1	3		
			短期派遣			1	3		
		ニューヨーク市立大学	短期派遣				4		
		SynTest Technologies Inc	短期派遣				3		
		ハーバード大学	技術大会参加			3	3		
		カリフォルニア大学	短期派遣					1	
		ハワイ大学	短期派遣					1	
		マサチューセッツ工科大学	短期派遣					1	
		サンディエゴ	技術大会参加					4	
		オールドドミニオン大学	語学研修	10					
	カナダ	ビクトリア大学	語学研修			6			
		ブリティッシュコロンビア大学	語学研修			2			
	ブラジル	ジョアンペソア	技術大会参加			1		3	
	オーストラリア	アデレード大学	語学研修			1			
		ウーロンゴン大学	語学研修			2			
		シドニー工科大学	短期派遣					1	
			語学研修			1			
	ニュージーランド	クライストチャーチポリテクニク	語学研修			1			
		オークランド工科大学	語学研修			5			
		カンタベリー大学	語学研修			1			
		ユニテック工科大学	短期派遣					1	
27	韓国	釜山大学校	短期派遣	4	11		3	1	
		韓国交通大学校	学生交流	13					
		昌原大学校	短期派遣	6	4	1	2		
		韓国電子部品研究院	短期派遣	6	1	1		1	
		ハンパット大学校	短期派遣				1		
		慶北大学校	短期派遣					1	
	中国	揚州大学	短期派遣	4	1				
		東北大学	短期派遣		6				
		清華大学	短期派遣				3		
		合肥	技術大会参加					6	

表 5. 2. 3 学生の海外派遣

年度	国名	交流協定校	派遣内容	派遣学生数（単位：人）					備考
				工学部	工学府	情報工学部	情報工学府	生命体工学研究科	
27	台湾	台湾科技大学	短期派遣			6			
			短期派遣				11		
		陽明大学	短期派遣					2	
		台北科技大学	短期派遣	10	5	3		2	
		台湾大学	短期派遣	15	7				
	ベトナム	FPT大学	短期派遣			5			
	タイ	キングモンクット工科大学	短期派遣	10		1	10		
	マレーシア	マレーシアプトラ大学	短期派遣	15	6	8	6	56	
		マレーシア工科大学	短期派遣	1		4	2		
		マレーシア日系企業	インターンシップ	15	5	3	9	1	
	インドネシア	バンドン工科大学	短期派遣			1			
	インド	インド工科大学	短期派遣					3	
		アンナン大学	短期派遣					1	
	イギリス	サリー大学	語学研修		8		3	1	
		INTOロンドン	語学研修			2			
		マンチェスター大学	短期派遣					1	
	フランス	サンテティエンヌ国立高等鉱山学院	短期派遣		3			2	
		バリ高等機械工学院	短期派遣		1				
		航空宇宙高等学院	短期派遣		1				
		国立科学研究センター研究所	短期派遣		1				
		ボルドー大学	短期派遣					1	
	ドイツ	クラウスタール工科大学	短期派遣	3	3				
		シュトゥットガルト大学	短期派遣				4		
	イタリア	サレント大学	短期派遣		3				
	ノルウェー	テレマーク大学	短期派遣		5				
	アメリカ	オールドドミニオン大学	語学研修	10					
		ハワイ	短期派遣					4	
		テキサス大学エルパソ校	短期派遣	6	5				
		南カルフォルニア大学	短期派遣	9	4				
		ヒューストン大学	短期派遣		1				
		ポートランド州立大学	語学研修			2			
		カブランパークレー校（語学学校）	語学研修			1			
		ニューヨーク市立大学	短期派遣			1	3		
		ハーバード大学	技術大会参加			6	6		
		スタンフォード大学	短期派遣				4		
		クラークソン大学	短期派遣			2	3		
		サンディエゴ	技術大会参加					7	
	カナダ	ビクトリア大学	語学研修			1			
		ブリティッシュコロンビア大学	語学研修			3			
		トロント	短期派遣				2		
		CSLI（語学学校）	短期派遣			1			
	オーストラリア	クイーンズランド大学	語学研修			2			
		UOW大学	語学研修			1			
	ニュージーランド	カンタベリー大学	語学研修			3			
		オークランド工科大学	語学研修			1			
		ウィルキンソン語学学校	語学研修			1			
		ユニテック工科大学	短期派遣					3	
28	アメリカ	ポートランド州立大学	語学研修			2			
		オールドドミニオン大学	語学研修	7					
		テキサス大学エルパソ校	短期派遣	11	5				
		セントラルフロリダ大学	長期派遣					1	
		ペンシルベニア州立大学	長期派遣					1	
		ニューヨーク市立大学ブルックリン校	短期派遣			1	5		
		カリフォルニア大学	短期派遣			6	3		

表5.2.3 学生の海外派遣

年度	国名	交流協定校	派遣内容	派遣学生数（単位：人）					備考
				工学部	工学府	情報工学部	情報工学府	生命体工学研究科	
28	アメリカ	イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校	短期派遣			0	2		
		スタンフォード大学、その他企業見学	短期派遣			1	3		
		ボツニックシリコンバレー研、スタンフォード大学、CSUモントレーベイ校、他	短期派遣	5	6				
	イギリス	イングリッシュ・インチェスター	語学研修			1			
	イタリア	サレント大学	短期派遣	3	2				
	インド	End Poverty India	短期派遣	1					
		マニパル大学	短期派遣					1	
		ラマン研究所	短期派遣					1	
		インド工科大学	短期派遣					5	
	オーストラリア	クイーンズランド大学	語学研修			1			
		クイーンズランド工科大学	語学研修			1			
	カナダ	Eurocentres Vancouver	語学研修			1			
		ブリティッシュコロンビア大学	語学研修			1			
		トロント小児病院	短期派遣				1		
		ビクトリア大学	語学研修			2	1		
	韓国	昌原大学校	短期派遣	6	4	4			
		韓国交通大学校	短期派遣	8		1			
		ハンバット大学	短期派遣				2		
		啓明大学	短期派遣					1	
		韓国電子技術研究院 スンミョン女子大学 韓国交通大学校	短期派遣	2	5		3		
		釜山大学校	短期派遣	10	1		3	2	
		浦項工科大学	短期派遣					17	
	シンガポール	五洋建設	インターンシップ	2					
	スペイン	カタルーニャ工科大学	短期派遣					1	
	タイ	キングモンクット工科大学	短期派遣	3	3	6	16		
		ヴィディヤシリメディ工科大学	短期派遣		8				
	台湾	アカデミア・シニカ	短期派遣	10		1			
		台北科技大学	短期派遣	4	1				
		台湾科技大学	短期派遣			4	15	2	
		陽明大学	短期派遣					2	
		台湾大学	短期派遣			17			
		台中 東海大学	短期派遣	2	4				
		中區再生基地	短期派遣		8				
	中国	合肥工業大学	短期派遣				3		
		青島理工大学	短期派遣		3				
		揚州大学	短期派遣	18					
		東北大学	短期派遣		5				
		中国上海交通大学・同済大学	短期派遣	6	13				
	ドイツ	クラウスタール工科大学	短期派遣	4	2				
		シュトゥットガルト大学	短期派遣				4		
		マックスプランク生物物理学研究所	短期派遣				2		
	ニュージーランド	オークランド工科大学	短期派遣	5	1	3			
		カンタベリー大学	短期派遣			2		1	
		Rororua English Language Academy	語学研修			1			
	ノルウェー	サウスイーストノルウェー大学	短期派遣	3	5				
	フィジー		語学研修			1			
	フランス	ロレーヌ大学	長期派遣		4				
		サンテティエンヌ国立高等鉱山学院	長期派遣		1		1		
		フランス航空宇宙高等学院	長期派遣		3				
		ONERA the French aerospace lab.	短期派遣		1				
		ボワティエ大学	短期派遣	2	1				
		パリ 高等機械工学院	短期派遣	1	1				

表5.2.3 学生の海外派遣

年度	国名	交流協定校	派遣内容	派遣学生数（単位：人）					備考
				工学部	工学府	情報工学部	情報工学府	生命体工学研究科	
28	ベトナム	FPT大学	短期派遣			3	3		
		清水建設	インターンシップ	1					
	ボルトガル	ボルト大学	短期派遣					1	
	香港	五洋建設	インターンシップ	1					
	マレーシア	マレーシアブトラ大学	短期派遣	38	8	13	5	47	
		日野自動車	インターンシップ			1			
		UMW TOYOTA MOTOR Sdn, Bdh	インターンシップ		1	1			
		イオン	インターンシップ	2		2			
		東洋エンジニアリング	インターンシップ		2	1			
		KDDIマレーシア	インターンシップ	2	1	3			
		山九	インターンシップ	3					
		パナソニックマニュファクチャリング	インターンシップ	1					
		ミネベア	インターンシップ	3					
		日野自動車	インターンシップ	1					
		九電工	インターンシップ		1			1	
	マレーシア	キャノンマシーナリー	インターンシップ			1			
		オルガノ	インターンシップ	1		1			
		トップサーモ	インターンシップ	1					
		シャープ	インターンシップ	1					
		基礎地盤	インターンシップ	1					
	メキシコ	メキシコ国立自治大学	短期派遣	2		2			
	ロシア	サンクトペテルブルク工科大学	短期派遣	2	3				

6. おわりに

この「現状と課題」は、本学がより良い方向に発展行くために、知恵を絞る際の拠り所になるものであり、この度も「現状と課題」を発行することができますことを大変嬉しく思います。関係者からの意見を収集・整理することで現状を確認し、それを分析し課題を見つけることは、改善・進歩のために必要なプロセスです。本学においても、「現状と課題」を通じた現状分析によって対策を検討し、それを講じることによって多くの項目で改善が成されてきました。成果がすぐに現れにくい項目もありますが、アンケート結果を真摯な姿勢で受けとめるべき項目も数多くあります。また、閉塞感を打破するために大胆な改善は必要ですが、「目新しさは無くとも、本学がこれまで評価され、良しとされてきた部分」を、勇気を持って残すことも大切だと考えます。その一方で、海外派遣学生数の増加など数年かけて取り組んできた成果がアンケート結果に反映されてきた事例も見られます。この度、「現状と課題」をまとめるにあたり、それらの舵取りの難しさを改めて考えさせられました。

最後に、平成28年度版「現状と課題」を纏めるに当たり、ご協力いただいた教職員の方々、また、アンケートに答えていただいた本学卒業・修了生ならびに関係者に御礼申し上げます。何卒、本学の更なる持続的な発展のために、今後ともご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

三谷 康範（大学院工学研究院部局評価委員会委員長）

2018年（平成30年）3月

平成29年度 大学院工学研究院部局評価委員会委員

三谷	康範	工学研究院 教授【委員長】
小森	望充	工学研究院 教授【副委員長】
黒木	秀一	工学研究院 教授
陳	沛山	工学研究院 教授
竹中	繁織	工学研究院 教授
鈴木	智成	工学研究院 教授
葉石	研次	工学部事務長
